

【大学院共通科目】

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
9639001	ヘブライ語(初級)	語学	2	前期	火3	手島 勲矢	大学院共通科目	大学院共通科目1
9640001	ヘブライ語(中級)	語学	2	後期	火3	手島 勲矢	大学院共通科目	大学院共通科目2
9616001	サンスクリット(2時間コース)	語学	4	通年	月4	山口 周子	大学院共通科目	大学院共通科目3
9617001	サンスクリット(4時間コース)	語学	8	通年	月5,木5	Klevanov Andrey	大学院共通科目	大学院共通科目4
9633001	ヒンディー語(初級)	語学	4	通年	金5	小松 久恵	大学院共通科目	大学院共通科目5
9659001	ヒンディー語(中級)I	語学	2	前期	火3	西岡 美樹	大学院共通科目	大学院共通科目6
9660001	ヒンディー語(中級)II	語学	2	後期	火3	西岡 美樹	大学院共通科目	大学院共通科目7
9628001	チベット語(初級)	語学	2	前期	月1	高橋 慶治	大学院共通科目	大学院共通科目8
9629001	チベット語(初級)	語学	2	後期	月1	高橋 慶治	大学院共通科目	大学院共通科目9
9630001	チベット語(中級)	語学	2	前期	水1	宮崎 泉	大学院共通科目	大学院共通科目10
9630002	チベット語(中級)	語学	2	後期	水1	宮崎 泉	大学院共通科目	大学院共通科目11
9661001	ポーランド語(初級I)	語学	2	前期	木4	Bogna Sasaki	大学院共通科目	大学院共通科目12
9662001	ポーランド語(初級I)	語学	2	後期	木4	Bogna Sasaki	大学院共通科目	大学院共通科目13
9642001	ポーランド語(中級II)	語学	2	前期	木5	Bogna Sasaki	大学院共通科目	大学院共通科目14
9642002	ポーランド語(中級II)	語学	2	後期	木5	Bogna Sasaki	大学院共通科目	大学院共通科目15
9646001	ロシア語(初級)	語学	2	後期	水2	中村 唯史	大学院共通科目	大学院共通科目16
9647001	ロシア語(中級)	語学	2	前期	水2	中村 唯史	大学院共通科目	大学院共通科目17
9604001	アラブ語(初級)	語学	4	通年	木2	西尾 哲夫	大学院共通科目	大学院共通科目18
9608001	イラン語(初級)	語学	4	通年	火2	杉山 雅樹	大学院共通科目	大学院共通科目19
9620001	シムール語(初級)	語学	4	通年	金1	森 若葉	大学院共通科目	大学院共通科目20
9612001	オランダ語(初級)	語学	2	前期	火3	河崎 靖	大学院共通科目	大学院共通科目21
9613001	オランダ語(中級)	語学	2	後期	火3	河崎 靖	大学院共通科目	大学院共通科目22
9624001	スワヒリ語(初級)	語学	2	前期	火3	井戸根 綾子	大学院共通科目	大学院共通科目23
9625001	スワヒリ語(中級)	語学	2	後期	火3	井戸根 綾子	大学院共通科目	大学院共通科目24
M450001	ギリシア語(初級I)	語学	2	前期	金3	西村 洋平	大学院共通科目	大学院共通科目25
M451001	ギリシア語(初級II)	語学	2	後期	金3	西村 洋平	大学院共通科目	大学院共通科目26
M452001	ラテン語(初級I)	語学	2	前期	水1	勝又 泰洋	大学院共通科目	大学院共通科目27
M453001	ラテン語(初級II)	語学	2	後期	水1	勝又 泰洋	大学院共通科目	大学院共通科目28
9610001	インドネシア語I(初級)	語学	2	前期	木5	柏村 彰夫		大学院共通科目29
9611001	インドネシア語II(初級)	語学	2	後期	木5	柏村 彰夫		大学院共通科目30
9626001	タイ語I(初級)	語学	2	前期	木5	弓庭 育子		大学院共通科目31
9627001	タイ語II(初級)	語学	2	後期	木5	弓庭 育子		大学院共通科目32
9631001	ビルマ(ミャンマー)語I(初級)	語学	2	前期	木3	本行 沙織		大学院共通科目33
9637001	ベトナム語I(初級)	語学	2	前期	火2	吉本 康子		大学院共通科目34
9638001	ベトナム語II(初級)	語学	2	後期	水2	吉本 康子		大学院共通科目35
9822001	タイ研修	特殊講義	2	前期	集中	西島 薫		大学院共通科目36
9822002	ベトナム研修	特殊講義	2	前期	集中	西島 薫		大学院共通科目37
9822005	インドネシア研修	特殊講義	2	後期	集中	西島 薫		大学院共通科目38
9822003	戦争と植民地の歴史認識	特殊講義	2	後期	木2	小山 哲,高嶋 航		大学院共通科目39
9822015	次世代グローバルワークショップ	特殊講義	2	通年	集中	落合 恵美子,安里 和晃,Stephane Heim		大学院共通科目40
M603001	科学技術と社会に関わるクリエイション	特殊講義	2	後期	木2	伊勢田 哲治	大学院横断教育科目	大学院共通科目41
JK01001	Introduction-Transcultural Studies (Lecture)	特殊講義	2	前期	月3	安里.VASUDEVA,Wada-Marciano,Kamm		大学院共通科目42
JK02001	Introduction-Transcultural Studies (Tutorium)	演習	2	前期	月4	Bjorn-Ole Kamm		大学院共通科目43
JK03001	Introduction-Introductory seminar (KBR)	演習	2	前期	火2	VASUDEVA, Somdev		大学院共通科目44
JK04001	Introduction-Introductory seminar (SEG)	演習	2	前期	水3	安里 和晃		大学院共通科目45
JK05001	Introduction-Introductory seminar (VMC)	演習	2	前期	火3	Bjorn-Ole Kamm		大学院共通科目46
JK06001	Introduction-Research Skills	演習	2	前期	水4	Bjorn-Ole Kamm		大学院共通科目47
JK07001	Skills for Transcultural Studies I-English	演習	2	前期	水2	ERICSON, Kjell David		大学院共通科目48
JK08001	Skills for Transcultural Studies I-Advanced Japanese	演習	2	前期	金5	田中 草大		大学院共通科目49
JK09001	Foundations I-Seminar (KBR)	特殊講義	2	前期	木4	PASCA, Roman		大学院共通科目50
JK10001	Foundations I-Seminar (SEG)	特殊講義	2	前期	木3	ERICSON, Kjell David		大学院共通科目51
JK11001	Foundations I-Seminar (VMC)	演習	2	前期	火4,火5	Mitsuyo Wada-Marciano		大学院共通科目52
JK11002	Foundations I-Seminar (VMC)	特殊講義	2	前期	集中	印南 美沙子		大学院共通科目53
JK11003	Foundations I-Seminar (VMC)	特殊講義	2	前期	月2	KITSNIK, Lauri		大学院共通科目54
JK12001	Foundations I-Seminar (KBR/SEG)	特殊講義	2	前期	金2	伊勢田 哲治		大学院共通科目55
JK12002	Foundations I-Seminar (KBR/SEG)	演習	2	前期	月2	児玉 聡		大学院共通科目56
JK13001	Foundations I-Seminar (KBR/VMC)	特殊講義	2	前期	木5	張本 研吾		大学院共通科目57

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
JK14001	Foundations 1-Seminar (SEG/VMC)	演習	2	前期	金3,金4	菅野 優香	前期前半	大学院共通科目58
JK14002	Foundations 1-Seminar (SEG/VMC)	演習	2	前期	金3,金4	Fedorova Anastasia	前期後半	大学院共通科目59
JK14003	Foundations 1-Seminar (SEG/VMC)	特殊講義	2	前期	木2	Mitsuyo Wada-Marciano		大学院共通科目60
JK15001	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	2	後期	月5	海田 大輔		大学院共通科目61
JK15002	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	2	後期	金4	川島 隆		大学院共通科目62
JK15003	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	2	後期	月3	湯川 志貴子		大学院共通科目63
JK15004	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	2	後期	水2	Breen John		大学院共通科目64
JK16001	Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquium)	演習	2	後期	火2	VASUDEVA, Somdev		大学院共通科目65
JK17001	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	金2	安里 和晃		大学院共通科目66
JK17002	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	月4	落合 恵美子		大学院共通科目67
JK17003	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	火4	久野 秀二,久野 愛		大学院共通科目68
JK17004	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	金3	矢野,中野,大西,田添		大学院共通科目69
JK17005	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	木2	佐野 真由子		大学院共通科目70
JK17006	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	水2	河合 淳子		大学院共通科目71
JK17007	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	集中	久野 秀二		大学院共通科目72
JK17008	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	不定	RALANDISON,TSILAVO		大学院共通科目73
JK17009	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	水3	IVINGS, Steven		大学院共通科目74
JK19001	Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)	特殊講義	2	後期	水4,水5	Mitsuyo Wada-Marciano		大学院共通科目75
JK19002	Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)	特殊講義	2	後期	火4,火5	Mitsuyo Wada-Marciano		大学院共通科目76
JK21001	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	火2	高嶋 航,村上 衛,ERICSON, Kjell David		大学院共通科目77
JK21002	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	火3	Bjorn-Ole Kamm		大学院共通科目78
JK21003	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	木3	ERICSON, Kjell David		大学院共通科目79
JK21004	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	木2	TAJAN, Nicolas Pierre		大学院共通科目80
JK21005	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	不定	ERICSON, Kjell David		大学院共通科目81
JK23001	Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Lecture)	特殊講義	2	後期	月4	吉井,富井,下垣,内記		大学院共通科目82
JK24002	Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Colloquium)	演習	2	後期	水5	早瀬 篤		大学院共通科目83
JK26001	Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquium)	演習	2	後期	月3	Bjorn-Ole Kamm		大学院共通科目84
JK27001	Research 2-Advanced Japanese	演習	2	後期	金5	田中 草大		大学院共通科目85
JK29001	Research 3&MA Thesis-Research Colloquium	演習	2	後期	不定	安里,VASUDEVA,Wada-Marciano,Kamm,田中	後期修論提出者向け	大学院共通科目86
JK29002	Research 3&MA Thesis-Research Colloquium	演習	2	前期	不定	安里,VASUDEVA,Wada-Marciano,Kamm,田中	前期修論提出者向け	大学院共通科目87
JK30001	Research 2-Advanced English	実習	1	後期	火3	ERICSON, Kjell David		大学院共通科目88
9829001	Heidelberg-Strasbourg Student Workshop	演習	1	後期	不定	Bjorn-Ole Kamm,Sandra Schaal		大学院共通科目89

大学院共通科目1

科目ナンバリング		G-LET49 89639 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（初級）（語学） Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（初級）									
【授業の概要・目的】											
ヘブライ語の文字、母音記号、聖書テキストの伝統、ラビ文学を含む歴史的な言語文化の概要とともに、文法の基礎（母音記号、名詞、人称代名詞、形容詞、前置詞、語根、分詞ほか）を教える。16 - 17世紀の文法学者の意見も紹介しながら、品詞の区別の意義や名詞文の特徴的構造に親しみ、さらに個々の文法事項がもつ聖書解釈上の意義についても解説する。											
【到達目標】											
ヘブライ語の文字と母音記号を認識して、文章を声に出して読めること。ヘブライ語作文ができること。辞書を使えるようになること。また簡単な名詞文の和訳ができること。											
【授業計画と内容】											
1．ヘブライ語の歴史（概観）、2．文字と母音記号、3．音節と区切り、4．形容詞と名詞（単数と複数）、5．形容詞と名詞（ジェンダーと性別他）、6．存在詞と非存在詞、7．現在分詞と名詞、8．語根とピニヤン（導入）、9．カルとニファル、10．ピエルとプアル、11．ヒフィルとフファル、12．ヒトパエルとニファル、13．人称代名詞と接尾辞、14．一般と唯一、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回を当てる場合もある。 * * 内容や順番は授業の進捗状況で多少変化することもある。 * * * 確認クイズは 2 ~ 3 回、学習の区切りで行う。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、小テスト（50%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
授業時に指示する暗記課題や練習問題をする。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

大学院共通科目2

科目ナンバリング		G-LET49 89640 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（中級）(語学) Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（中級）									
【授業の概要・目的】											
動詞（完了形・未完了形・命令形、時制など）のシステム及び動詞を含む文章構造の理解を中心にヘブライ語文法の基礎を学ぶ。語根別の共通変化パターン、および歴史的な語根の混同また時制システムの歴史的な問題を学ぶ。聖書テキストを含む色々な時代のテキストを声に出して読み、テキスト翻訳の中で注意すべき文法的な事項の認識を深める。また聖書テキストの中にある、言葉の結びつきと切り離しの伝統（タアメイ・ミクラー）の重要性も解説する。動詞の理解においては、16 - 17世紀の文法学者の意見も紹介する。											
【到達目標】											
動詞 / 完了・未完了の基本活用を覚えること。語根パターンが生む不規則変化を認識できること。完了・未完了・分詞を含むヘブライ語の文構造を理解し翻訳できること。聖書ヘブライ語の特殊な時制構造を理解すること。辞書を効果的に用いてテキストが複数の可能性で読めること。											
【授業計画と内容】											
1．名詞文と動詞の確認、2．名詞と動詞パラダイムの諸問題、3．完了形（基本）、4．未完了形（基本）、5．不定詞と命令形、6．レヴィータ文法（自動詞、他動詞）、7．レヴィータ文法（時制と時間）、8．語根 / ギズラー、9．W倒置と北西セム語、10．読解聖書、11．読解ラビ文献、12．読解中世文献、13．読解近代文献、14．読解現代文、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回の授業を要する場合もある。 * * 進捗状況をみながら内容や順番は多少変化する。 * * * 学習の区切りで、2~3回の確認クイズをする。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、注解レポート（50%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
-----ヘブライ語（中級）(語学)(2)へ続く-----											

ヘブライ語（中級）(語学)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業時に指示する暗記課題やテキスト読解の予習をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

**(その他（オフィスアワー等）)**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目3

科目ナンバリング		G-LET49 89616 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit(2H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級文法(2時間コース)									
【授業の概要・目的】											
<p>サンスクリット語は南アジア(インド)において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教(仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等)や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。</p>											
【到達目標】											
<p>このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。</p> <p>前期 サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回) 名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回) 代名詞、数詞、複合語(第14-15回)</p> <p>後期 動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回) 年度末テスト(テスト期間) フィードバック期間:フィードバック(第30回)</p> <p>授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。</p>											
----- サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)

**[履修要件]**

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

**[成績評価の方法・観点]**

- ・平常点(練習問題への理解度、および理解への積極性、50点)
- ・年度末筆記試験(50点)。

**[教科書]**

吹田隆道(編著)『実習サンスクリット文法:萩原雲来『実習梵語学』新訂版』(春秋社)ISBN:978-4393101728

必要に応じて、補助資料(プリント)を配布します。

**[参考書等]**

(参考書)

辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波書店)ISBN:978-4000202220

**[授業外学修(予習・復習)等]**

予習:各回の進捗状況に合わせて、原則として次の2つのいずれかを授業中に指示します。

- ・宿題として出された練習問題の解答(訳)を準備してくる。
- ・次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておく。

復習:授業内容を見直すこと(特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す)。

授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目4

科目ナンバリング		G-LET49 89617 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(4時間コース)(語学) Sanskrit(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey			
配当 学年	1回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月5,木5	授業 形態	語学	使用 言語	英語
題目		Sanskrit Grammar									
【授業の概要・目的】											
This course targets at students with no prior knowledge of Sanskrit and offers a systematic introduction to the language. The main focus is laid upon learning the foundations of grammar, developing a basic vocabulary, and acquiring skills in understanding of Sanskrit texts.											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>- to read and write in Devanagari-script (also used for Hindi)</li> <li>- to gain a systematic overview of basic and intermediate grammar of Classical Sanskrit</li> <li>- to develop skills of reading and interpreting simple prose and verse in Classical Sanskrit</li> <li>- to develop basic skills in composing prose sentences in Classical Sanskrit</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>We will largely follow the plan laid out in M. Deshpande ' s manual “ Samskrita-Subodhini: A Sanskrit Primer ” .</p> <p>The overall duration of the course is 30 weeks (15 + 15). We will spend the main bulk of this time (ca. 25 weeks) on the study and practice of Sanskrit grammar. During the final ca. five weeks of the course we will turn to reading of simple Sanskrit texts.</p>											
【履修要件】											
Classes will be held in English with translational help provided by a Japanese TA.											
【成績評価の方法・観点】											
Active participation in the classroom, review of studied materials, biweekly homework.											
【教科書】											
<p>M. Deshpande 『 Samskrita-Subodhini: A Sanskrit Primer 』 ( The University of Michigan Press ) ISBN: 9780891480792</p> <p>E.D. Perry 『 A Sanskrit Primer 』 ( Nabu Press 2011 ) ISBN:178794733</p>											
----- サンスクリット(4時間コース)(語学)(2)へ続く -----											



サンスクリット(4時間コース)(語学)(2)

**[参考書等]**

(参考書)

Arthur A. MacDonell 『A Sanskrit Grammar for Students』 (OUP, 1971)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Homework involves preparing translations from Sanskrit into English and translations from English into Sanskrit. Weekly review of grammatical categories and memorization of vocabulary. The expected preparation time is approximately two to three hours per week.

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目5

科目ナンバリング		G-LET49 89633 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語(初級)(語学) Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 国際教養学部 准教授 小松 久恵			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語(初級)									
【授業の概要・目的】											
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初等文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。											
【到達目標】											
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。インドの公用語であるヒンディー語を通して異文化世界としての北インドについて学び、世界認識の幅を広げる。ヒンディー文字を習得し、ヒンディー語の初級文法と簡単な会話を理解する。											
【授業計画と内容】											
教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。											
前期											
1. 導入【1週】											
2. 文字と発音【4週】											
3. 文法と会話【9週】											
4. 中間試験【1週】											
5. 中間試験のフィードバック【1週】											
後期											
6. 文法と会話【8週】											
7. 文法と絵本・新聞講読【6週】											
8. 期末試験【1週】											
9. 期末試験のフィードバック【1週】											
【履修要件】											
授業には継続的に参加すること。											
----- ヒンディー語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

## ヒンディー語（初級）(語学)(2)

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（30％）と筆記試験（期末30、年度末40）によって評価する。

### 【教科書】

町田和彦『ニューエクスプレス、ヒンディー語』（白水）ISBN:978-4-560-06791-8（「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと）

### 【参考書等】

（参考書）

辞書については初回の授業で紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

授業の前日までに前回の講義内容を見直し、特に前回の練習問題を復習しておく。インド関係の情報に関心を持つこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目6

科目ナンバリング		G-LET49 89659 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語(中級)I Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 西岡 美樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語中級I									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複雑な文章を精読できるようになる。</li> <li>2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。</li> <li>3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。</li> <li>4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：アクバルとビールバル、パンチャタントラ、小話ほか          第6～10週目：インド神話関連の物語          第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（マハーバーラタ、カター・サーガルなど）</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。          また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。</li> <li>・ ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課 - 第12課の文法項目）習得していること。（初級文法でここまで到達していない場合は受講不可）</li> </ul>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への積極的な参加（40%）          期末試験あるいはレポート（60%）</p>											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
<p>（参考書）          授業中に紹介する</p>											
----- ヒンディー語(中級)I(2)へ続く -----											

## ヒンディー語 (中級) I(2)

### ( 関連URL )

<https://www.youtube.com/channel/UCsyoNsqE37tZIkuvqVPTa7g>(Hindi Fairy Tales)  
<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Aacharya)  
<https://www.youtube.com/channel/UCR22sCPCRx3J9nfCUV4htGw>(Akbar Birbal Stories )  
[https://www.youtube.com/channel/UCVP73\\_P70GlqgG618HNX8qg](https://www.youtube.com/channel/UCVP73_P70GlqgG618HNX8qg)(Panchatantra Stories in Hindi)  
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzIO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)  
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta ( インドのヒンディー語新聞 ) )  
[http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav\\_Bharat\\_Times/](http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/)(Nav Bharat Times ( インドのヒンディー語新聞 ) )  
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS ( インドのニュース・報道専門番組 ) )  
<http://khabar.ndtv.com/>(NDTV ( インドのニュース・報道専門番組 ) )  
<https://www.youtube.com/user/aajtaktv>(Aaj Tak ( インドのヒンディー語新聞 ) )  
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtweyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)  
<https://publication.aa-ken.jp/>(西岡美樹 (2017) 『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』、 『初級ヒンディー語文型練習帳』)  
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID ( 教育用Video SNSサービス ) )  
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets ( 復習用オンライン・アプリケーション ) )

### [授業外学修 (予習・復習) 等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

今年度の本授業は中上級レベルの予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目7

科目ナンバリング		G-LET49 89660 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（中級）II Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 西岡 美樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語中級 II									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複雑な文章を精読できるようになる。</li> <li>2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。</li> <li>3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。</li> <li>4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：現代の短篇小説、ヒンディー語映画の詩歌          第6～10週目：新聞記事、TVニュース          第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（マハーバーラタ、カター・サーガルなど）</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。          また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。</li> <li>・ ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課 - 第12課の文法項目）習得していること。（初級文法でここまで到達していない場合は受講不可）</li> </ul>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への積極的な参加（40%）          期末試験あるいはレポート（60%）</p>											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
<p>（参考書）          授業中に紹介する</p>											
----- ヒンディー語（中級）II(2)へ続く -----											

## ヒンディー語（中級）II(2)

### （関連URL）

<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Acharya)  
[https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR\\_Vw](https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR_Vw)(Indian Stories For Kids)  
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzIO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)  
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtwcyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)  
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS (インドのニュース・報道専門番組))  
[http://khabar.ndtv.com/\(NDTV \(インドのニュース・報道専門番組\)\)](http://khabar.ndtv.com/(NDTV)  
<https://www.youtube.com/user/ajaktakv>(Aaj Tak (インドのニュース・報道専門番組))  
[http://www.jansatta.com/\(Jansatta \(インドのヒンディー語新聞\)\)](http://www.jansatta.com/(Jansatta)  
[http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav\\_Bharat\\_Times/](http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/)(Nav Bharat Times (インドのヒンディー語新聞))  
<https://publication.aa-ken.jp>(西岡美樹 (2017) 『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』、 『初級ヒンディー語文型練習帳』)  
[https://flipgrid.com/\(FLIPGRID \(教育用Video SNSサービス\)\)](https://flipgrid.com/(FLIPGRID)  
[https://www.bookwidgets.com/\(BookWidgets \(復習用オンライン・アプリケーション\)\)](https://www.bookwidgets.com/(BookWidgets)

### [授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

### （その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中上級レベルの予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目8

科目ナンバリング		G-LET49 89628 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（初級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
前期はチベット文字およびその読み方を習得し、チベット語の名詞の構造、文での使い方を理解する。											
【授業計画と内容】											
授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション（1週）</li> <li>2. 文字と発音（4週）</li> <li>3. 名詞（4週）</li> <li>4. 形容詞（1週）</li> <li>5. 助動詞（3週）</li> <li>6. まとめ（1週）</li> <li>7. フィードバック（1週）</li> </ol> <p>「概要・目的」欄に書いたように、日本語話者にとってチベット語はとくに難しい言語ではない。授業は、文字の習得から始め、日本語と異なる特徴を示す点についてはできる限り丁寧に説明を加えながら、段階的に文法の複雑なレベルに進む。</p> <p>受講生は、理解できない点を積極的に質問することが期待される。</p>											
チベット語（初級）(語学)(2)へ続く											



## チベット語（初級）(語学)(2)

### 【履修要件】

特にないが、後期のチベット語（初級）をあわせて受講することが望ましい。

### 【成績評価の方法・観点】

成績は、学期末に行う試験（100％）によって決定する。  
チベット語の文法事項を十分に理解していることが期待される。

### 【教科書】

プリントを配布する。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目9

科目ナンバリング		G-LET49 89629 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（初級）（語学） Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
後期は動詞の屈折を中心として学び、文の構造を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>前期のチベット語（初級）に引き続き、チベット語初級文法を解説する。授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動詞（5週）</li> <li>2. 複文他（5週）</li> <li>3. チベット語テキスト演習（4週）</li> <li>4. フィードバック（1週）</li> </ol> <p>基本的な文法の解説を終えた後は、性格の異なる短い文章をできる限り読み、実践的なチベット語の習得を目指す。</p>											
【履修要件】											
前期のチベット語（初級）を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績は、学期末に行う試験（100%）によって決定する。 チベット語の文法事項を十分に理解していることが期待される。</p>											
----- チベット語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

チベット語（初級）(語学)(2)

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目10

科目ナンバリング		G-LET49 89630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業は、チベット語初級を学んだ学生がチベット語文献を読解しながら、チベット語文法に対する理解をさらに深め、チベット語文献の読解能力を高めることを目的とする。本年度は仏教文献を取り上げるが、仏教文献の中で使われるチベット語も多様であるため、なるべく多くの分野の仏教文献を取り上げることで、広い分野の仏教文献に対処できる基礎的な能力を身につけることを目指す。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、多様なチベット語文献を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業では、時代によるチベット語自体の違いや、翻訳文献の中でも経典や注釈といったスタイルの違いも網羅するために、以下のような文献を順に取り上げる予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古チベット語を含むチベット撰述仏教文献</li> <li>2. サンスクリット経典からの翻訳文献</li> <li>3. サンスクリット注釈からの翻訳文献</li> </ol>											
それぞれの文献の読解にあたり、そこに現れるチベット語の特徴を解説し、読解に必要な内容の説明を行う。その後各文献を四から五週程度かけて輪読する。											
第1回 インTRODクシヨN 第2回～第14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。読解に必要な仏教の知識は授業の中で説明するので、仏教に関する知識は前提としない。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。授業中の発表により評価する。											
チベット語（中級）(語学)(2)へ続く											

チベット語（中級）(語学)(2)

**[教科書]**

授業中にプリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）

授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

それぞれのチベット語文献の性格に注意しながら予習し、問題点を整理しておくことが求められる。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目11

科目ナンバリング		G-LET49 89630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業は、チベット語初級を学んだ学生がチベット語文献を読解しながら、チベット語文法に対する理解をさらに深め、チベット語文献の読解能力を高めることを目的とする。本年度は仏教文献を取り上げるが、仏教文献の中で使われるチベット語も多様であるため、なるべく多くの分野の仏教文献を取り上げることで、広い分野の仏教文献に対処できる基礎的な能力を身につけることを目指す。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、多様なチベット語文献を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業では、独立した論書と他の論書に対する注釈といった翻訳文献中のスタイルの違いや、翻訳文献とチベット撰述文献の相違に対する理解を深めるため、以下のような文献を順に取り上げる予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サンスクリット論書からの翻訳文献</li> <li>2. サンスクリット注釈からの翻訳文献</li> <li>3. チベット撰述古典チベット語文献</li> </ol>											
それぞれの文献の読解にあたり、そこに現れるチベット語の特徴を解説し、読解に必要な内容の説明を行う。その後各文献を四から五週程度かけて輪読する。											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回～第14回 チベット語テキストの輪読</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。読解に必要な仏教の知識は授業の中で説明するので、仏教に関する知識は前提としない。前期のチベット語（中級）を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。授業中の発表により評価する。											
----- チベット語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

チベット語（中級）(語学)(2)

**[教科書]**

授業中にプリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）

授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

それぞれのチベット語文献の性格に注意しながら予習し、問題点を整理しておくことが求められる。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目12

科目ナンバリング		G-LET49 69661 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（初級I） Polishnbsp (Lectures)nbsp				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>前期では、名詞と動詞の活用を学ぶとともに、ポーランド語になれていきます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、前期ではその前半分を学習します。</p> <p>期末に映画も鑑賞し、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．ポーランド語の基礎知識（文字、アクセント、語尾変化、発音など）【1週】</li> <li>2．基本的な構文、格の基礎知識、名詞の主格、挨拶や自己紹介に関する語彙【1週】</li> <li>3．基本動詞bycの変化、名詞の性の見極め方と性による形容詞の変化【1週】</li> <li>4．ここまでの内容の確認と練習【1週】</li> <li>5．名詞と形容詞の単数複数造格、日本語の「～である」に相当する主格と造格の使い分け【1週】</li> <li>6．名詞の単数生格、panとpaniの用法【1週】</li> <li>7．名詞と形容詞の複数主格、「あなたがた、皆さん」の言い方【1週】</li> <li>8．ここまでの総復習、基本的な構文や語彙の確認【1週】</li> <li>9．名詞の単数複数対格、動詞の第1変化（-m,-sz型）【1週】</li> <li>10．動詞の第2変化（-e,-isz型）、名詞の単数複数与格、「知っている」に当たる表現【1週】</li> <li>11．動詞の第3変化（-e,-esz型）、現在形の動詞変化のまとめ、名詞の単数複数前置格【1週】</li> <li>12．sie動詞、ktoとcoの格変化、名詞の複数生格、数量を表す言葉【1週】</li> <li>13．前期の総復習、格の使い分けや、基本的な構文の確認、語彙の復習【1週】</li> <li>14．映画を鑑賞し、ポーランドの文化に触れる【1週】</li> <li>15．定期試験【1週】</li> <li>16．フィードバック【1週】</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
----- ポーランド語（初級I）(2)へ続く -----											



## ポーランド語（初級I）(2)

### [成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

### [教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス ポーランド語+』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

### [参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目13

科目ナンバリング		G-LET49 69662 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語 (初級I) Polish (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>後期では、動詞の時制や、ポーランド語における様々な構文を学びます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、後期ではその後半分を学習します。</p> <p>期末に映画の鑑賞などをして、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．否定生格という現象、呼格、基本的な助動詞の使い方【1週】</li> <li>2．動詞の過去形、非人称文の過去時制、人称代名詞と再帰代名詞の格変化【1週】</li> <li>3．動詞bycと一般動詞の合成未来形、時刻に関する表現、非人称文の未来時制、nie maの過去形と未来形【1週】</li> <li>4．動詞のアスペクト、命令法、数詞と名詞の総合規則【1週】</li> <li>5．命令法の続き、仮定法、miecの助動詞的な用法【1週】</li> <li>6．移動の動詞isc/chodzic, jechac/jezdzicの用法、場所と移動の起点を表す前置詞【1週】</li> <li>7．関係代名詞ktoryの用法【1週】</li> <li>8．ここまでの総復習、動詞の時制などの学習内容の確認【1週】</li> <li>9．仮定法の用法の続き、関係副詞による複文の作り方、能動形容分詞、非人称動詞【1週】</li> <li>10．sieによる非人称構文、形容詞と副詞の比較変化【1週】</li> <li>11．副分詞の作り方と用法、受動形容分詞と受動構文【1週】</li> <li>12．非人称能動過去形と完了体動詞の副分詞、年月日の言い方【1週】</li> <li>13．一年間の総復習、分かりにくかった点などを確認する【1週】</li> <li>14．ポーランドの文化に触れる【1週】</li> <li>15．定期試験【1週】</li> <li>16．フィードバック【1週】</li> </ol>											
【履修要件】											
前期のポーランド語 (初級I) の受講など、ポーランド語の基礎知識が要求されます。											
----- ポーランド語 (初級I) (2)へ続く -----											

## ポーランド語（初級I）(2)

### [成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

### [教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス ポーランド語+』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

### [参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目14

科目ナンバリング		G-LET49 89642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（中級II）（語学） Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。											
【教科書】											
授業中に受講生と話し合っ決めて資料を用意し配布します。											
【参考書等】											
（参考書）											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [ 編 ] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級Ⅱ）(語学)(2)

---

**【授業外学修（予習・復習）等】**

授業中に指示します。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目15

科目ナンバリング		G-LET49 89642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（中級II）（語学） Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。											
【教科書】											
授業中に受講生と話し合っ決めて資料を用意し配布します。											
【参考書等】											
（参考書）											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [ 編 ] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級Ⅱ）(語学)(2)

---

**【授業外学修（予習・復習）等】**

授業中に指示します。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目16

科目ナンバリング		G-LET49 69646 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語（初級） Russian I				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
【授業の概要・目的】											
ロシア語やロシア文化に関心のある学生を対象として、ロシア語を一から勉強していきます。日本ではあまりなじみのない文字の書き方と発音から始めて、意外に日本語との類推が利く基本的な文法と構文、語彙を学習していきます。											
【到達目標】											
1) ロシア語で使用されているキリル文字とその発音を習得する。 2) ロシア語の基礎的な文法を習得する。											
【授業計画と内容】											
授業は配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。 序：文字と発音 第1課 「これはナターシャです」：平叙文 第2課 「私はナターシャではありません」：人称代名詞・疑問文・否定文 第3課 「これは私のスーツケースです」：所有代名詞・指示代名詞 第4課 「あそこに古い写真があります」：形容詞と名詞の性 第5課 「雑誌を読んでいます」：動詞現在形第1変化 第6課 「日本語を話します」：動詞現在形第2変化・複数形 第7課 「彼女はどこに住んでいるのですか」：不規則動詞と前置格 第8課 「電話を持っていますか」：所有の表現・命令形 第9課 「音楽を聴いているのですか」：不規則動詞と対格 第10課 「小包を送りたい」：運動の動詞と行先の表現 第11課 「日本文学を勉強していました」：動詞の過去形 第12課 「家にいました」：様々な過去時制 第13課 「今晚はお客が来ます」：動詞の未来形・不規則動詞 第14課 「カサがありません」：生格の用法											
フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、試験70%で評価します。											
【教科書】											
プリントを配付します。											
----- ロシア語（初級）(2)へ続く -----											



## ロシア語（初級）(2)

---

### [参考書等]

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

### [授業外学修（予習・復習）等]

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

### （その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目17

科目ナンバリング		G-LET49 69647 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語（中級） Russian II				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
【授業の概要・目的】											
ロシア語の初級を前年度に履修したか、それと同程度の基礎運用能力を習得している学生を対象として、ロシア語の基本文法の完成をめざします。											
【到達目標】											
1) ロシア語の基礎文法を完成させる。 2) 辞書を引けば、平易なロシア語を読めるようになる。											
【授業計画と内容】											
授業は、前年度初級に引き続き、配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。（第1回～第6回） 第15課 「夫にプレゼントを買いたいのです」：与格の表現 第16課 「紅茶は普通ミルクを入れて飲みます」：造格の表現 第17課 「日本料理店でアントンを見かけました」：活動体名詞の対格・形容詞の格変化 第18課 「それがアントンでないとどうして分かるのですか？」：動詞の完了体と不完了体 第19課 「捨てるのなら手伝います」：時制のまとめ・助動詞的用法 第20課 「もし私が鳥だったら」：仮定法  その後、ロシア語の文章を読むのに必要な文法事項をさらに学びます。（第7回～12回） ・関係詞 ・副動詞 ・形動詞 ・被動相  文法事項の確認を兼ねて、平易なロシア語の文章を読みます。（第13回～第14回）  第15回 まとめ  フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
ロシア語（初級）を前年度に履修したか、それと同程度のロシア語能力を有していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、試験70%で評価します。											
----- ロシア語（中級）(2)へ続く -----											

ロシア語（中級）(2)

**[教科書]**

プリントを配付します。

**[参考書等]**

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

**[授業外学修（予習・復習）等]**

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

**（その他（オフィスアワー等））**

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目18

科目ナンバリング		G-LET49 89604 LJ48									
授業科目名 <英訳>		アラブ語（初級）（語学） Arabic				担当者所属・ 職名・氏名		国立民族学博物館 グローバル現象研究部 教授 西尾 哲夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	木2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		アラビア語の初級									
【授業の概要・目的】											
<p>前期の授業は、オンライン形式で実施する。  アラビア語は、西はモロッコから東はイラクまでの中東・北アフリカ諸国で使われており、およそ一億五千万人の母語となっている。またイスラム教（イスラーム）の聖典『コーラン（クルアーン）』はアラビア語で書かれているため、南アジア・東南アジア・中国などのムスリム（イスラム教徒）もアラビア語の知識をもっている。  この授業では、アラビア語の文字の書き方からはじめ、初級程度の文法事項をおしえる。</p>											
【到達目標】											
<p>アラビア文字が読めて書けるようになる。また基本的単語については、弱子音を語根に含む単語についてアラビア語の辞書が引けるようになる。基本的な文章表現について読む・書く・話ができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) アラビア語についての概説（1回目）  (2) アラビア語学習法の概説（1回目）  (3) アラビア文字（2回目から5回目）  (4) 名詞（3回目）  (5) 冠詞（4回目）  (6) 名詞の格変化（5回目）  (7) 規則複数（6回目）  (8) 形容詞の用法（7回目）  (9) 疑問文（8回目）  (10) 場所の前置詞（9回目）  (11) これまでの復習（10回目）  (12) 存在文（11回目）  (13) 国名とニスバ形容詞（12回目）  (14) 数字の書き方と1～10までの数詞（13回目）  (15) 不規則複数（1）（14回目）  (16) 色の表現（15回目）  (17) 動詞完了形（16回目）  (18) 辞書の引き方（17回目）  (19) 不規則複数（2）（18回目）  (20) 11～100までの数詞（19回目）  (21) これまでの復習（20回目）  (22) 曜日の表現（21回目）  (23) 動詞未完了形（22回目）</p>											
----- アラブ語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

## アラブ語（初級）(語学)(2)

- (24) 名詞文と動詞文（語順）（23回目）
- (25) 時間表現（24回目）
- (26) 比較表現（25回目）
- (27) 弱動詞（26回目）
- (28) 動詞派生形（1）（27回目）
- (29) 未来表現（28回目）
- (30) 動詞派生形（2）（29回目）
- (31) これまでの復習と今後の学習方法（30回目）

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。出席を重視し、欠席が多い場合には単位を認めない。前期についてはオンラインで実施し、当該授業資料をダウンロードして学習した場合に出席したものとみなす。

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

（参考書）

西尾哲夫『言葉から文化を読む アラビアンナイトの言語世界』（臨川書店）（とくに現代アラブ世界の言語状況についてふれた第1章）

### 【授業外学修（予習・復習）等】

授業毎に指示する。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目19

科目ナンバリング		G-LET49 89608 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イラン語（初級）（語学） Iranian				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語大学 国際言語平和研究所 嘱託研究員 杉山 雅樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イラン語（初級）									
【授業の概要・目的】											
イランの公用語であるペルシア語の初級を学ぶ。基本文法、基礎単語を修得し、初級レベルの総合的なペルシア語力を養うことを目的とする。											
【到達目標】											
基本的なペルシア語の文法規則・単語を習得することにより、平易な文章であれば辞書を使用しつつ読むことができるようになる。											
【授業計画と内容】											
（前期）											
第1回 インTRODクシヨン、文字											
第2回 発音と表記の注意点											
第3回 名詞、基本的な文章、疑問詞											
第4回 形容詞、エザーフエ、人称代名詞											
第5回 過去形、前置詞											
第6回 現在形 ・複合動詞											
第7回 現在形 ・未来形、副詞											
第8回 現在完了形・命令形											
第9回 仮説法、助動詞											
第10回 助動詞 、人称代名詞 、受動態											
第11回 接続詞											
第12回 関係詞、祈願文、副詞											
第13回 接続詞 、複合動詞 、過去分詞、現在分詞、その他											
第14回 確認テスト（1）、数詞											
第15回 フィードバック											
（後期）											
第16回 前期授業の復習、複雑な構造の文章 以降の授業では、平易なペルシア語のテキストを継続的に読み進める											
第17～28回 テキスト読解（1）～（12）											
第29回 後期授業の総括および確認テスト（2）											
第30回 フィードバック											
前期には文字の読み方や書き方を練習しつつ、基本的な文法や単語を学ぶ。後期には簡単な物語等を扱い、読解力の基礎を身につける。 原則として、前期の文法の授業では毎回復習のための小テストを行う。											
----- イラン語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

## イラン語（初級）(語学)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点評価

前期（基礎文法）は、小テスト（50点）、確認テスト（50点）

後期（テキスト読解）は、予習の取り組み（50点）、確認テスト（50点）

### 【教科書】

授業中にプリントを配布する。

### 【参考書等】

（参考書）

特に後期の授業では、黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』（大学書林）などペルシア語辞書を用いて予習する必要がある。

その他の辞書や文法書など参考になる文献については、授業中に指示する。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

文字の書き方、基本文法、基礎単語の修得が中心となる前期においては、毎授業後十分に復習をし、次の授業の冒頭に行われる小テストに備えること。

簡単な物語等を読み進める後期においては、各自辞書で単語を調べて訳文を作成しておくなど予習が必須である。

### （その他（オフィスアワー等））

質問等があれば、[sugiyama.masaki.25z@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:sugiyama.masaki.25z@st.kyoto-u.ac.jp)にご連絡下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目20

科目ナンバリング		G-LET49 89620 LJ48									
授業科目名 <英訳>		シュメール語（初級）（語学） Sumerian				担当者所属・ 職名・氏名		国士舘大学 イラク古代文化研究所 研究員 森 若葉			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		シュメール語文法と楔形文字書記体系のしくみ、楔形文字文献の講読および内容の紹介									
【授業の概要・目的】											
<p>古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。</p> <p>この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法と楔形文字文献について学ぶことを目的とする。</p> <p>文法の解説とともに、最古の文字である楔形文字の成立としくみ、および系統不明の古代語であるシュメール語ほか楔形文字言語の解読についてもふれる。</p> <p>比較的簡単なシュメール語資料の講読を行い、適宜、そのほかの資料についても内容の紹介をおこなう。死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。</p>											
【到達目標】											
<p>世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的文法構造を理解する。</p> <p>また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいや受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。</p> <p>&lt;前期&gt; 楔形文字およびシュメール語文法の概説とともに、簡単な資料の講読を行う。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。</p> <p>第1回 シュメール語の背景 メソポタミア文明の世界について</p> <p>第2回 シュメール語と楔形文字について</p> <p>第3回 楔形文字の解読と楔形文字で書かれた諸言語について（第3回）</p> <p>第4回 楔形文字の成立としくみについて（第4-5回）</p> <p>第5回 シュメール語文法（1）、楔形文字文献について</p> <p>第6回 シュメール語文法（2）、王碑文を読む</p> <p>第7回 シュメール語文法（3）、王碑文を読む</p> <p>第8回 シュメール語文法（4）、行政文書を読む</p> <p>第9回 楔形文字粘土板・円筒印章実習 - 粘土板と印章を作成</p> <p>第10回 シュメール語文法（5）、行政文書を読む</p> <p>第11回 シュメール文学の紹介</p> <p>第12回 シュメール文学作品を読む</p> <p>第13回 シュメール・メソポタミアの「法典」紹介</p> <p>第14回 裁判記録を読む</p> <p>第15回 行政文書・裁判記録を読む</p>											
----- シュメール語（初級）（語学）(2)へ続く -----											



## シュメール語（初級）(語学)(2)

<後期>

文法概説と並行して下記文献の講読、資料の紹介を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。

- 第1回 文献から見るシュメールの生活
- 第2回 シュメール語文法（6）、行政文書を読む
- 第3回 シュメール語文法（7）、行政文書を読む
- 第4回 シュメール語文法（8）、行政文書を読む
- 第5回 シュメール文学作品を読む
- 第6回 シュメール語文法（9）、行政文書を読む
- 第7回 シュメール語文法・語彙文書概説、王碑文を読む
- 第8回 京都大学総合博物館所蔵資料紹介
- 第9回 京都大学総合博物館所蔵資料を読む
- 第10回 京都大学総合博物館粘土板見学実習
- 第11回 シュメール文学作品を読む
- 第12回 シュメール文学作品、王碑文を読む
- 第13回 行政文書、王碑文を読む
- 第14回 行政文書、王碑文を読む
- 第15回 まとめ

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

平常点（講読の状況・授業中の発言）[20%]および学年末レポート（シュメール語文献の翻字・翻訳）[80%]を予定。

### [教科書]

使用しない

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。  
楔形文字粘土板実習の際、粘土等を各自用意してもらう必要がある。

### [参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。

### [授業外学修（予習・復習）等]

事前に授業中に配布する資料に目を通してもらうことがある。また、文献講読については、授業前にシュメール語テキストの文字や単語について調べてきてもらうことがある。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

シュメール語（初級）(語学)(3)へ続く

シュメール語（初級）(語学)(3)

大学院共通科目21

科目ナンバリング		G-LET49 89612 LJ48									
授業科目名 <英訳>		オランダ語（初級）（語学） Dutch				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 河崎 靖			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		オランダ語初級									
[授業の概要・目的]											
オランダ語の総合的な語学力を養成することを目標とする。											
[到達目標]											
CEFRのおよそA1/A2レベルの語学力を目指す。											
[授業計画と内容]											
入門レベルの文法解説から始め（第1～5回、各回：発音・人称変化・代名詞など）、話す・聴く能力を高めるドリルも行い（第6～10回、各回：助動詞・時制・前置詞など）、併せて、ランデスキュンデ的な情報を盛り込む（第11～15回、各回：受動態・erの用法・指小辞など）。専門分野を問わず熱心な参加（予習・復習ふくめ）を期待する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
基本的に平常点による。積極的な授業参加が望まれる。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 河崎 靖 『オランダ語の基礎』（白水社）											
[授業外学修（予習・復習）等]											
こちらで用意する教材を、授業の前後（予習・復習）確実に準備してもらう。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

大学院共通科目22

科目ナンバリング		G-LET49 89613 LJ48									
授業科目名 <英訳>		オランダ語（中級）（語学） Dutch				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 河崎 靖			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		オランダ語 初・中級									
[授業の概要・目的]											
オランダ語の総合的な語学力を養成することを目標とする。											
[到達目標]											
CEFRでB1レベルに達することを目指す。											
[授業計画と内容]											
入門レベルの文法解説から始め（第1～5回、各回：発音・人称変化・代名詞など）、話す・聴く能力を高めるドリルも行い（第6～10回、各回：助動詞・時制・前置詞など）、併せて、ランデスキュンデ的な情報を盛り込む（第11～15回、各回：受動態・erの用法・指小辞など）。専門分野を問わず熱心な参加（予習・復習ふくめ）を期待する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
基本的に平常点による。積極的な授業参加が望まれる。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 河崎 靖 『オランダ語の基礎』（大学書林）											
[授業外学修（予習・復習）等]											
こちらで用意する教材を、授業の前後（予習・復習）確実に準備してもらう。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

大学院共通科目23

科目ナンバリング		G-LET49 89624 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（初級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>バンツー諸語に属すスワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。バンツー諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法、語彙、文型に加えて実際の会話表現も学ぶことで、基本的な文法事項の習得と日常的な会話の理解をめざす。テキストを用いた会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行うことで、自分で文を組み立てる能力を身につける。また、テキストの会話表現には社会的・文化的事象が多く含まれる。その背景についての補足説明によって、東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深める。関連する実物や画像は授業中に紹介される。</p>											
【到達目標】											
<p>1：スワヒリ語の名詞クラスと基本文型を理解する                  2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てることができる                  3：短い日常会話の流れを把握できる                  4：東アフリカの文化や社会に関する知識を深める</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション / スワヒリ語文法の概要                  第2回 第1課 / 現在時制                  第3回 第2課 / コピュラ文                  第4回 第4課 / 所有表現                  第5回 第5課 / 未来時制                  第6回 名詞クラス                  第7回 第3課 / 存在表現                  第8回 第1～5課の復習と補足説明                  第9回 第6課 / あいさつ表現                  第10回 第7課 / 過去時制                  第11回 第8課 / 完了時制                  第12回 第9課 / 形容詞                  第13回 第10課 / 接続形                  第14回 第6～10課の復習と補足説明                  第15回 期末試験                  第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（初級）(語学)(2)へ続く -----											

## スワヒリ語（初級）(語学)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

予習・復習状況などの平常点（30％）、期末試験の結果（70％）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

### 【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。  
各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。  
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。  
練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目24

科目ナンバリング		G-LET49 89625 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（中級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語中級									
【授業の概要・目的】											
<p>テキストはスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。テキストの基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその社会・文化的背景についても説明し、関連する実物や画像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深める。</p>											
【到達目標】											
<p>1：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解する                  2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話すことができる                  3：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる                  4：東アフリカの文化や社会に関する知識を深める</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨン / 第1～10課の復習                  第2回 第11課 / 時間                  第3回 第12課 / 指示詞                  第4回 第13課 / 使役                  第5回 第14課 / 条件節                  第6回 関係節                  第7回 第15課 / 受身                  第8回 第11～15課の復習と補足説明                  第9回 第16課 / 相互形                  第10回 第17課 / 仮想時制                  第11回 第18課 / 複合時制                  第12回 第19課 / ことわざ・なぞなぞ                  第13回 第20課 / 手紙の書き方                  第14回 第16～20課の復習と補足説明                  第15回 期末試験                  第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

## スワヒリ語（中級）(語学)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

予習・復習状況などの平常点（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

### 【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。  
各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。  
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。  
練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



大学院共通科目25

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		哲学（語学） Greek				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語を学ぶ									
【授業の概要・目的】											
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>											
【到達目標】											
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション、ギリシア文字の読み方・書き方 第2回から第14回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第3課から第17課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また活用・変化を覚えてもらうために小テストを2・3回実施する。 期末試験 第15回 フィードバック（試験の解説、前期の復習）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
練習問題への取り組み（30%）、小テスト（20%）、試験（50%）で評価する。											
【教科書】											
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
毎回課される練習問題に取り組む、活用・変化を覚えるために繰り返し自習することが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

大学院共通科目26

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		哲学（語学） Greek				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語を学ぶ									
【授業の概要・目的】											
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>											
【到達目標】											
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回から第15回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第18課から第36課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また最後の3回は哲学・文学・歴史など履修者の関心に合わせて、短いテキストを講読する。</p>											
【履修要件】											
<p>前期の「ギリシア語（初級I）」を履修しているか、それに相当する文法知識を持っていること。 詳しくは初回のイントロダクションの際に相談すること。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>練習問題・講読への取り組みで評価する。また履修者数や学習状況によっては、授業内試験を実施する。</p>											
【教科書】											
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）											
----- 哲学（語学）(2)へ続く -----											

哲学（語学）(2)

[参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される練習問題に取り組み、語形変化・活用を覚えるための自習を行い、講読のために予習しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目27

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		哲学（語学） Latin				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 勝又 泰洋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語（初級I）									
【授業の概要・目的】											
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。											
【到達目標】											
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の前半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。											
第1回～第14回：教科書第1節～第42節 定期試験 第15回：試験フィードバック											
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。											
【履修要件】											
後期開講の「ラテン語（初級II）」とセットで受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。											
【教科書】											
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 哲学（語学）(2)へ続く -----											

哲学（語学）(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

**（その他（オフィスアワー等））**

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目28

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		哲学（語学） Latin				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 勝又 泰洋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語（初級II）									
【授業の概要・目的】											
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。											
【到達目標】											
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の後半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。											
第1回～第14回：教科書第43節～第82節 定期試験 第15回：試験フィードバック											
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。											
【履修要件】											
前期開講の「ラテン語（初級I）」とセットで受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。											
【教科書】											
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 哲学（語学）(2)へ続く -----											

哲学（語学）(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

**（その他（オフィスアワー等））**

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目29

科目ナンバリング		G-LET49 89610 LJ48									
授業科目名 <英訳>		インドネシア語I (初級) (語学) Indonesian				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語専門学校 専任講師 柏村 彰夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時間	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		インドネシア語 (初級)									
【授業の概要・目的】											
インドネシア語に関する基礎知識を習得し、基本的な運用能力の養成を目的とする。基本的には、インドネシア語の学習歴の無い者を対象とする。											
【到達目標】											
日常会話での慣用表現の発話・聞き取りができるようになる。また、基本的な文の創出ができるようになることを目指す。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。          なお、授業冒頭に語彙に関する小テストを(全10回)実施する。          また、第8回および第15回に、それまで学習した内容を確認するためのテストを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.イントロダクション</li> <li>2.名詞文</li> <li>3.発音と表記法</li> <li>4.人称代名詞</li> <li>5.基語動詞</li> <li>6.ber-動詞</li> <li>7.meN動詞</li> <li>8.確認テスト</li> <li>9.アスペクト、助数詞</li> <li>10.疑問文、疑問詞</li> <li>11.受動</li> <li>12.時間表現</li> <li>13.接尾辞 -an</li> <li>14.接頭辞 pe-, peN-</li> <li>15.確認テスト</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
語彙小テスト(10回、各5点)、確認テスト(2回、各25点)により評価する。											
【教科書】											
森山幹弘・柏村彰夫 『教科書インドネシア語』(めこん) ISBN:4-8396-0159-3											
----- インドネシア語I(初級)(語学)(2)へ続く -----											



インドネシア語I (初級) (語学)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に適宜紹介する

**[授業外学修 (予習・復習) 等]**

初歩段階では語彙数を増やすことが最も重要である。従って初出単語の暗記を中心とする復習が必要。

**(その他 (オフィスアワー等) )**

第一回目の授業では、学習上必要な文献などの紹介を行う予定であるので、教科書や辞書を用意する必要は無い。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目30

科目ナンバリング		G-LET49 89611 LJ48									
授業科目名 <英訳>		インドネシア語II (初級) (語学) Indonesian				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語専門学校 専任講師 柏村 彰夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		インドネシア語 (初級)									
【授業の概要・目的】											
インドネシア語Iでの学習内容を踏まえ、インドネシア語の運用能力の養成を目的とする。											
【到達目標】											
日常会話レベルの基本的表現の創出能力を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。          なお、授業冒頭に語彙に関する小テストを(全10回)実施する。          また、第8回および第15回に、それぞれ確認のためのテストを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的表現の復習</li> <li>2. 程度の副詞、接頭辞 se-</li> <li>3. 比較級、最上級</li> <li>4. 接頭辞 ter-</li> <li>5. 前置詞</li> <li>6. 接続詞</li> <li>7. 関係詞 yang</li> <li>8. 確認テスト</li> <li>9. 接辞 peN-an、 per-an</li> <li>10. 複合語、接辞 ke-an</li> <li>11. 命令文</li> <li>12. meN-kan動詞、 meN-i 動詞</li> <li>13. memper 動詞</li> <li>14. 畳語</li> <li>15. 確認テスト</li> </ol>											
【履修要件】											
インドネシア語Iの履修または同程度のインドネシア語能力を前提とする。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点、特に平常点評価を重視する。											
----- インドネシア語II (初級) (語学)(2)へ続く -----											

インドネシア語II (初級) (語学)(2)

**[教科書]**

森山幹弘・柏村彰夫 『教科書インドネシア語』 (めこん) ISBN:4-8396-0159-3

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に適宜紹介する

**[授業外学修 (予習・復習) 等]**

語彙習得が重要であり、既出単語を身につけるための復習が重要となる。

**(その他 (オフィスアワー等) )**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目31

科目ナンバリング		G-LET49 89626 LJ48									
授業科目名 <英訳>		タイ語I(初級)(語学) Thai				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 弓庭 育子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		初めてタイ語にふれる人のためのタイ語学習									
【授業の概要・目的】											
臨地研究に備えて、暮らしの中で交わされる基本的なタイ語会話の知識を身につける。											
【到達目標】											
発音と声調の基礎が身についている。約100語の生活語彙と約20項目の基本文法が身についている。生活場面や話題に応じたタイ語表現を用いて意思疎通を図れる。											
【授業計画と内容】											
【学習方法】 PandA のZoomを用いて、リアルタイムで授業を実施する。講義形式による文法解説、単語、例文の口頭練習、文法事項の反復練習、ロールプレイ活動を行う。											
【学習内容：会話】											
1．オリエンテーション 学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認											
2．発音練習 母音、声調、子音											
3．第1課1．1～1．3 挨拶、国籍を紹介する、尋ねる											
4．第1課1けたの数字、											
5．第2課2．1～2．3 挨拶、名前を紹介する、尋ねる											
6．第2課2．4～3けたの数字 挨拶、否定の表現											
7．第3課3．1～3．3 職業を紹介する、尋ねる											
8．第3課3．4～3．6 完了、予定の表現											
9．第3課数字に関する表現											
10．第4課4．1～4．3 継続の表現											
11．第4課職業の表現											
12．第5課5．1～5．2 品詞と語順											
13．第5課5．3～親族名称 可能の表現											
14．総復習											
15．フィードバック											
【履修要件】											
効果的に語学を習得するため、履修期間中は 全講義に出席し、 テキスト付録のCDを用いてタイ人の発音をまねること、を学習習慣にすること。											
----- タイ語I(初級)(語学)(2)へ続く -----											

## タイ語I(初級)(語学)(2)

### [成績評価の方法・観点]

各課学習後の課題(およそ500点)、総合の課題(およそ100点)を合計し、100点満点に換算して評価する。

### [教科書]

宮本マラーシー・村上忠良『世界の言語シリーズ9 タイ語』(大阪大学出版会)ISBN:978-4-87259-333-4 C3087

PandAのZoomを用いてリアルタイムで受講すること。授業時間に参加できないときには、記録動画を後日閲覧して授業内容を理解すること。

### [参考書等]

(参考書)

中島マリン著 赤木攻監修『挫折しないタイ文字レッスン』(めこん)ISBN:4-8396-0197-6 C0387  
(タイ文字の個人学習に関心のある学生に勧める)

### [授業外学修(予習・復習)等]

予習:テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。

復習:既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

### (その他(オフィスアワー等))

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には、第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目32

科目ナンバリング		G-LET49 89627 LJ48									
授業科目名 <英訳>		タイ語II(初級) (語学) Thai				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 弓庭 育子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		タイ語II(初級)									
【授業の概要・目的】											
【学習目的】 臨地研究に備えて、暮らしの中で交わされる基本的なタイ語会話の知識を身につける。											
【到達目標】 発音と声調の基礎が身についている。約200語の生活語彙と約38項目の基本文法が身についている。生活場面や話題に応じたタイ語表現を用いて意思疎通を図れる。タイ文字の子音字、母音符号の組み合わせの基礎が身についている。											
【授業計画と内容】											
【学習方法】 会話：講義形式による文法解説、単語、例文の口頭練習、文法事項の反復練習、ロールプレイ活動を行う。											
【学習内容：会話】 1．オリエンテーション 学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認 2．第6課6．1～6．2 指示代名詞 3．第6課6．3～6．4 程度の表現 4．第6課味覚表現 5．第7課7．1～7．2 希望、要求の表現 6．第7課7．3～7．5 許可の表現 7．第7課交通機関の名称 8．第8課8．1～8．2 指示形容詞 9．第8課8．3～8．4 義務の表現 10．第8課時刻の表現 11．第9課9．1～9．2 順序の表現 12．第9課9．3～方向、方角の表現 13．第10課10．1～10．2 目的の表現 14．総復習 15．フィードバック											
----- タイ語II(初級) (語学)(2)へ続く -----											

## タイ語II(初級)(語学)(2)

### 【履修要件】

タイ語I(初級)を履修していることが望ましい。  
効果的に語学を習得するため、履修期間中は 全講義に出席し、 テキスト付録のCDを用いてタイ人の発音をまねること、を学習習慣にすること。

### 【成績評価の方法・観点】

講義中の小テスト(およそ500点)、学期末テスト(およそ100点)を合計し、100点満点に換算して評価する。

### 【教科書】

宮本マラシー・村上忠良 『大阪大学外国語学部 世界の言語シリーズ9 タイ語』(大阪大学出版会) ISBN:ISBN:978-4-87259-333-4 C3087

### 【参考書等】

(参考書)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

予習: テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。  
復習: 既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

### (その他(オフィスアワー等))

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目33

科目ナンバリング		G-LET49 89631 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ビルマ(ミャンマー)語I(初級)(語学) Burmese				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 本行 沙織			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ビルマ語入門									
【授業の概要・目的】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビルマ語の発音と文字、文の成り立ちを理解する。</li> <li>・基礎的な語彙を覚え、文型を身に付け、簡単な会話を繰り返し練習する。</li> <li>・特に正確な発音の習得に重点を置き、母語話者に“通じる”ビルマ語を目指す。</li> </ul>											
【到達目標】											
ビルマ語を正確に発音するとともに、基本的な読み書き、簡単な日常会話ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
この授業は、zoomを介してオンラインで行われます。											
<p>第1回 オリエンテーション ミャンマーについて、ビルマ語の特徴、発音</p> <p>第2回 文字1(基本字母、複合文字、母音記号、末子音を伴う音節の表し方、有音化と綴り字)</p> <p>第3回 文字2(軽音音節の綴り、重ね文字、特殊な文字、不規則な読み方や不規則な綴り字、句読点、ビルマ数字、記号を書く順序)</p> <p>第4回 第1課 それはココヤシの実です</p> <p>第5回 第2課 元気です</p> <p>第6回 練習問題1、第3課 私は豚肉のおかずが好きではありません</p> <p>第7回 第3課 私は豚肉のおかずが好きではありません、第4課 ご飯食べましたか?</p> <p>第8回 第4課 ご飯食べましたか?、練習問題2</p> <p>第9回 第5課 マンダレーに行きます</p> <p>第10回 第6課 何の仕事をしているんですか?</p> <p>第11回 練習問題3、第7課 十冊くらいあります</p> <p>第12回 第7課 十冊くらいあります、第8課 シュエダゴン・パゴダに行きたいです</p> <p>第13回 第8課 シュエダゴン・パゴダに行きたいです、練習問題4</p> <p>第14回 第9課 電気製品を売っている店はありますか?</p> <p>第15回 これまでの授業の復習</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての授業に出席すること。</li> <li>・授業時間外でも教科書に付属しているCDを積極的に聞き、ビルマ語の音に親しむこと。</li> </ul>											
【成績評価の方法・観点】											
毎回の授業で行う小テスト(50点)、期末試験(50点)											
ビルマ(ミャンマー)語I(初級)(語学)(2)へ続く											



ビルマ(ミャンマー)語(初級)(語学)(2)

**[教科書]**

加藤昌彦 『ニューエクスプレス プラス ビルマ語』(白水社) ISBN:9784560088142

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

予習は特に必要ありませんが、復習を大切にしてください。

**(その他(オフィスアワー等))**

この授業は、zoomを介してオンラインで行われます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目34

科目ナンバリング		G-LET49 89637 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ベトナム語I(初級)(語学) Vietnamese				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 吉本 康子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ベトナム語I(初級)									
【授業の概要・目的】											
初学者を対象に、ベトナム語についての基礎知識を身につけるための講義を行う。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>ベトナム語の文字の読み方を理解し、単語や文章を正しく読み上げることができる。</li> <li>挨拶の表現や基本構文を用いて簡単な会話をすることができる。</li> <li>言語の学習を通し、ベトナムの社会と文化についての理解を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
テキストに従って以下の計画を進めるが、状況に応じて多少変更する場合もある											
第1回        ガイダンス 第2～4回    ベトナム語の文字と発音、挨拶と自己紹介 第5～6回    7課 第7～8回    8課 第9～10回   9課 第11～12回 10課 第13～14回 11課 第15回       まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により評価する。											
【教科書】											
清水政明 『世界の言語シリーズ4 ベトナム語』大阪大学出版会』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-328-0 その他、授業中にプリントを配布する。											
----- ベトナム語I(初級)(語学)(2)へ続く -----											

ベトナム語(初級)(語学)(2)

[参考書等]

(参考書)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[入門編]』 (アルク)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[初級編]』 (アルク)

その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

予習

- ・ 本文に目を通し、テキスト付属のCD音声を聞く

復習

- ・ CD音声を再生しながら、本文を音読する

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目35

科目ナンバリング		G-LET49 89638 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ベトナム語II(初級)(語学) Vietnamese				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 吉本 康子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ベトナム語 (初級)									
【授業の概要・目的】											
ベトナム語の文字の読み方を理解し、挨拶や自己紹介などの基本的な会話が可能なレベルの学生を対象に、現地調査を実施する際に必要となる基礎的なベトナム語の習得を目的とした講義を行う											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>ベトナム語の基本的な文法を理解し、簡単な文章を読むことができる</li> <li>現地での生活や調査において必要な単語やフレーズを習得し、簡単な会話をするすることができる</li> <li>言語の学習を通して、ベトナムの社会と文化についての理解を深める</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
テキストに従って以下の計画で進めるが、状況に応じて多少変更する場合もある											
第1～2回 12課 第3～4回 13課 第5～6回 14課 第7～8回 15課 第9～10回 16課 第11～12回 17課 第13～14回 18課 第15回 まとめ											
【履修要件】											
ベトナム語 を履修していることが望ましいが、ベトナム語の文字が読め、挨拶や自己紹介、基本構文を用いた初歩的な会話ができれば可とする。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により評価する。											
【教科書】											
清水政明 『世界の言語シリーズ4 ベトナム語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-328-0 その他、授業中にプリントを配布する。											
----- ベトナム語II(初級)(語学)(2)へ続く -----											

## ベトナム語II(初級)(語学)(2)

### [参考書等]

(参考書)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[入門編]』 (アルク)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[初級編]』 (アルク)

その他、授業中に適宜紹介する。

### [授業外学修(予習・復習)等]

予習

- ・ 本文に目を通し、テキスト付属のCD音声を聞く

復習

- ・ CD音声を再生しながら、本文を音読する

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目36

科目ナンバリング		G-LET50 69822 LJ31									
授業科目名 <英訳>		タイ研修 Asian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		学際融合教育研究推進センター 特定助教 西島 薫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		多文化共学短期[オンライン] 留学プログラム タイ・チューラーロンコーン大学サマースクール									
【授業の概要・目的】											
京都大学と大学間学生交流協定関係にあるチューラーロンコーン大学の協力を得て実施する。 事前講義（タイ語学習を含む）、 チューラーロンコーン大学が提供するタイ語講座の受講（オンライン）、 チューラーロンコーン大学の学生との共同プレゼンテーションによる日本語・日本文化の相互学習（オンライン）をおこなう。											
【到達目標】											
相手国学生に対し、日本語・日本文化について英語・日本語で紹介ができる。 日本を相対化しながら、タイおよびアセアン諸国について理解を深める。 日本 - タイの両国関係について認識を深める。											
【授業計画と内容】											
3月上旬から下旬の間に実施予定。研修の詳細については、KULASISで確認すること。 履修登録、単位認定は文学部でおこなわれる。 本研修に参加するには別途申し込みをする必要があるため、申込方法などについてKULASIS等を参照すること。											
【履修要件】											
本スプリングスクール参加にあたって、全学共通科目「日本語・日本文化実習」を受講した上での参加を推奨している。タイ語初学者も歓迎するが、「タイ語（初級）」等の関連科目を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
講義への参加状況、タイ語講座と共同発表での評価、研修後の報告書による。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
（関連URL）											
<a href="http://www.kuasucpier.kyoto-u.ac.jp/">http://www.kuasucpier.kyoto-u.ac.jp/</a> (京都大学アジア研究教育ユニット (KUASU))											
【授業外学修（予習・復習）等】											
タイに関する文献を読むこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

大学院共通科目37

科目ナンバリング		G-LET50 69822 LJ31									
授業科目名 <英訳>		ベトナム研修 Asian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		学際融合教育研究推進センター- 特定助教 西島 薫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	多文化共学短期[オンライン(未定)]留学プログラム ベトナム国家大学ハノイ校サマースクール										
【授業の概要・目的】											
<p>京都大学と大学間学生交流協定関係にあるベトナム国家大学ハノイ校の協力を得て実施する。人文社会科学大学と外国語大学において、ベトナム語とベトナム文化社会の講義を受講し、実地研修に参加する。また、現地の学生の日本語教育・日本研究の支援をおこない、共同発表をおこなう。</p>											
【到達目標】											
<p>相手国学生に対し、日本語・日本文化について英語・日本語で紹介ができる。日本を相対化しながら、ベトナムおよびアセアン諸国について理解を深める。日本 - ベトナムの両国関係について認識を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>9月上旬～9月下旬実施予定。          研修の詳細についてはKULASISで確認すること。          履修登録、単位認定は文学部でおこなわれる。          本サマースクールに参加するには別途申し込みをする必要があるため、申込方法などについてKULASIS等を参照すること。</p> <p>2019年度プログラム例(9月8日-9月22日)</p>											
【履修要件】											
<p>本サマースクール参加にあたって、全学共通科目「日本語・日本文化実習」を受講した上での参加を推奨している。ベトナム語初学者も歓迎するが、「ベトナム語(初級)」等の関連科目を受講していることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>事前学習への参加状況、現地での評価、帰国後の報告会および報告書による。</p>											
----- ベトナム研修(2)へ続く -----											

## ベトナム研修(2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

(関連URL)

<http://www.kuas.cpier.kyoto-u.ac.jp/>(京都大学アジア研究教育ユニット(KUASU))

### [授業外学修(予習・復習)等]

ベトナムに関する文献を読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



大学院共通科目38

科目ナンバリング		G-LET50 69822 LJ31									
授業科目名 <英訳>		インドネシア研修 Asian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		学際融合教育研究推進センター 特定助教 西島 薫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	多文化共学短期[オンライン(未定)]留学プログラム インドネシア大学スプリングスクール										
【授業の概要・目的】											
<p>京都大学と大学間学生交流協定関係にあるインドネシア大学の協力を得て実施する。 事前講義（インドネシア語学習を含む）、 インドネシア大学が提供するインドネシア語講座の受講（オンライン）、 インドネシア大学の学生との共同プレゼンテーションによる日本語・日本文化の相互学習（オンライン）をおこなう。</p>											
【到達目標】											
<p>相手国学生に対し、日本語・日本文化について英語・日本語で紹介ができる。 日本を相対化しながら、インドネシアおよびアセアン諸国について理解を深める。 日本 - インドネシアの両国関係について認識を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>2月中旬～3月初旬実施予定。 研修の詳細についてはKULASISで確認すること。 履修登録、単位認定は文学部でおこなわれる。 本スプリングスクールに参加するには別途申し込みをする必要があるため、申込方法などについてもKULASIS等を参照すること。</p> <p>例：2020年度プログラム（3月1日-3月12日）</p>											
【履修要件】											
<p>本スプリングスクール参加にあたって、全学共通科目「日本語・日本文化実習」を受講した上での参加を推奨している。インドネシア語初学者も歓迎するが、「インドネシア語（初級）」等の関連科目を受講していることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>事前学習への参加状況、インドネシア大学による評価、研修後の報告会および報告書による。</p>											
【教科書】											
<p>授業中に指示する</p>											
----- インドネシア研修(2)へ続く -----											

## インドネシア研修(2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### (関連URL)

<http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/>(京都大学アジア研究教育ユニット(KUASU))

### [授業外学修(予習・復習)等]

インドネシアに関する文献を読むこと。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目39

科目ナンバリング		G-LET50 69822 LJ31									
授業科目名 <英訳>		戦争と植民地の歴史認識 Asian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲 文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		戦争と植民地をめぐる歴史認識問題									
【授業の概要・目的】											
東アジアの日、中、韓・朝間での「歴史認識問題」を中心とし、そこで焦点となっている慰安婦問題など過去の歴史についてより正確な事実を学ぶことを主としつつも、これら三国の間での歴史認識の差異を多面的に考察するとともに、より広く現代世界における「歴史認識問題」とくに過去の戦争や植民地支配の記憶をめぐる問題について考える手引きとなる講義をオムニバス形式で提供します。											
【到達目標】											
いわゆる「歴史認識」とはということかを理解したうえで、歴史学的に正確な事実を把握する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
文学研究科，人文科学研究所，人間・環境学研究科の教員を中心に，現在日本，中国，韓国，北朝鮮などの東北アジア諸国の間で国際的な問題となっている，過去の戦争と植民地支配にかかわる「歴史認識問題」について講義します。また，東北アジア以外の地域における「歴史認識問題」についても取扱います。 講義担当者は以下のとおりです。日程については後日掲示します。 小山 哲(文学研究科)：収容所の世紀の記憶の語り方 ポーランド人によるソ連強制収容所体験記を読む 高嶋 航(文学研究科)：「慰安婦」と中国 塩出浩之(文学研究科)：琉球/沖縄をめぐる歴史認識 谷川 穰(文学研究科)：靖国神社について 中村唯史(文学研究科)：日本プロレタリア文学と満洲 徳永直の場合 吉井秀夫(文学研究科)：朝鮮総督府古蹟調査事業の評価をめぐって 太田出(人間・環境学研究科)：“武器なき戦士”宣撫官と愛路運動 日中戦争の一断面 岡 真理(人間・環境学研究科)：歴史的鏡像としてのパレスチナ/イスラエル 小野寺史郎(人間・環境学研究科)：近代中国における戦争/平和をめぐる歴史認識 細見和之(人間・環境学研究科)：丹波篠山から考える、在日コリアンの足跡 石川禎浩(人文科学研究所)：日中国交回復時(1972年)の歴史認識 小関隆(人文科学研究所)：戦争はいかにして始まるのか?：第一世界大戦の場合 直野章子(人文科学研究所)：戦争被害受忍論からみる戦争責任論 藤原辰史(人文科学研究所)：毒ガスの歴史から考える戦争と植民地 フィードバック											
----- 戦争と植民地の歴史認識(2)へ続く -----											

## 戦争と植民地の歴史認識(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（50％）とレポート（50％）により総合的に評価します。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

関連する資料を講義担当者が指定した場合、予習しての出席、あるいは事後の自学をおこなっていることを前提に授業をすすめる。

### （その他（オフィスアワー等））

専門知識が無くともわかりやすい講義を心がけますので、研究科や専修の枠にとらわれずに受講してください。

昨年度後期の「戦争と植民地をめぐる歴史認識問題」とかなりの講義が類似の内容なので、重複履修はできません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目40

科目ナンバリング		G-LET50 69822 LJ31									
授業科目名 <英訳>		次世代グローバルワークショップ Asian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 落合 恵美子 文学研究科 准教授 安里 和晃 文学研究科 准教授 Stephane Heim			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 通年集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		次世代グローバルワークショップ The Next-Generation Global Workshop									
【授業の概要・目的】											
<p>世界30数か国の大学から大学院生と若手研究者の参加を得て13年間開催してきた実績のある「次世代グローバルワークショップ」を単位化したもの。 今年度は京都大学で開催する。応募者はスクリーニングの上、報告者を確定する。後日、コメントに従った修正のうえ、フルペーパーの提出を求め、年度末Proceedingsとして掲載する。9月末の開催を予定しているが、場合によってはオンラインになる可能性がある。詳細については年度初めに掲載の予定 (<a href="http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/">http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/</a>)</p> <p>The Next-Generation Global Workshop (NGGW) has been held annually since 2008 to provide an opportunity for early-career scholars to present their research and to have feedback from an international audience. Please see detail in call for papers as follows after April <a href="http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/">http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/</a></p>											
【到達目標】											
<p>テーマに従い英語論文を執筆し、英語で研究報告を行う。質問の受け答えや、研究者間の交流が主体的に行える。</p> <p>It has proved to be a pleasant and effective way for capacity building through mentorship of professors from different universities in different areas of the world. It has also provided invaluable opportunities for all participants to learn from their fellow participants with different perspectives and to deepen the understanding of various social phenomena in the world, particularly in Asia. Ultimately, the NGGW has served as a forum for scholars of different generations from various regions to build a common academic foundation by redefining Asia in the global context.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>参加者は統一テーマについて英語論文を執筆し、英語で研究報告を行う。参加にあたってはおおまかに以下のプロセスを伴う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．タイトルの作成</li> <li>2．要旨の作成</li> <li>3．応募書類の作成と応募</li> <li>4．論文執筆（6000語程度）</li> <li>5．校閲</li> <li>6．発表原稿作成</li> <li>7．発表演習</li> <li>8．修正</li> <li>9．報告</li> <li>10．大学教員からのコメントと返答</li> <li>11．全体のディスカッション</li> </ol>											
----- 次世代グローバルワークショップ(2)へ続く -----											

## 次世代グローバルワークショップ(2)

- 1 2 . 研究者間交流
- 1 3 . 論文のリライトと編集
- 1 4 . 論文および研究構成に関する宣誓書の確認・提出
- 1 5 . プロシーディングス掲載と確認

ワークショップでは世界各地からの参加者と同じセッションで報告し、やはり世界各地から参加する大学教員からコメントを受ける。国際会議での学術発表の実践的経験を積む貴重な機会である。

### 【履修要件】

参加希望者はあらかじめ発表要旨を提出し、選考を通った者のみが参加を認められる。

### 【成績評価の方法・観点】

ワークショップ参加・報告とリライトした論文により評価する。詳細は別途説明する。

Based on workshop presentation and preparation.

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

calls for papers募集要項に従って準備を進める。

### (その他(オフィスアワー等))

ワークショップ参加希望者は

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

を通じてアポを取る。(@)は@に。

Please get in touch with Prof. Asato asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

Or Kyoto University Asian Studies Unit

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目41

科目ナンバリング		G-LET49 8M603 LJ36									
授業科目名 <英訳>		科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング Critical Thinking on Science, Technology and Society				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング									
【授業の概要・目的】											
<p>伊勢田ほか編『科学技術をよく考える』をテキストとして、科学技術と社会の接点で生じるさまざまな問題についてディスカッションを行い、多面的な思考法と、思考の整理術を学んでいく。理系の大学院のカリキュラムでは、科学と社会の関わりについて学ぶ機会はそれほど多く与えられない。他方、東日本大震災後の状況に特に顕著にあらわれているように、科学技術が大きな影響をおよぼす現在の社会において、研究者が自らの研究の社会的含意について考えること、アカデミズムの外の人々と語り合うことの必要性は非常に高まっている。練習問題を使いながら広い視野を持った大学院生を養成することが目的である。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリティカルシンキング(CT)という考え方について知り、CTのいくつかの基本的なテクニックを身につけること</li> <li>・科学技術社会論の概念を学び、それを使って議論ができるようになること</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>授業はテーマにそったグループディスカッション、全体ディスカッション、講義、演習の組み合わせで行われる。          テキストは以下の10のテーマから構成されているが、本授業ではそのうち6つをとりあげ、関連する知識やスキルとあわせて各2回程度を使って議論を行う。取り上げる題材は受講者の興味も踏まえて決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝子組み換え作物</li> <li>・喫煙</li> <li>・血液型性格判断</li> <li>・地震予知</li> <li>・動物実験</li> <li>・脳科学の実用化</li> <li>・乳がん検診</li> <li>・地球温暖化</li> <li>・宇宙科学・技術への公的投資</li> <li>・原爆投下の是非を論じること自体の正当性</li> </ul> <p>初回に前半のテーマ3つを決定する。5回目の授業で後半のテーマ3つを決定する。</p> <p>授業の進行は以下のとおり</p> <p>イントロダクション(1回)          テーマごとのディスカッション(12回)          まとめとフィードバック(2回)</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング(2)へ続く -----											

科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング(2)

**[成績評価の方法・観点]**

3分の2以上の出席が単位発行の最低条件となる。  
積極的な授業参加による平常点が70%、提出物の評価が30%で採点する。

**[教科書]**

伊勢田哲治ほか編 『『科学技術をよく考える クリティカルシンキング練習帳』』 (名古屋大学出版会)

**[参考書等]**

(参考書)

伊勢田哲治 『哲学思考トレーニング』 (筑摩書房)  
野矢茂樹 『新版 論理トレーニング』 (産業図書)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

ディスカッションのテーマとなる箇所は事前に読むこと。また宿題という形で課題を課すことがあるのでそれをきちんと行うこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30 (オンライン授業となった場合は設けない)。  
開講形態は対面式を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンデマンドとリアルタイムを組み合わせたオンライン授業やハイブリッド授業となることもありうる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



大学院共通科目42

科目ナンバリング		G-LET36 6JK01 LE36									
授業科目名 <英訳>		Introduction-Transcultural Studies (Lecture) Introduction-Transcultural Studies (Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 准教授 文学研究科 講師		Mitsuyo Wada-Marciano VASUDEVA, Somdev 安里 和晃 Bjorn-Ole Kamm	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Introduction to Transcultural Studies									
[授業の概要・目的]											
<p>The concept of transculturality can be used both as a heuristic device (e.g. multi-perspectivity and multi-locality) and focus of study (e.g. cultural entanglements). It is embedded in a large and very heterogeneous landscape of theoretical and methodological approaches that come from various disciplines and cover different thematic, historical and geographic areas.</p> <p>Jointly conducted by four researchers from different disciplinary backgrounds, this lecture class will discuss the contributions and limitations of inherited and current notions of transculturality. Focusing on three study areas, "Knowledge, Belief and Religion," "Society, Economy and Governance" and "Visual, Media and Material Culture," and the respective fields of research of the lecturers, theories and methods will be tested, e. g. in explorations of diasporic cinema and cultural identity politics, circular movements in the development of "Modern Postural Yoga," and the relationship between patterns of migration and modes of institutionalization. The goal of the course is to introduce students to diverse disciplinary perspectives enabling them to frame their own studies of transcultural phenomena and perspectives.</p> <p>Study Focus: all. Modules: Introduction to Transcultural Studies.</p>											
[到達目標]											
<p>Students will gain insights into the historical development of theories of transculturality and their application in practical research in the humanities and social sciences. This will allow them to formulate own study projects and prepare them for research dealing with the creation and crossing of cultural borders, entangled histories and forms of circulation.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>The course will be offered in accordance with the following general structure. A detailed plan for each class will be announced in the introduction.</p> <p>IMPORTANT・重要: Parts (1) Introduction and (2) Foundations will be offered online (remote) only or in hybrid form (please go to Panda for the most up-to-date information and the Zoom link).</p> <p>(1) Introduction [1 week] The Introduction to the course covers the aims, methods, requirements and overall organization of the class, including self-introductions by the lecturers and first examples from the three study foci, "Knowledge, Belief and Religion" (KBR), "Society, Economy and Governance" (SEG), and "Visual, Media and Material Culture" (VMC).</p> <p>(2) Foundations [3 weeks] - (lecturer: Bjorn-Ole KAMM)</p>											
Introduction-Transcultural Studies (Lecture)(2)へ続く											

## Introduction-Transcultural Studies (Lecture)(2)

---

The first three-week section of lectures discusses transculturality within the matrix of associated terms and metaphors, such as hybridity, as well as related-but-different perspectives, postcolonialism for example, followed by an introduction into transculturality as heuristic principle and its methodological consequences.

### (3) Knowledge, Belief and Religion [3 weeks] - (lecturer: Somdev VASUDEVA)

During the following three weeks we examine the various circular movements underlying the development of what came to be called "Modern Postural Yoga." In the first lecture, we investigate historical precursors of the relevant phenomena, explore influences of British and Scandinavian physical culture on the development of postural yoga in India in the second lecture, and consider the ways in which the latter was received (back) in Britain and globally in the final class of this section.

### (4) Society, Economy and Governance [3 weeks] - (lecturer: ASATO Wako)

This section will deal with people on the move and practices of control and institutionalization, for example, through immigration policies, minority policies, social integration policies or citizenship, particularly in Asian countries. The focus on cross-border migration and demographic challenges shifts to supranational entities, such as ASEAN, in the last week.

### (5) Visual, Media and Material Culture [3 weeks] - (lecturer: Mitsuyo WADA-MARCIANO)

The last section focuses on transculturality in film and identity politics, dealing with individual filmmaking in PRC in the first week, and looking at aspects of diasporic cinema, especially the concept of transcultural queerness in the second. The last week will examine various archival film practices in the relationship with the realm of visual media.

### (6) Review and Feedback

The lecture class will be accompanied by a weekly discussion class ("tutorium," Code: JK02001), in which students discuss the content of the lectures and the readings, and clarify their understanding of transculturality. Participation in this class is mandatory for students of the major Master in Transcultural Studies and highly recommended for all other students joining from other majors.

#### **[履修要件]**

特になし

#### **[成績評価の方法・観点]**

Active participation in discussion (20%), preparation of mandatory readings and regular submission of short comments/discussion questions (20%); written examination (60%).

#### **[教科書]**

使用しない

#### **[参考書等]**

(参考書)

The course materials as well as lecture slides will be made available via the course Panda webpage.

## Introduction-Transcultural Studies (Lecture)(3)

---

### Introductory readings:

- Appadurai, Arjun. 2005 (1996). *Modernity at Large. Cultural Dimensions of Globalization*. Minneapolis: University of Minnesota Press.
- Brosius, Christiane. 2010. *India's Middle Class. New Forms of Urban Leisure, Consumption and Prosperity*. New Delhi: Routledge.
- Elkins, James et al (eds). 2010. *Art and Globalization*. University Park: Pennsylvania State Univ. Press.
- Morphy, Howard and Morgan Perkins. 2006. *Anthropology of Art. The Reader*. Malden: Blackwell.
- Juneja, Monica. 2011 "Global Art History and the 'Burden of Representation'." In: Hans Belting/Andrea Buddensieg (eds). *Global Studies: Mapping the Contemporary*. Ostfildern: Hatje Cantz.
- Juneja, Monica and Christian Kravagna. 2013. "Understanding Transculturalism." In *Transcultural Modernisms*, ed. Fahim Amir et.al. Berlin: Sternberg Press, 22-33.
- Lackner, Michael, Iwo Amelung and Joachim Kurtz. 2001. *New Terms for New Ideas: Western Knowledge and Lexical Change in late Quing China*. Leiden: Brill.
- Pomeranz, Kenneth. 2000. *The Great Divergence: China, Europe, and the Making of the Modern World Economy*. Princeton: Princeton University Press.
- Sartori, Andrew. 2008. *Bengal in Global Concept History: Culturalism in the Age of Capital*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Kitty Zijlmans/ Wilfried van Damme (eds). 2008. *World Art Studies: Exploring Concepts and Approaches*. Amsterdam: Valiz.

### [授業外学修（予習・復習）等]

Regular homework for this lecture class (readings and short comprehension essays) will play an important role in this course.

### （その他（オフィスアワー等））

Consultation (office hours) by appointment. The course Panda webpage will be available to download the course material.

Please contact Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目43

科目ナンバリング		G-LET36 7JK02 SE36									
授業科目名 <英訳>		Introduction-Transcultural Studies (Tutorium) Introduction-Transcultural Studies (Tutorium)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 Bjorn-Ole Kamm			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Introduction to Transcultural Studies (Discussion session)									
【授業の概要・目的】											
<p>The concept of transculturality can be used both as a heuristic device (e.g. multi-perspectivity and multi-locality) and focus of study (e.g. cultural entanglements).</p> <p>It is embedded in a large and very heterogeneous landscape of theoretical and methodological approaches that come from various disciplines and cover different thematic, historical and geographic areas.</p> <p>Jointly conducted by four researchers from different disciplinary backgrounds, this discussion class complements the lecture series of the same name and deals with the contributions and limitations of inherited and current notions of transculturality. Focusing on three study areas, "Knowledge, Belief and Religion," "Society, Economy and Governance" and "Visual, Media and Material Culture," and the respective fields of research of the lecturers, theories and methods will be tested, e.g. in explorations of diasporic cinema and cultural identity politics, circular movements in the development of "Modern Postural Yoga," and the relationship between patterns of migration and modes of institutionalization. The goal of the course is to deepen students' understanding of transcultural phenomena and perspectives.</p> <p>Study Focus: all. Modules: Introduction to Transcultural Studies.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will discuss the lectures and readings about the historical development of theories of transculturality and their application in practical research in the humanities and social sciences. This will allow them to deepen their understanding of transcultural dynamics, theoretical perspectives, the creation and crossing of cultural borders, entangled histories and forms of circulation.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The course will be offered in accordance with the following general structure. A detailed plan for each class will be announced in the introduction.</p> <p><b>IMPORTANT・重要:</b> Parts (1) Introduction and (2) Foundations will be offered online (remote) only or in hybrid form (please go to PandA for the most up-to-date information and the Zoom link).</p> <p>(1) Introduction [1 week] The Introduction to the course covers the aims, methods, requirements and overall organisation of the class, including guidelines for essay writing and brief overviews of the three study foci, Knowledge, Belief and Religion" (KBR), "Society, Economy and Governance" (SEG), and "Visual, Media and Material Culture" (VMC).</p> <p>(2) Foundations [3 weeks] The first three-week section of readings complements the lecture by Bjorn-Ole KAMM and discusses</p>											
----- Introduction-Transcultural Studies (Tutorium)(2)へ続く -----											

## Introduction-Transcultural Studies (Tutorium)(2)

transculturality within the matrix of associated terms and metaphors, such as hybridity, as well as related-but-different perspectives, postcolonialism for example, followed by an introduction into transculturality as heuristic principle and its methodological consequences.

### (3) Knowledge, Belief and Religion [3 weeks]

In the following three weeks the readings will be discussed that relate to Somdev VASUDEVA's lectures on the concept of transculturality using "Modern Postural Yoga" as an example. In the first lecture, we investigate historical precursors of the relevant phenomena, explore influences of British and Scandinavian physical culture on the development of postural yoga in India in the second lecture, and consider the ways in which the latter was received (back) in Britain and globally in the final class of this section.

### (4) Society, Economy and Governance [3 weeks]

This section will deal with people on the move and practices of control and institutionalization, for example, through immigration policies, minority policies, social integration policies or citizenship, particularly in Asian countries, as they are discussed by ASATO Wako in his lectures. The focus on cross-border migration and demographic challenges shifts to supranational entities, such as ASEAN, in the last week.

### (5) Visual, Media and Material Culture [3 weeks] - (lecturer: Mitsuyo WADA-MARCIANO)

The last section focuses on transculturality in film and identity politics, dealing with individual filmmaking in PRC in the first week, and looking at aspects of diasporic cinema, especially the concept of transcultural queerness in the second. The last week will examine various archival film practices in the relationship with the realm of visual media.

### (6) Review and Feedback

#### 【履修要件】

Participation in the main lecture class Introduction to Transcultural Studies is mandatory. (Code: JK01001).

#### 【成績評価の方法・観点】

Readings (40%), discussion (40%), and active participation (20%)

#### 【教科書】

The course materials as well as lecture slides will be made available via the course Panda webpage.

#### 【参考書等】

(参考書)

The course materials as well as lecture slides will be made available via the course Panda webpage.

#### 【授業外学修(予習・復習)等】

Regular homework for the lecture class (readings and short comprehension essays) will play an important role in this course.

Introduction-Transcultural Studies (Tutorium)(3)

( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Consultation (office hours) by appointment. The course Panda webpage will be available to download the course material.

Please contact Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目44

科目ナンバリング		G-LET36 7JK03 SE36										
授業科目名 <英訳>		Introduction-Introductory seminar (KBR) Introduction-Introductory seminar (KBR)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授				VASUDEVA , Somdev
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	英語	
題目		Introduction to Indian Aesthetics										
【授業の概要・目的】												
This course is designed as a general introduction to the theory and practice of Indian aesthetics. It provides two things: 1) a historiographic survey of the most influential authors, works, and theories; and 2) a narrative account of the major debates and disputes that led to specific evolutions of doctrine and practice.												
【到達目標】												
Students will be introduced to different styles of scholarship and different methods of analysis current in South Asian studies. The aim is to familiarise students with topics of ongoing debate and to provide them with tools to meaningfully engage with newly emerging literature.												
【授業計画と内容】												
<p>Week 1 What is our goal? Introduction to the sources and languages.</p> <p>Week 2 The challenge of South Asian polyglossia, heteroglossia and hyperglossia. What is the point of historiography? How can we periodize and localize South Asia?</p> <p>Week 3 Bharata 's Natyasastra, The Foundational Text, Theatre, Dance, Music, Poetry and Other Arts</p> <p>Week 4 Early Development of the Rasa Theory</p> <p>Week 5 The Early Rhetoricians: Bhamaha and Dandin</p> <p>Week 6 Competing Categories I: Vamana and his Virtues; Defects; Textures; Styles</p> <p>Week 7 Competing Categories II: Rudrata and the Systematisation of Ornaments of Sound, Sense, and Both</p> <p>Week 8 Competing Categories III: Anandavardhana and the New Paradigm: Denotation, Implication, Suggestion, Sentiment</p> <p>Week 9 The Synthesizers: Bhoja and Mammata</p> <p>Week 10 Ruyyaka and the Epistemology of Aesthetics</p> <p>Week 11 Sobhakara's Modal Aesthetics</p> <p>Week 12 Aesthetics as Theology: Visvanatha, Simhabhupala and the Bhakti Movements</p> <p>Week 13 Aesthetics and the New Style of Philosophy: Appayadiksita and Jagannatha</p> <p>Week 14 The Unexpected Return of Figurative Poetry</p> <p>Week 15 Concluding Summary</p>												
【履修要件】												
Regular reading of assigned work and participation in the group discussions.												
Introduction-Introductory seminar (KBR) (2)へ続く												

Introduction-Introductory seminar (KBR) (2)

**[成績評価の方法・観点]**

In class, discussion and contextualization of the assigned readings (40%). One response paper to the discussions of the readings (30%). Homework (30%).

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

The participants are expected to attend every class. The weekly readings of the short sections should take about one hour of preparation for each class.

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



大学院共通科目45

科目ナンバリング		G-LET36 7JK04 SE36									
授業科目名 <英訳>		Introduction-Introductory seminar (SEG) Introduction-Introductory seminar (SEG)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Fieldwork and Qualitative Research of Japanese Society									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is to examine concepts representing Japanese society, economy and governance through previous research and fieldwork. Even though we perceive various concepts on society, economy and governance through media and internet, it is often the case there is a gap between concept and reality when you go to the field. This class takes up various concepts on qualitative research such as field work, ethnography, focus group discussion, action research and so forth. Field visit is also expected such as Buraku community, welfare institution and public schools in the city.</p>											
【到達目標】											
<p>To be able to conceptualize society through primary data gathering in Kyoto. This class requires field research within Kyoto to conceptualize Kyoto itself so that students can grasp Kyoto by collecting data and interpreting what is going on through field visit.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The organization of course is as follows.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. introduction</li> <li>2. qualitative research (1)</li> <li>3. qualitative research (2)</li> <li>4. qualitative research (3)</li> <li>5. history and society (outcast community field visit)</li> <li>6. field visit to community</li> <li>7. diversity in Kyoto (field visit to migrant community center)</li> <li>8. listening and writing anthropology</li> <li>9. education in Japan (field visit to public schools)</li> <li>10. Japan as welfare society (field visit to welfare organization)</li> <li>11. Pandemic and Migration</li> <li>12. qualitative research and commitment(1)</li> <li>13. qualitative research and commitment(2)</li> <li>14. Presentation</li> <li>15. conclusion / feedback</li> </ol> <p>schedule may change due to scheduling.</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- Introduction-Introductory seminar (SEG) (2)へ続く -----											

Introduction-Introductory seminar (SEG) (2)

**【成績評価の方法・観点】**

reflection papers(50%) and term paper(50%)

**【教科書】**

授業中に指示する

**【参考書等】**

( 参考書 )

Corrigall-Brown, Catherine, 2020, *Imagining Sociology: An Introduction with Readings*, 2nd ed., Ontario: Oxford University Press Canada.

Marvasti, Amir, B., 2004, *Qualitative Research in Sociology*, London: Sage Publications.

Mirfakhraie, Amir, 2019, *A Critical introduction to Sociology: Modernity, Colonialism, Nation-Building, Post-Modernity*, Dubuque: Kendall Hunt Publishing Company.

Scheper-Hughes, Nancy, 1995, " The Primacy of the Ethical: Propositions for a Militant Anthropology, " *Current Anthropology*, 36(3): 409-440.

Scheper-Hughes, Nancy, 2009, " The Ethics of Engaged Ethnography: Applying a militant Anthropology in Organs-Trafficking Research, " *Anthropology News*: 13-14.

Francis, Nyamnjoh, B., 2015, " Beyond an evangelising public anthropology: science, theory and commitment, " *Journal of Contemporary African Studies*, 33 (1): 48- 63.

**【授業外学修（予習・復習）等】**

readings and reaction comments are important.

**（その他（オフィスアワー等））**

Please make an appointment through the email below.

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

(@) indicates @

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目46

科目ナンバリング		G-LET36 7JK05 SE36									
授業科目名 <英訳>		Introduction-Introductory seminar (VMC) Introduction-Introductory seminar (VMC)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 Bjorn-Ole Kamm			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Japanese Contemporary Popular Culture: Media Practices in a Global Context									
【授業の概要・目的】											
<p>Japanese popular media practices play not only in Japan a major role in the everyday lives of many people. The course investigates various elements of this popular and consumer culture, such as manga, anime, or games, from a transcultural perspective. The focus of this practice-oriented and interactive seminar lies on theoretical concepts and analytical techniques useful to engage transculturality in the cross-disciplinary research fields of visual, material and media culture.</p> <p>The course revisits key readings for a transcultural approach dealing with visual practices, such as cosplay, and media content, for example, cultural representations of nationality or gender. A second point of departure is formed by questions of production, reception and appropriation by users in and outside Japan. The theoretical input forms the basis for practical exercises in applying these methodologies to concrete cases. The course primarily addresses MATS students of the VMC focus in their first semester but welcomes also students in their second year that are about to define their MA thesis topic. The course requires students to actively participate, do regular written homework and occasionally work in teams. It does not include a written term paper (but see ECTS requirements below!), but several written short pieces and a project report instead.</p> <p>Study Focus: Visual, Media and Material Culture. Modules: Introduction to Transcultural Studies.</p>											
【到達目標】											
<p>The course seeks to establish an understanding not only of theories of transculturality, entertainment and user agency but of various angles of research methodology useful for the study of visual and media practices. Students will exercise to apply key methodologies to contemporary cases studies, such as cyber-ethnography of fans, qualitative visual and textual analysis of manga, or the analysis of discourses surrounding the physical embodiment of fictional characters. The aim of the course is to assist students in taking the leap to a position of knowledge-production and thus focuses on practical exercises and training in academic presentation skills.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>IMPORTANT・重要: The course will be offered online (remote) only (please go to PandA for the Zoom link).</p> <p>A detailed plan for each class will be determined depending on the number of and the feedback from the participants, but will be guided by the following overall procedure:</p> <p>(1) The students gain access to necessary tools via lectures and detailed discussions of methodological and theoretical examples taken from existing research [first five-week period].</p> <p>(2) The class decides on a shared question for project investigations, a specific object and appropriate methods. As networks of humans and artifacts (media), popular culture often necessitates analyses of contents as well as "users." Accordingly, and if the number of participants permits, the class is divided into different project groups (e.g. text analysis, ethnography, cyber-ethnography), working on the same question from</p>											
----- Introduction-Introductory seminar (VMC)(2)へ続く -----											

## Introduction-Introductory seminar (VMC)(2)

different angles (triangulation) [second five-week period].

(3) Employing an e-learning environment (forums, journals), the groups plan and execute the projects under the instructor's supervision. Finally, the groups present results, discuss problems and achievements in accordance with the overall study question [last five-week period].

The lectures, individual preparations (homework/feedback) and group projects will figure 1/3 of the course each.

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

All students: Homework (20%), project work, presentation and report (50%), feedback (10%), active participation (20%). For a full seminar (8 ECTS): A research paper (counting 30% of the overall grade).

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)

The course materials as well as lecture slides will be made available via the course webpage.

The course takes some guiding ideas from "Inside-out Japan? Popular culture and globalization in the context of Japan," by Matthew Allen & Rumi Sakamoto. 2006.

Popular Culture, Globalization and Japan. London & New York: Routledge. pp.1-12. Reading their introduction/book is not mandatory but the chapter may be obtained prior to the course by contacting the instructor.

### 【授業外学修（予習・復習）等】

Participants need to prepare one reading before each in-class session and are asked to write short comprehension essays afterwards. During project phases, participants will conduct group work and submit meeting protocols afterwards. Preparation and review require at least one hour.

### （その他（オフィスアワー等））

Consultation (office hours) by appointment. The course Panda webpage will be available to download the course material.

Please contact the instructor Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目47

科目ナンバリング		G-LET36 7JK06 SE36									
授業科目名 <英訳>		Introduction-Research Skills Introduction-Research Skills				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 Bjorn-Ole Kamm			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Tutorium Basic Research Skills									
【授業の概要・目的】											
<p>This course introduces useful and essential skills for academic research to new JDTS students. Besides providing essential academic skills (using citation systems, finding topic-related literature in the Kyoto university and Heidelberg university library and electronic databases, time management, good scientific practice), the course will also prepare the students for preparing and giving good presentations and writing seminar papers within the JDTS program, including practical advice on formalities and layout. Main questions we will address are: Where and how do I find literature for my presentation and term paper? How do I prepare and give a good presentation? How does a term paper look like? What makes a good term paper? What needs to be included in a term paper? How do I quote correctly and create a bibliography? How to manage my time efficiently? Depending on corona risk levels, the course also includes a guided tour through the main branch of the university library on the Yoshida campus.</p> <p>Study Focus: all. Module: Introduction to Transcultural Studies.</p>											
【到達目標】											
Students will acquire basic academic skills for conducting research and obtain necessary expertise for preparing good presentations and term papers.											
【授業計画と内容】											
<p>IMPORTANT・重要: The course will be offered online (remote) only (please go to PandA for the Zoom link).</p> <p>This course begins after the Foundation sessions of the Introduction to Transcultural Studies lecture (JK01001). Please see PandA for a detailed course schedule. We will cover the topics listed below.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) What is Research?</li> <li>(2) Research Questions and Working Hypotheses</li> <li>(3) Quality and Credibility of Sources</li> <li>(4) Oral Presentations</li> <li>(5) Term Papers</li> <li>(6) Plagiarism</li> <li>(7) Bibliography and Citation Software</li> <li>(8) Time Management</li> </ol>											
----- Introduction-Research Skills(2)へ続く -----											

## Introduction-Research Skills(2)

### 【履修要件】

Mandatory for all first-year students of Transcultural Studies. Please make sure you can access all class material and have a sufficient internet connection for the Zoom meetings. If you have technical issues, please contact the instructor as soon as possible.

### 【成績評価の方法・観点】

Students' grades will be weighed according to the following scheme:

Active participation 30%  
Homework and Exercises 30%  
Final term essay 40%

### 【教科書】

授業中に指示する

The course materials will be made available via the course PandA webpage.

### 【参考書等】

( 参考書 )

Denzin, Norman K. 2009. 『The Research Act: A Theoretical Introduction to Sociological Methods』 ( New Brunswick: Aldine Pub )  
Levin, Peter. 2007. 『Skilful Time Management.』 ( Maidenhead: Open University Press )  
Turabian, Kate L. 2010. 『Student's Guide to Writing College Papers. 4th ed., rev. by Gregory G. Colomb, et al.』 ( Chicago: University of Chicago Press )  
Turabian, Kate L. 2013. 『A Manual for Writers of Research Papers. 8th ed., rev. by Wayne C. Booth, et al.』 ( Chicago: University of Chicago Press )  
Wallwork, Adrian. 2010. 『English for Presentation at International Conferences.』 ( New York: Springer )  
Selection; excerpts will be provided in class.

### 【授業外学修 ( 予習・復習 ) 等】

Every participant is expected to carry out his or her own small research project and give a short presentation in the course. They will be given enough time for assignments in class but might need to do some extra work out of class.

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Consultation (office hours) by appointment. Please contact the instructor Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目48

科目ナンバリング		G-LET36 7JK07 SE36									
授業科目名 <英訳>		Skills for Transcultural Studies I-English Skills for Transcultural Studies I-English				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定助教 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Advanced skills for humanities research in English: reading, writing, and discussion									
【授業の概要・目的】											
<p>The goal of this course is to familiarize humanities-focused students with different genres of academic texts and to develop their abilities to express themselves to international audiences, both in writing and in speech. Simply put, by the end of the course students should be better able to participate in English-language research activities.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will develop their analytical skills and their understanding of how to organize research findings effectively. Intensive reading and writing practice will acquaint them with the vocabulary, grammatical structures, and modes of expression characteristic to academic papers. Presentations and discussions will improve their ability to express opinions about complex academic topics in English.</p> <p>Study Focus: all. Modules: Skills in Transcultural Studies I.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The primary assignments will be two 5-7 page essays. For the first essay, students will be making a persuasive argument. For the second essay, students will be doing a close analysis of a text (or texts), chosen in consultation with the instructor, on a topic related to their research interests. There will be several steps before submitting each essay. First, in the leadup to each essay students will complete three shorter writing exercises. Second, students will read one (or more) essays by their classmates, then provide written and oral feedback.</p> <p>The final project, preparations for which we will discuss throughout the course, is a 10- to 15-minute presentation on a topic related to students' research interests. Essay 2 will provide material around which students can structure their presentations.</p>											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Reading</li> <li>3. Using sources</li> <li>4. Arguments</li> <li>5. Structure</li> <li>6. Peer Review 1</li> <li>7. Testing your argument and discussing writing practices (Essay 1 submission)</li> <li>8. Searching out and gathering up ideas</li> <li>9. Close-reading</li> <li>10. Analysis</li> <li>11. Style</li> </ol>											
----- Skills for Transcultural Studies I-English(2)へ続く -----											

## Skills for Transcultural Studies I-English(2)

12. Editing and Revision
13. Peer Review 2
14. Discussing the mini research presentation (Essay 2 submission)
15. Mini research presentations

Please note that the above content of the course is subject to change. A finalized plan will be determined based on student numbers and feedback.

### 【履修要件】

Evidence of advanced English skills (a TOEIC score of 700 or higher).

### 【成績評価の方法・観点】

Class Participation: 15%  
Exercises: 20%  
Essay 1: 20%  
Essay 2: 25%  
Final Presentation: 20%

### 【教科書】

使用しない  
Reading materials will be provided as PDF files.

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### (関連URL)

<https://www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp/>

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Students will have to read the assigned papers, book chapters, etc, before they are scheduled for class discussion. They are expected to prepare their presentations and essays on their own; assistance with the selection of topics will be offered when necessary.

### (その他(オフィスアワー等))

Office hours: by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



大学院共通科目49

科目ナンバリング		G-LET36 7JK08 SJ36									
授業科目名 <英訳>		Skills for Transcultural Studies I-Advanced Japanese Skills for Transcultural Studies I-Advanced Japanese				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 田中 草大			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Translation of Japanese and its History									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is aimed to help students to have a basic knowledge and understanding about translation of Japanese in terms of Japanese linguistics and history of Japanese. This course has 3 parts.</p> <p>Part 1: Translation between Japanese and English            Part 2: Translation between past Japanese and present Japanese            Part 3 : History of translation in Japan</p>											
【到達目標】											
<p>The goals of this course are to have a basic knowledge and understanding of:</p> <p>(1) what linguistic aspects affect translation between Japanese and other languages (especially English).            (2) what linguistic aspects affect translation between past and present Japanese.            (3) history of translation in Japan.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) Introduction            (2-4) Part 1: Translation between Japanese and English            (5-9) Part 2: Translation between past Japanese and present Japanese            (10-14) Part 3: History of translation in Japan            (15) Feedback</p>											
【履修要件】											
<p>1. Non-Japanese native students.            2. With a comprehension of Japanese.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Report for Part 1: 25%            Report for Part 2: 35%            Report for Part 3: 40%</p> <p>[JDTS/MATS students] This course can be taken as reduced seminar (4 ECTS) only.</p>											
----- Skills for Transcultural Studies I-Advanced Japanese(2)へ続く -----											

Skills for Transcultural Studies I-Advanced Japanese(2)

**[教科書]**

None. Reading materials will be provided.

**[参考書等]**

(参考書)

Will be introduced in classes.

**[授業外学修(予習・復習)等]**

To read papers introduced in classes.

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目50

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar (KBR) Foundations I-Seminar (KBR)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 PASCA, Roman			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Japanese Philosophy and Environmental Ethics									
【授業の概要・目的】											
<p>How do I, as an individual human being, fit into the world of nature? Am I a part of it, or do I control it? Do I have the right to cut a tree? What is my responsibility toward the environment? How do I respond to the current environmental (existential) crisis?</p> <p>In this course, we will start from these questions and try to think together about the different understandings of “ nature ” and about the different ways in which we can engage with it. We will first discuss several fundamental texts for the discipline of environmental ethics, and then move on to focus on views of nature in Japanese philosophical texts.</p>											
【到達目標】											
<p>This class will give students the tools</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) to critically examine theories, notions and concepts related to environmental ethics;</li> <li>2) to understand the philosophical way of looking at nature in Japan;</li> <li>3) to formulate and express their opinions, ideas and arguments in a clear manner in writing, discussions, and oral presentations.</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>For each meeting, we will read and discuss one (or more) short philosophical text(s). The course is structured as follows.</p> <p>Module 1: Preamble</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction. What is “ (Japanese) philosophy ” ? What is environmental ethics?</li> <li>2. Aldo Leopold ’ s land ethic. Rachel Carson, “ Silent spring ”</li> <li>3. Arne Naess and deep ecology</li> <li>4. Haruo Shirane on primary nature and secondary nature</li> </ol> <p>Module 2: Buddhism</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. Reading the Lotus Sutra: two parables</li> <li>6. Kukai: realizing buddhahood in this very body</li> <li>7. Dogen: flowing mountain, flowing water</li> <li>8. “ Original enlightenment ” and buddhahood in plants</li> </ol> <p>Module 3: Confucianism</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. Miura Baien on Heaven and Earth</li> <li>10. Ando Shoeki and shizen as metaphysics of mutual natures</li> <li>11. Ninomiya Sontoku: the “ heavenly way ” and “ the humanly way ”</li> </ol> <p>Module 4: Contemporary philosophy</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>12. Nature and activism: Eto Tekirei and Minakata Kumagusu</li> </ol>											
----- Foundations I-Seminar (KBR)(2)へ続く -----											

## Foundations I-Seminar (KBR)(2)

13. Watsuji Tetsuro ' s notion of fudo  
14. Imanishi Kinji and ecological thought  
15. Roundup. Course summary and reflection: what is “ nature ” ?

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Active class participation (25%), Presentation (25%), Final report (50%)

To JDTS/MATS students: This course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

### 【教科書】

None. The reading materials will be provided in class / uploaded on KULASIS.

### 【参考書等】

( 参考書 )  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

Students will be required to read the materials in advance and come prepared to discuss them.

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

# 大学院共通科目51

科目ナンバリング		G-LET36 6JK10 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar(SEG) Foundations I-Seminar(SEG)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定助教 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		What Is Transcultural History?									
【授業の概要・目的】											
<p>Although national borders typically structure academic research, historical change extends beyond individual nation-states. In many cases, topics such as imperialism, migration, travel, scientific and technological change, capital flows, artistic movements, and language cannot be grasped without examining supra-national and sub-national scales.</p> <p>This course allows students to examine the methods, assumptions, and findings of recent historical work that can be variously (and perhaps simultaneously) be classified as "global," "transnational," and "transcultural." A key focus of the seminar is to engage deeply with book-length monographs that cover a wide range of case studies and approaches. Students will evaluate and discuss research that makes use of multi-location, multi-lingual historical archives, field sites, and interview subjects. Along the way, they will have the opportunity to plan global, transnational, and/or transcultural historical projects of their own.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>• To understand recent trends in English-language global, transnational, and transcultural historical research</li> <li>• To develop research questions that address border-crossing historical problems</li> <li>• To work with historical archival sources on campus and through online sources</li> <li>• To enable students to sharpen their skills in critical analysis through structured reading, discussion, written assignments and a small scale research project.</li> </ul> <p>Study Focus: Society, Economy and Governance. Modules: Focus I-- Foundations I.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Ideas of (Cultural) History</li> <li>3. Space</li> <li>4. Global/Transnational History</li> <li>5. Material Culture</li> <li>6. (Global) Microhistory</li> <li>7. Mid-Term Exam</li> <li>8. Migration and Mobility</li> <li>9. Modes of Comparison and Connection</li> <li>10. Gender</li> <li>11. Labor</li> <li>12. Race</li> <li>13. Environment</li> <li>14. Knowledge on the Move: Science and Technology</li> </ol>											
----- Foundations I-Seminar(SEG) (2)へ続く -----											

## Foundations I-Seminar(SEG) (2)

### 15. Paper Presentations

(Please note that topics are subject to change)

#### 【履修要件】

特になし

#### 【成績評価の方法・観点】

Attendance, participation, and presentations in class (30%)

Short weekly reading responses (25%)

Midterm essay on course readings (15%)

Final paper (30%)

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

#### 【教科書】

授業中に指示する

At least one copy of the books should be available in the library and through the university's online subscriptions, although in some cases (particularly during the weeks where you are responsible for presenting) it may be advisable to purchase a new or used copy for yourself.

In other cases, articles will be available for download through the university library or distributed before class.

#### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

#### 【授業外学修(予習・復習)等】

• Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions and presentations each week.

• Students are expected to actively participate in preparations for the final project.

#### (その他(オフィスアワー等))

• Office hours will be held once a week at a fixed time (to be determined) and by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目52

科目ナンバリング		G-LET36 6JK11 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar(VMC) Foundations I-Seminar(VMC)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 Mitsuyo Wada-Marciano			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4,5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Cinema and Media Studies Seminar: Reading Queer Theory and New Queer Cinema									
【授業の概要・目的】											
<p>In this graduate seminar, we will read various queer theories and writings of queer cinema from the 1990s to present. We will expand our knowledge on gender politics through the readings with several questions in our mind: What is queer theory? What is new queer cinema? What are advantage and disadvantage of queer theory? What is the relationship between “ identity, ” “ gender, ” “ sex, ” “ queer, ” and “ trans* ” ? What has been queer theory ’ s influence on our lives? What are the future possibilities of the theory?</p> <p>Our goal is twofold: 1) overviewing queer theories and new queer cinema, spanning almost three decades; 2) investigating how we could apply the theories to our own interests, for instance, in LGBTQ art and queer cinema.</p> <p>The structure of this course is similar to a reading group: each week, two or three students will present outlines of the assigned readings, after which, the entire class will engage in discussion of the reading materials. All students are expected to come to class having completed the week ’ s readings, and be prepared to discuss them. There will be some film screenings during classes.</p>											
【到達目標】											
<p>This class will give students the tools to map the current state of gender politics, queer theory, and queer cinema. All students will strengthen their ability to communicate clearly and make persuasive arguments orally and in writing.</p> <p>By the end of this course, students are expected to be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) expand knowledge of issues queer theory and queer cinema;</li> <li>(2) draw on concepts from queer theory to analyze any media culture</li> <li>(3) make original arguments and support them with evidence and a logical chain of reasoning</li> <li>(4) communicate their ideas clearly in writing, discussions, and oral presentations</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
Lesson 1&2 Introduction											
Lesson 3&4 Lesbian Theories, Gay Theories 1											
[Reading Assignments]											
Patricia White, “ Female Spectator, Lesbian Specter: The Haunting, ” in Inside/Out: Lesbian Theories, Gay Theories, ed. Diana Fuss (New York and London: Routledge, 1991).											
[Screening]											
----- Foundations I-Seminar(VMC) (2)へ続く -----											

## Foundations I-Seminar(VMC) (2)

---

The Haunting (dir. Robert Wise, 1963, 112 min.)

Lesson 5&6 Lesbian Theories, Gay Theories 2

[Reading Assignments]

Richard Dyer, "Believing in Fairies: The Author and the Homosexual," in *Inside/Out: Lesbian Theories, Gay Theories*, ed. Diana Fuss (New York and London: Routledge, 1991).

[Screening]

Christopher Strong (dir. Dorothy Arzner, 1933, 88 min.)

Lesson 7&8 Queer Theory 1

[Reading Assignments]

-Judith Butler, "Imitation and Gender Insubordination," in *Inside/Out: Lesbian Theories, Gay Theories*, ed. Diana Fuss (New York and London: Routledge, 1991).

-Judith Butler, "Preface," *Gender Trouble: Feminism and Subversion of Identity* (New York and London: Routledge, 1990).

[Screenings]

-Paris Is Burning (dir. Jennie Livingstone, 1990, 71 min.)

<https://www.youtube.com/watch?v=xf6Cn2y2xEc>

-Life After Paris Is Burning (2019, 12:34min.)

<https://www.youtube.com/watch?v=c4YUO1CudXY>

Lesson 9&10 Queer Theory 2

[Reading Assignments]

Teresa de Lauretis, "Queer Theory," *Differences*. (Vol.13, No. 2).

Judith Butler, "Chapter One: Subjects of Sex/Gender/Desire," *Gender Trouble: Feminism and Subversion of Identity* (New York and London: Routledge, 1990).

[Screening]

The Killing of Sister George (dir. Robert Aldrich, 1968, 138 min.)

Lesson 11&12 Reading Eve Kosofsky Sedgwick

[Reading Assignments]

Eve Kosofsky Sedgwick, "Introduction" and "Chapter 1," in *Epistemology of the Closet* (1990).

- "Introduction"

- "Chapter 1"

[Screening]

History Lessons (dir. Barbara Hammer, 2000, 95 min.)

Lesson 13&14 Student Presentations

Lesson 15 New Queer Cinema

[Reading Assignments]

B. Ruby Rich, *New Queer Cinema: The Director's Cut* (Durham and London: Duke University Press, 1993)

- Before the Beginning: Lineages and Preconceptions

- The New Queer Cinema: Director's Cut

- Collision, Catastrophe, Celebration: The Relationship between Gay and Lesbian Film Festivals and Their Publics



## Foundations I-Seminar(VMC) (3)

---

- What ' s a Good Gay Film?
  - A Queer and Present Danger: The Death of New Queer Cinema?
- [Screening]  
his (dir. Rikiya Imaizumi, 2020, 127 min.)

### 【履修要件】

Number of participants not more than 10.

### 【成績評価の方法・観点】

(1) Active Participation-----20% (attendance 10% + participation 10%)

(2) Reading Report-----10%

You are asked to write a brief essay (3-4 pages) on an article or chapter (per essay) from the readings. Choose one reading from weeks 2-4 and write your reading reports. Your essays must include the following sections:

1. Summary: Briefly summarize the argument of the article you chose (approximately 1 page), in your own words. You can quote the article, of course, but do not just repeat a bunch of passages from the reading. Quotes must be integrated into your own paraphrasing of the article. Remember, when you quote from an article, you must properly cite your source.

2. Critique: Offer a critique of the reading (approximately 2 to 3 pages), discussing which aspects of the reading seem valid and which ones are less convincing and explain why. You can use external sources to support your argument. If you do, make sure to cite your sources properly.

(3) Lead discussions of reading materials-----40% (3 or 4 articles)

(4) Presentation on your final essay topic-----10%

-All presentations will be held on May 25th.

-The total length of your presentation is 20 minutes.

-Please come up with a one-page outline of your presentation, make copies of it and provide them to all classmates & me in class.

-Evaluations of presentations are based on the following aspects:

1. level of thesis (focused, connected with any discourse related with our discussions in class)
2. adequate supports (quality of research, awareness of the existing literature)
3. organization of presentation
4. ideas (Is your presentation interesting? Is there any new ideas in your presentation?)

(5) Final essay on queer cinema-----20%

You will write your final essay based on your presentation. If you need to change your essay topic from the presentation, you must consult with me first. 15 pages in length is maximum (1.5 space; font 11), and its due date is on June 1st (Tuesday). Print out and submit your essay in a hard copy in class. No late papers will be accepted.

## Foundations I-Seminar(VMC) (4)

### [教科書]

授業中に指示する

All reading materials will be scanned and distributed by me.

### [参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

Reading references will be introduced in each classes.

### [授業外学修(予習・復習)等]

All students are supposed to come to class after reading each week 's reading materials.

### (その他(オフィスアワー等))

Students may speak with me after each class, or make an appointment with me over email. My office hours will be Tuesday 12:00-13:00.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目53

科目ナンバリング		G-LET36 6JK11 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar(VMC) Foundations I-Seminar(VMC)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 印南 芙沙子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Polygraphing Japonisme: (Re)tracing the circulation of cultural imaginaries									
【授業の概要・目的】											
<p>This course aims to approach Japonisme not only as a visually oriented “Japanese/Eastern craze” but as a critical whole-body engagement, with depictions and representations of “other” cultures in literature, visual culture, and performance. It also intends to proactively examine the formation and the development of cultural theory, in conjunction with the emergence of various “-isms” from the late nineteenth century onward. Through multimedia texts/examples (e.g., travel writing/diaries, essays/novels, operas/music scores, prints/photographs/films) produced by people who visited/lived/were interested in Japan, as well as by Japanese natives, with cross-cultural interactions and imaginations, this course explores how various ways of “graphing” (tracing creatively) cultural imaginaries shaped the broader trend of Japonisme. Overall, by approaching Japonisme through the interconnected web of multimedia representations and cultural discourses, this course critically rereads the modern circulation of cultural images focused on vision and literacy. Moreover, it suggests a mode of multisensory engagement in arts, which can ask several fundamental questions, including how each sense modality and art form relate to one another, how arts contribute to conscious living and to the environment, and above all, how we shape and “rewrite/regraph” cultural knowledge.</p>											
【到達目標】											
<p>By the end of this course, students are expected to possess a critical understanding of a range of texts, images, and representations with relevant artistic, theoretical, and political trends in a global sphere, as well as knowledge of relevant cultural debates, such as orientalism, colonialism/post-colonialism, and modernism in directly relevant fields. Students are expected to have the ability to critically analyze a variety of textual genres and performance/visual/media cultures, think across disciplines, and undertake cross-cultural analyses by proactively thinking about ways to bridge cultural and social differences. Moreover, they will have enhanced abilities in critical thinking, essay writing, oral presentation, and independent research, as well as skills in teamwork through peer support/group reading.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Session 1-2: Introduction: Art, Life, and Expression            Session 3-4: Circulation: Objects, Commodities, or Float            Session 5-6: Photogenic Screen and Cultural Imaginaries            Session 7-8: Encounter: Emotion and Love as Matter of Political Economy            Session 9-10: Operatic Japonisme            Session 11-12: Impressionistic Sonic Sceneries            Session 13-14: Living the Double Identities            Session 15: Reflection: Cultural Translation</p>											
											Foundations I-Seminar(VMC)(2)へ続く

## Foundations I-Seminar(VMC)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Students are expected to prepare a 500-word response paper for each of paired sessions - no submission is required, although students can use it as a part of their in-class oral presentations (this oral presentation weighs 10 points, 10% of overall mark), leading to the final assessment through one dossier submission. Students will submit a written essay/paper dossier (5,000 words, which weighs 90 point, 90%), to be marked according to 6 grades. Teaching and assessment will be in English; when the reading materials include texts written in other languages (i.e., when a published English translation is unavailable), English translation will be provided.

### 【教科書】

Chelsea Foxwell and Anne Leonard, eds 『Awash in Color: French and Japanese Prints』 ( University of Chicago Press, 2012 )  
Miya Elise Mizuta Lippit 『Aesthetic Life: Beauty and Art in Modern Japan』 ( Harvard University Asia Center, 2019 )  
Josephine D. Lee 『The Japan of Pure Invention: The Racial History of Gilbert and Sullivan ' s The Mikado』 ( University of Minnesota Press, 2010 )  
Seiji Lippit , ed 『The Essential Akutagawa』 ( Marsilio, 1999 )  
Maureen Honey and Jean Lee Cole 『Madame Butterfly and A Japanese Nightingale』 ( Rutgers University Press, 2002 )  
Alexandra Kieffer 『Debussy ' s Critics: Sound, Affect, and the Experience of Modernism』 ( Oxford University Press, 2019 )  
Chapters from above-mentioned books as well as journal articles and additional materials (handouts) will be used.

### 【参考書等】

( 参考書 )  
授業中に紹介する

### 【授業外学修 ( 予習・復習 ) 等】

Students are expected to conduct independent learning and research during the course. This includes independent reading, critical/analytical thinking, and essay-writing. Above-mentioned 500-word response papers can be used toward oral presentation and the final paper, so that students will engage with essay writing as a process throughout the course.

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Office hours will be held with appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目54

科目ナンバリング		G-LET36 6JK11 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar(VMC) Foundations I-Seminar(VMC)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 KITSNIK Lauri			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Transcultural Dialogues in Japanese Popular Music									
【授業の概要・目的】											
<p>The aim of this course is to provide a survey of major developments in Japanese popular music since 1945 to this day. Perhaps more than any other medium, popular music has been dependent on an ongoing dialogue with contemporaneous global trends, particularly those emerging from the US, and in the process adopting and adapting various genres ranging from jazz to hip-hop. This course will take us through the late 1940s proliferation of blues idioms, the rockabilly boom of the 1950s, 'Group Sounds' and folk rock movements of the 1960s, 'New Music' and 'Techno Pop' of the 1970s and 1980s, and rap music since the 1990s, leading to a regional expansion and global exposure of J-Pop around the turn of the century. By listening and paying attention to the soundtrack of contemporary Japan, we will reconsider the capacity of popular music to successfully navigate between polarities such as art and industry, authenticity and commercialism, mainstream and underground, tradition and innovation, indigenous and foreign. Methodologically, this course aims to strike a balance by drawing both from cultural studies and ethnographic approaches.</p>											
【到達目標】											
<p>The students will</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) gain knowledge on the historical development of Japanese popular music, its key genres and major artists;</li> <li>2) learn to relate the above trends to a wider historical, social and geopolitical context;</li> <li>3) become familiar with various approaches for studying popular music with an opportunity to apply these on their own future research projects;</li> <li>4) acquire skills for textual and musical analysis of popular music;</li> <li>5) extend their abilities to summarise past scholarship in oral presentation, and communicate their own original arguments in classroom discussion and writing.</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Bourdaghs, Introduction and The Music Will Set You Free, p. 1-48</li> <li>3. Bourdaghs, Mapping Misora Hibari, p. 49-84</li> <li>4. Bourdaghs, Mystery Plane, p. 85-112</li> <li>5. Bourdaghs, Working within the System, p. 113-157</li> <li>6. Bourdaghs, New Music and the Negation of the Negation, p. 159-194</li> <li>7. Bourdaghs, The Japan Than Can "Say Yes" and Coda, p. 195-228</li> <li>8. Condry, Introduction, p. 1-23</li> <li>9. Condry, Yellow B-Boys, Black Culture, and the Elvis Effect, p. 24-48</li> <li>10. Condry, Battling Hip-Hop Samurai, p. 49-86</li> <li>11. Condry, Genba Globalization and Locations of Power, p. 87-110</li> <li>12. Condry, Rap Fans and Consumer Culture, p. 111-133</li> <li>13. Condry, Rhyming in Japanese, p. 134-163</li> <li>14. Condry, Women Rappers and the Price of Cutismo, p. 164-180</li> <li>15. Condry, Making Money, Japan-Style and Conclusion, p. 181-220</li> </ol>											
----- Foundations I-Seminar(VMC) (2)へ続く -----											

## Foundations I-Seminar(VMC) (2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Individual presentation, participation in classroom discussion, final essay

### 【教科書】

Michael Bourdagh 『Sayonara America, Sayonara Nippon: A Geopolitical Prehistory of J-Pop』 (Columbia University Press, 2012)

Ian Condry 『Hip-Hop, Japan: Rap and the Paths of Cultural Globalization』 (Duke University Press, 2006)

### 【参考書等】

(参考書)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Read the assigned textbooks during the course

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目55

科目ナンバリング		G-LET36 6JK12 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar (KBR/SEG) Foundations I-Seminar (KBR/SEG)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Philosophy of Science in Japanese Context: Advanced Introduction to Philosophy of Science									
【授業の概要・目的】											
<p>この特殊講義においては科学哲学の古典的な論文や基礎的な論文を中心とした講義を通して、科学哲学という分野に入門することをめざします。具体的には、前半ではヘンペル、キッチャー、ファン＝フラッセン、ファインらの古典的な論文を核として、その背景についてレクチャーを行います。後半では、近年注目を集める研究領域からいくつかをピックアップし、関連する基礎文献をリーディングとしつつ、背景や現在の諸問題との関わり（特に日本という文脈での含意）についてレクチャーを行います。こうした文献の読解とレクチャーを通して、科学哲学という分野の広がりを知ってもらうことがこの授業のねらいです。</p> <p>The aim of this special lecture is to introduce the participants into the field of philosophy of science through lectures focusing on classic and basic papers in the field. More concretely, In the first half of the class, we read classic papers of Hempel, Kitcher, van Fraassen, Fine and others. Lectures on the background of the papers will be given. In the latter half of the class, we pick up several areas in philosophy of science that attract attention recently. We read related basic literature and there will be lectures on the background, relationship with contemporary issues (especially implications in Japanese context) of the readings. Through such readings and lectures, this class try to show the breadth of the field of philosophy of science.</p>											
【到達目標】											
<p>科学哲学という分野の主要な課題を説明できるようになる。科学哲学の考え方を現在のさまざまな問題と結びつけることができるようになる。</p> <p>To be able to explain the historical background and basic issues of the field of philosophy of science. To be able to connect ideas in philosophy of science to various contemporary issues.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業は日本語と英語で行われます。</p> <p>第一部 科学哲学の古典的諸問題  1 科学的説明（4週）  2 科学的实在論（3週）</p> <p>第二部 科学哲学のさまざまな基礎的課題  3 統計の哲学（3週）  4 フェミニスト科学哲学（2週）  5 科学的理解（2週）</p> <p>まとめ(1週)</p>											
----- Foundations I-Seminar (KBR/SEG) (2)へ続く -----											

## Foundations I-Seminar (KBR/SEG) (2)

---

The lectures will be given both in Japanese and English.

### Part I Classical Issues of Philosophy of Science

1. Scientific Explanation (3 weeks)
2. Scientific Realism (3 weeks)

### Part II Various Basic Issues in Philosophy of Science

- 3 Philosophy of Statistics (3 weeks)
- 4 Feminist Philosophy of Science (3 weeks)
- 5 Scientific Understanding (2 weeks)

Wrap up (1 week)

### **[履修要件]**

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.

### **[成績評価の方法・観点]**

二回のレポートで評価を行う(各50%)。評価は、授業内容を理解できていること、またその理解した内容を適切に活用して具体例が分析できていること、という視点から行う。

The evaluation will be based on two papers (50% each). The points of view of the evaluation are the understanding of the content of the class and appropriate application of the understanding to concrete cases.

### **[教科書]**

前半については以下の書籍から関連箇所を授業内で配布。後半については別途指示する  
Martin Curd et al. eds. (2013) Philosophy of Science: The Central Issues, Second edition. Norton.

For the first half of the class, relevant parts of the following book will be distributed in the class. Readings for the latter half will be assigned in the class.

Martin Curd et al. eds. (2013) Philosophy of Science: The Central Issues, Second edition. Norton.

### **[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する



## Foundations I-Seminar (KBR/SEG) (3)

### [授業外学修（予習・復習）等]

宿題となったリーディングは事前に読み、クラスディスカッションに参加できるようにしておくことを求めます。

Participants are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30（オンライン授業となった場合は設けない）。

開講形態は対面式を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンデマンドとリアルタイムを組み合わせたオンライン授業やハイブリッド授業となることもありうる。

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30 (If the class goes to online, there will be no office hours).

The current plan is that the class meets in a face-to-face manner, but the plan may be changed to an online style or hybrid style where on-demand lectures and real-time discussions are used, depending on the situation with COVID-19.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目56

科目ナンバリング		G-LET36 6JK12 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar (KBR/SEG) Foundations I-Seminar (KBR/SEG)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 児玉 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		An Introduction to Bioethics									
【授業の概要・目的】											
<p>Is it okay to take pills to help you ace exams? Should you be able to choose the sex of your child? Is abortion murder?</p> <p>These controversial questions will be explored in this bioethics course. Bioethics is an interdisciplinary field of study that looks into ethical, legal, and social implications of life sciences and health care. This course will help you understand key ethical issues surrounding crucial problems that profoundly impact your life from birth to death.</p> <p>Topics include:          Reproductive technology such as surrogacy and sex-selection of the baby          Abortion          Informed consent          Euthanasia          The use of medical technology for the purpose of enhancement</p> <p>You will also learn about ethical arguments and regulations in Japan and other countries concerning life sciences and healthcare. The hope is, through this course, you will better understand and formulate your own opinions on these important issues.</p> <p>This course is based on the idea of flip teaching: you need to watch the lecture video before attending the class and have a discussion with other students.</p> <p>Study Focus: Knowledge, Belief and Religion; Society, Economy and Governance. Modules: Focus I -- Foundations I.</p>											
【到達目標】											
<p>You will learn:          Basic terms for bioethics          Basics of ethical arguments          How decisions are made on critical bioethics issues          Regulations and public policies related to bioethical issues in Japan and other countries</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Discussion topics include:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. What is Bioethics?</li> <li>2. The Ethics of Assisted Reproductive Technology</li> <li>3. The Ethics of Truth-Telling</li> <li>4. Is Abortion “ Murder ” ?</li> <li>5. What ’ s Wrong with Enhancement?</li> <li>6. Is Euthanasia Wrong?</li> <li>7. Living-Donor Organ Transplantation</li> <li>8. Cloning Technology</li> </ol>											
----- Foundations I-Seminar (KBR/SEG)(2)へ続く -----											

## Foundations I-Seminar (KBR/SEG)(2)

9. ES Cells and iPS Cells
10. Lifespan and Eternal Life
11. Brain Death and Organ Transplants
12. Genome Editing and Ethics
13. The Problem with "Suicide Tourism"
14. Forgoing Life-Sustaining Treatment
15. The Ethics of Ageing

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Class attendance and active participation (70%), small quiz tests that come with the video lectures (30%).

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as a reduced seminar (4 ECTS) only.

### 【教科書】

Kodama, Satoshi & Natsutaka 『EXPLORING BIOETHICS THROUGH MANGA: Questions on the Meaning of "Life" 』 ( Kyoto: Kagakudojin ) ISBN:978-4759827774

### 【参考書等】

( 参考書 )

Tony Hope and Michael Dunn 『Medical Ethics: A Very Short Introduction 2nd ed.』 ( Oxford University Press ) ISBN:978-0198815600

### 【授業外学修（予習・復習）等】

This course is based on the idea of flip teaching: you need to watch the lecture video before attending the class and have a discussion with other students. Each lecture video with a small quiz test lasts for less than one hour.

### （その他（オフィスアワー等））

Students are encouraged to try to understand each other's perspective on issues related to life and death.

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目57

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar (KBR/VMC) Foundations I-Seminar (KBR/VMC)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 張本 研吾			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Tokusatsu films and TV shows: as a window to cultural transfers to and from Japan in the third quarter of the 20th century									
【授業の概要・目的】											
This course aims to introduce students to the transculturality of twenty-five years of post-WWII Japan by means of Tokusatsu films and TV shows represented by Godzilla movies and the Ultraman series. We pay attention to their interactions with other cultural phenomena of the era. Some of the cultures involved include the ones that adopted: the US, Europe and Asia. Other cultures that inspired the Japanese include that of India.											
【到達目標】											
Students will develop eyes to discern social and cultural phenomena that traversed different cultures through seemingly popular entertainment. They will become familiar with diverse social, political and cultural matters that influenced the creation and spread of such entertainment.											
【授業計画と内容】											
Week 1 and 2: Godzilla 1954: Birth of Godzilla, atomic bomb, hydrogen bomb, natural disasters, the century of science and technology											
Week 3: Acceptance of Godzilla movies in the West: Cold War, exoticism											
Week 4: Rodan 1956: Known better outside Japan, industry and economy of Japan in early post-war period, early movie tourism, JSDF											
Week 5: Mothra 1961: US occupation of Japan, Anpo protests (anti US-Japan Security Treaty movement), Japanese view of Southeast Asia											
Week 6: Godzilla vs King Kong (1962)											
Week 7: Mothra vs Godzilla (1964):											
Week 8: Ghidorah, the Three-headed Monster (1964): Roman Holiday, space age, Japan 's changing mood											
Week 9: Invasion of Astro-Monster (1965): Japanese mythology, Space race, UFOs											
Week 10 and 11: Ultra series (1966#8211): Japanese answer to Superman; Buddhist inspiration?											
Week 12 and 13: Detour: From the Bhagavadg#299t#257 to Godzilla: Oppenheimer, Nazi leadership, Indian philosophy; the idea of avat#257ras											
Week 14: The 6 Ultra Brothers vs. the Monster Army (1974 Thai production): How cultures transfer and											
----- Foundations I-Seminar (KBR/VMC)(2)へ続く -----											

## Foundations I-Seminar (KBR/VMC)(2)

merge, how the locality and age affect creations

Week 15: Godzilla vs Hedorah: back to the roots? clear case of cultural commentary to the current crisis and conclusion to the course

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Class participation 40%; Homework 40%; Final paper: 20%

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Due to time constraints, students are advised to watch the subject films prior to the class.

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目58

科目ナンバリング		G-LET36 6JK14 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar (SEG/VMC) Foundations I-Seminar (SEG/VMC)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学グローバル・スタ ディーズ研究科・准教授 菅野 優香			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3,4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Cinematic Imaginations: Feminist and Queer Film Criticism									
【授業の概要・目的】											
<p>In this seminar, students will be introduced to major debates in feminist and queer film theory and criticism while exploring critical concepts in fields such as women ' cinema, feminist and queer aesthetics and politics, realism, cinema verite, autobiography, and cinematic modernism. We will engage several key genres and modes (documentary, avant-garde, narrative cinema) in order to focus on the very central questions that have informed and shaped feminist and queer approaches to film texts. This seminar aims to examine the different ways in which feminist and queer theoretical and critical discourses address the intersections of gender, sexuality, and race through concrete analysis of these films. The course consists of film screenings, lectures, and discussions based on the assigned readings.</p>											
【到達目標】											
<p>Through this seminar, students will be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Understand the historical developments of feminist and queer film criticism while learning key concepts and debates.</li> <li>• Develop the skills to analyze the film forms, aesthetics, and thematic concerns and the ways in which the issues of gender, sexuality, and race/ethnicity are expressed through them.</li> <li>• Construct compelling arguments on the social and political implications of film texts.</li> <li>• Situate the visual and cultural texts amid wider social and historical contexts.</li> <li>• Cultivate the analytical abilities to apply feminist and queer critical perspectives to contemporary visual culture.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1: Women ' s Cinema and Feminist Aesthetics (each week is consisted of 2 class unites/3 hours) Introduction and Overview</p> <p>Readings:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Teresa de Lauretis, " Aesthetic and Feminist Theory: Rethinking Women ' s Cinema, " New German Critique 34 (1985): 154-175.</li> </ul> <p>Screenings: Clips from: Jeanne Dielman, 23 Quai du Commerce, 1080 Bruxelles (Chantal Akerman, 1975) and Born in Frames (Lizzie Borden, 1983)</p> <p>Week 2: Early Queer Cinema</p> <p>Readings:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• B. Ruby Rich, " From Repressive Tolerance to Erotic Liberation: Maedchen in Uniform, " in Chick Flicks: Theories and Memories of the Feminist Film Movement (Durham and London: Duke UP, 1998): 179-206</li> </ul>											
----- Foundations I-Seminar (SEG/VMC) (2)へ続く -----											

## Foundations I-Seminar (SEG/VMC) (2)

---

• Richard W. McCormick, "From ' Caligari ' to Dietrich: Sexual, Social, and Cinematic Discourses in Weimar Film." *Signs* 18:3 (1993): 640-68.

Screening: *Medchen in Uniform* (Leontine Sagan, 1931)

Week 3: The Feminist Film Movement and Documentary

Readings:

• Shilyh Warren, ch.3. " Strangely Familiar: Autoethnography and Whiteness in Personal Documentaries, " *Subject to Reality: Women and Documentary Film* (Urbana, Chicago, and Springfield: University of Illinois Press, 2019): 67- 96

• Julia Lesage, " The Political Aesthetics of the Feminist Documentary Film, " *Issues in Feminist Film Criticism*, ed. Patricia Erens (Bloomington and Indianapolis: Indiana University Press, 1979/1990): 216-237.

Screenings: *Janie ' s Janie* (Geri Ashur, Peter Barton, Marilyn Mulford, Stephanie Pawleski, Newsreel, 1971), *Joyce at 34* (Joyce Chopra, 1972), *Union Maids* (Julia Reichert et al., 1976).

Critical Response Paper #1

Week 4: Reconsidering Realism: Experimental Autobiography

Readings:

• Michell Citron, " Fleeing from Documentary: Autobiographical Film/Video and the ' Ethics of Responsibility, " in *Feminism and Documentary*, ed., Diane Waldman and Janet Walker (Minneapolis and London: University of Minnesota Press, 1999): 271- 286.

• Linda Williams and B. Ruby Rich, " The Right of Re-Vision: Michell Citron ' s *Daughter Rite*, " *Film Quarterly* 35:1 (1981): 17-22.

Screening: *Daughter Rite* (Michelle Citron, 1978)

Week 5: Modernism and Avant-Garde

Readings:

• Laura Mulvey, " Film, Feminism and the Avant-Garde, " in *Visual and Other Pleasures* (London: Palgrave Macmillan, 1989): 111- 126.

• Judith Mayne, " Su Friedrich ' s *Swimming Lessons*, " in *Framed: Lesbians, Feminist, and Media Culture* (London and Minneapolis: University of Minnesota Press, 2000): 193-211.

Screenings: *Meshes of Afternoon* (Maya Deren, 1946), *Sink or Swim* (Su Friedrich 1990).

Critical Response Paper #2

Week 6: Hollywood Narrative Cinema and Feminist Film Criticism

Readings:

• Florence Jacobowitz, " Hitchcock and Feminist Criticism: From Rebecca to Marnie, " in *A Companion to Alfred Hitchcock*, ed. Thomas Leitch and Leland Poague (Wiley-Blackwell, 2011): 452-472.

## Foundations I-Seminar (SEG/VMC) (3)

• Rhona J. Berenstein, “ ‘ I ’ m Not the Sort of Person Men Marry ’ : Monsters, Queers, and Hitchcock ’ s Rebecca, ” in *Out in Culture: Gay, Lesbian, and Queer Essays on Popular Culture*, ed. Corey K. Creekmur and Alexander Doty (London and Durham: Duke University Press): 239-261.

Screening: *Rebecca* (Alfred Hitchcock, 1940)

Week 7: New Queer Cinema

Readings:

- Pratibha Parmar, “ Queer Questions: A Response to B. Ruby Rich, ” and Amy Taubin, “ Queer Male Cinema and Feminism, ” in *Women and Film: A Sight and Sound Reader*, ed., Pam Cook and Philip Dodd (Temple UP, 1993), 174-179.
- bell hooks, “ Is Paris Burning? ” *Black Looks: Race and Representation* (Boston South End Press, 1992), 145-156.

Screening: *Paris Is Burning* (Jennie Livingston, 1990)

Week 8: Presentations and Feedback

Presentations (20 minutes/person)

Feedback and Discussion

### 【履修要件】

Films and clips in the syllabus will be shown in seminar. Please turn off all the electronic devices, including cell phones, laptops, and tablets.

### 【成績評価の方法・観点】

Regular attendance and active participation (10 %)

Please come to class ready to actively participate, having completed all readings and assignments in advance.

Discussion Facilitation (10%)

Each student will facilitate and lead seminar discussion, either alone or with another student, depending on the seminar size. Please include a summary and the main arguments from the assigned readings as well as biographical information of the author. Formulate some questions from the readings (and screenings) to generate discussion.

Two Critical Response Papers (20% × 2 = 40%)

A critical response paper consists of a 3 - 4 page short essay in which you will write a critical review of a film screened for the seminar. This assignment is aimed at giving you an opportunity to practice film criticism and learn to analyse and write about film texts.

Presentation (10%)

Please give a presentation (20 minutes) on your topic for the final essay. At this point, you should have clear ideas on what your final essay will be about. You are also encouraged to give constructive feedback to peer



## Foundations I-Seminar (SEG/VMC) (4)

presenters.

### Final Essay (30%)

You will write the final paper (8- 10 pages) based on the topics discussed in the seminar. Make sure to incorporate theoretical and critical concepts and perspectives in your analysis.

\*Writing guidelines: all your papers are to be in 12-point type, double-spaced, with 1-inch margins and numbered pages. Use either Chicago or MLA citation style.

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

Please come to class, having completed all readings and assignments.

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目59

科目ナンバリング		G-LET36 6JK14 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar (SEG/VMC) Foundations I-Seminar (SEG/VMC)				担当者所属・ 職名・氏名		ロシア国立研究大学高等経済学院東洋学・西洋古典学研究所・准教授 Fedorova Anastasia			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3,4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Russo-Japanese Cultural Dialogue Through Images									
【授業の概要・目的】											
<p>This course explores the rich history of cultural encounters between Japan and Russia, starting in the Edo period and leading to the two countries' latest attempts at co-producing animated films. Both countries have traditionally formed their identities by negotiating a special place between the East and the West, and have tried to actively learn from each other. Drawing on examples from personal diaries, memoirs, painting, film and animation, we will explore how the mutual perception between Japan and Russia has transformed overtime in accordance with various political, economic and cultural changes that occurred both globally and domestically.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will be able to identify the unique aspects of cultural interactions between Japan and Russia, while simultaneously interpreting them in a larger theoretical framework of cross-cultural exchange.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1 Introduction (each week is consisted of 2 class unites/3 hours)            Week 2 Japan and Russia during the Edo Period            Week 3 Russo-Japanese War (1904-1905)            Week 4 Transnational Cultures of Modernism (I): Painting, Literature, Theater            Week 5 Transnational Cultures of Modernism (II): Film            Week 6 Japanese Fascination with Marxsim            Week 7 Soviet Fascination with Japanese Material Culture            Week 8 Interacting through Manga and Anime</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Active participation in class;            Test(s) based on information from weekly reading assignments;            Final essay written in English (8000 words)</p>											
----- Foundations I-Seminar (SEG/VMC) (2)へ続く -----											

**Foundations I-Seminar (SEG/VMC) (2)**

**[教科書]**

Reading assignments will be distributed in class.

**[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

Reading assignments will be given from multiple sources including:

Thomas J. Rimer ed., *A Hidden fire : Russian and Japanese cultural encounters, 1868-1926* (1995)

Yulia Mikhailova, William M. Steele, eds., *Japan and Russia: Three Centuries of Mutual Images* (2008)

Sho Konishi, *Anarchist Modernity: Cooperatism and Japanese-Russian Intellectual Relations in Modern Japan* (2013)

**[授業外学修 (予習・復習) 等]**

Students must be prepared to comment and critically analyze the reading assignments weekly.

**(その他 (オフィスアワー等) )**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目60

科目ナンバリング		G-LET36 6JK14 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar (SEG/VMC) Foundations I-Seminar (SEG/VMC)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 Mitsuyo Wada-Marciano			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Transcultural Studies Advanced Research Seminar									
【授業の概要・目的】											
<p>This research seminar will discuss cutting-edge transcultural approaches in international and area studies history. It argues that in history and in the humanities and social sciences more broadly academic fields have long suffered from compartmentalization and overspecialization to an extent that scholars are no longer able to speak to each other in a common academic language. Moreover, overarching narratives and objects of analysis are also commonly following the dominant framework of the nation-state and produced with a national community of readers in mind. This research seminar will take the approach of reading-in-conjunction by exploring recent cross-border scholarship in English or other European and Asian languages. Starting out with some of the insights from the Heidelberg School of Transcultural Studies it will explore the work of other academics with related perspectives.</p>											
【到達目標】											
Regular meetings to discuss theories, methods and examples in transcultural studies scholarship.											
【授業計画と内容】											
<p>8 weeks (Thursdays the 2nd and 3rd periods) over the course of the semester, we will discuss some of the major issues in transcultural studies and examples of best current research praxis.</p> <p>Potential Prospective Weekly Themes</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) Transculturalization</li> <li>(2) Nationalism</li> <li>(3) Global History</li> <li>(4) Urban Contact Zones</li> <li>(5) Epidemics</li> <li>(6) Mobility</li> <li>(7) Gender</li> <li>(8) Global Economy and Consumer Culture</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
50% class presentation and class discussion and 50% research paper.											
【教科書】											
<p>Abu-Er Rub et al. 『Engaging Transculturality: Concepts, Key Terms, Case Studies』 (Routledge, 2019)</p> <p>Sebastian Conrad 『What Is Global History?』 (Princeton University Press, 2016)</p>											
----- Foundations I-Seminar (SEG/VMC) (2)へ続く -----											

Foundations I-Seminar (SEG/VMC) (2)

---

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Come to class with reading the assignments.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目61

科目ナンバリング		G-LET36 6JK15 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 海田 大輔			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Contemporary Japanese Philosophy (Post-World War II Japanese Philosophy)									
【授業の概要・目的】											
<p>This course explores various aspects of contemporary Japanese philosophy (Post-World War II Japanese philosophy) by reading Japanese primary sources in English translation, and discussing them in English. Participants will read and discuss papers by: Yuasa Yasuo, Ueda Shizuteru, Omori Shozo, Nakamura Yujiro, Kimura Bin, and Sakabe Megumi.</p>											
【到達目標】											
By the end of the term students will gain some basic understanding of contemporary philosophy in Japan.											
【授業計画と内容】											
<p>1 Introduction 2-3 Yuasa Yasuo "Toward an East-West Dialogue" 4-5 Ueda Shizuteru "Horizon and the Other Side of the Horizon" 6-8 Omori Shozo "The Realism of 'Form qua Emptiness'" 9-10 Nakamura Yujiro "Common Sense and Place" 11-12 Kimura Bin "Time as the Between" 13-14 Sakabe Megumi "Appearance and Copula" 15 Feedback</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>At the end of the term students will be asked to write a paper. Students' grades will be weighed according to the following scheme: Attendance 20% Active participation in discussion 20% Term paper 60%</p>											
【教科書】											
<p>使用しない The reading materials will be uploaded on KULASIS.</p>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Students will be asked to read the materials for the class in advance and come prepared to discuss them.  
Every student will be expected to raise at least one point that he or she thinks is worth discussing in a class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目62

科目ナンバリング		G-LET36 6JK15 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Franz Kafka and East Asian culture									
【授業の概要・目的】											
<p>The culture of East Asia enjoyed a great popularity in Europe at the beginning of the 20th century. Also the Prague author Franz Kafka (1883-1924), who wrote "The Great Wall of China" (1917) and other stories set in China, loved Chinese poetry and identified himself with great poets like Li Po (Li Bai) and Thu Fu (Du Fu). Since Elias Canetti emphasized the affinity of his literature with Taoist thought, Kafka has even been regarded as a "Chinese" poet. But in my lecture, I will keep a distance from such an essentialist point of view and instead, will analyze Kafka's representation of China and Chinese as a form of Orientalism in the sense defined by Edward Said. At the same time, the historical context in which East Asian culture was received enthusiastically among European intellectuals will be explored.</p> <p>Study Focus: Knowledge, Belief and Religion. Modules: Mobility &amp; Research 1; Mobility &amp; Research 2; Research 3.</p>											
【到達目標】											
Students will on the one hand gain basic knowledge about Kafka's reception of East Asian culture, and on the other hand understand the correlation between the representation of the Other and the formation of national (ethnic) self-identities.											
【授業計画と内容】											
<p>(1) Introduction: Kafka as a "Chinese" poet?  (2) Characteristics of German colonialism  (3) Karl Kraus: Jewish self-hatred and discourses on the Yellow Peril  (4) Martin Buber: Taoism and Zionism  (5) Exkursus: Hermann Hesse and Eastern thought  (6) Kafka reads Chinese poetry: Hans Heilmann's "Chinese Lyrics"  (7) The Jewish crisis of masculinity in "Letters to Felice"  (8) East Asian elements in "Description of a Struggle"  (9) "The Great Wall of China" in the Zionist context  (10)-(14) Presentations by students  (15) Conclusion: Representing the Other and the Self</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Homework (30%), participation (30%), final report (40%).											
----- Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (2)へ続く -----											



**Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (2)**

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

( 参考書 )

Edward Said: Orientalism. New York: Pantheon Books, 1978.

Ritchie Robertson: Kafka. Judaism, Politics, and Literature. Oxford: Clarendon Press, 1987.

Adrian Hsia (ed.): Kafka and China. Bern: Peter Lang, 1996.

Rolf Goebel: Constructing China. Kafka ' s Orientalist Discourse. New York: Camden House, 1997.

Russell A. Berman: Enlightenment or Empire. Colonial Discourse in German Culture. Lincoln: University of Nebraska Press, 1998.

Scott Spector: Prague Territories. National Conflict and Cultural Innovation in Franz Kafka's Fin de Siècle. Berkeley: University of California Press, 2000.

Robert Lemon: Imperial Messages. Orientalism as Self-critique in the Habsburg Fin de Siecle. New York: Camden House, 2011.

( 関連URL )

<https://www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp/>

**[授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]**

The participants are expected to read texts uploaded in the CATS websites at home before they attend each class.

( その他 ( オフィスアワー等 ) )

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目63

科目ナンバリング		G-LET36 6JK15 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 准教授 湯川 志貴子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Selected Readings in Classical Japanese Literature									
【授業の概要・目的】											
『萬葉集』、『竹取物語』、『伊勢物語』、『徒然草』等、日本の代表的な古典の英訳本を用い、これらの作品を熟読することによって、恋愛、死、人間性、美といった普遍的なテーマに対する日本人の価値観、観念や捉え方について考察を試み、理解を深めることを目的とする。											
The aim of this course is to seek and discuss Japanese values, ideas and attitudes toward certain universal themes, such as love, death, human nature and aesthetic beauty through a close reading of selected representative works of classical Japanese literature. We will use well-known English translations of the Manyoshu, Taketori Monogatari, Ise Monogatari and Tsurezuregusa, among other works, as our texts.											
Study Focus: Knowledge, Belief and Religion. Modules: Mobility & Research 1; Mobility & Research 2; Research 3.											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象とする作品の内容やあらすじを理解する。またその時代背景について基礎知識を身につける。</li> <li>・各作品をより深く理解するために、重要な文学的概念やテーマを学ぶ。</li> <li>・各作品に用いられている文学的技法およびその意義を考察する。</li> <li>・各自が選定した日本の古典の作品について客観的に批評し、その論拠となる文献・資料を調査して、結果を小論文にまとめる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ To become familiar with the content of selected works of classical Japanese literature and the sociohistorical background of the period within which each work was written.</li> <li>・ To grasp underlying themes and literary concepts which are critical to a deeper understanding of the selected works.</li> <li>・ To be able to recognize and understand major literary devices and techniques of expression and their function.</li> <li>・ To present critical analysis of a work of classical Japanese literature of the student's choice in a written paper.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
以下の計画と内容に基づいて授業を進めていく。授業の進捗と受講者の状況によって、日程・内容を一部変更する場合がある。											
第1～3週目 日本の古典に見る死の表現・描写 『萬葉集』の挽歌の表現方法											
第4～6週目 日本の古典に見る人物描写 『竹取物語』の超人間的なる主人公の人間化											
第7～9週目 日本の古典に見る恋愛（その一） 『伊勢物語』の「心なさけあらむ男」											
										Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)へ続く	

## Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)

第10週目 小論文中間発表

第11~14週目 日本の古典に見る恋愛(その二)

「男女の情も、ひとへに逢ひ見るをばいふものかは」(『徒然草』)他

第15週目 まとめ、フィードバック

一つのテーマにつき、3~4回と時間をかけて講義-->講読-->議論と考察していき、理解の深化を図る。

### 【講義(1回)】

対象作品の時代背景など必要な予備知識について解説する。重要な文学的理念や、社会的慣習・風習、当時の日本人の価値観・規範等にも適宜触れる。

### 【講読(1回)】

英訳本を用いて作品(抜粋)を読み進める。基本用語の解釈、作品の構造や展開、作風、文体、表現技法等にも注目し、これらの役割と効果について考察しつつ精読していく。

### 【議論(1~2回)】

講読した内容に関する出題問題(2~3問)に基づきグループ・ディスカッションを行う。

内容の理解度を確認するために、理解しやすかった点、理解しづらかった点、感想等を100-150語にまとめた「comprehension essay」をテーマ毎に課す。

The course schedule is as follows. Revisions will be made as needed based on the progress of the course.  
Weeks 1~3 Depictions of death in classical Japanese literature: methods of expression in Manyoshu elegies  
Weeks 4~6 Character development in classical Japanese literature: a superhuman heroine's humanization in the Tale of the Bamboo Cutter  
Weeks 7~9 Love in classical Japanese literature (1): Tales of Ise and "kokoro nasake aramu otoko"  
Week 10 Midterm presentations on final report  
Weeks 11~14 Love in classical Japanese literature (2): "long autumn nights" and "empty vows"; Yoshida Kenko's views on love in Tsurezuregusa  
Week 15 Wrap-up session and feedback

We will devote 3~4 class sessions (lecture session reading session discussion session) to each theme.

### 【Lecture Session】

A general overview of the selected work(s) of literature and background information on the sociohistorical period will be provided. The instructor will also address literary concepts, social practices and customs as well as Japanese values and standards of the period as appropriate.

### 【Reading Session】

We will conduct a careful reading of selected passages of the text in translation. We will examine fundamental terms, the structure and/or development of each work, the writing style of the author and techniques of expression used. We will consider their function and effectiveness as we proceed with our reading and interpretation.

### 【1~2 Discussion Sessions】

With respect to each theme, the class will be assigned two to three questions to consider and discuss at length

## Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(3)

as a group.

For each of the themes covered during the semester, students will be required to write and submit a "comprehension essay" (100-150 words) summarizing the main points covered, points that needed further explanation, and any other comments concerning that topic.

### 【履修要件】

定員：

5名までとし、Heidelberg Centre for Transcultural Studiesの学生を優先する。

次のいずれかの要件を満たしていることが望ましい：

- 1) 学部・大学院で英語のアカデミック・ライティングの授業を履修したことがある。
- 2) 過去に学部・大学院の授業（分野不問）で英語による小論文や学術的レポートを書いたことがある。

Enrollment is limited to 5 students. Students in the Heidelberg Centre for Transcultural Studies program will be given priority.

It is recommended that students come into the class having fulfilled one of the following:

- 1) The student has taken a course in academic writing in English at the undergraduate or graduate level.
- 2) The student has written an academic paper or report in English for an undergraduate or graduate level course in the past (in any field of study).

### 【成績評価の方法・観点】

「Full seminar」として登録した学生については、成績判定は以下[1]～[4]によって行う。

- [1] 口頭発表および小論文に関するアウトライン・構想、および参考文献一覧表（20%）
- [2] 口頭発表（20%）
- [3] 小論文(40%)

[4] 「Comprehension essay」の提出およびディスカッションへの貢献度（20%）

なお、授業期間中、小論文の作成等について授業担当の教員と直接相談できる時間（オフィスアワー）を設けているので積極的に利用してもらいたい。

本授業で課せられる小論文では、主観的な感想を述べることが目的ではないことに留意すること。まずは仮説を立て、それを裏付けるエビデンスを収集する。そして、それに対する客観的な分析を施して論を展開し結論を導くことが求められる。客観的且つ論理的に述べることが要求される。このことを十分に理解したうえで授業に臨んでもらいたい。

「Reduced seminar」として登録した学生については、成績判定は以下[1]～[3]によって行う。

- [1] 口頭発表に関するアウトライン・構想、および参考文献一覧表（20%）
- [2] 口頭発表（60%）
- [3] 「Comprehension essay」の提出およびディスカッションへの貢献度（20%）

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either a reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the instructor.

For students taking this course as a "full seminar," assessment will be based on the following [1]～[4].

## Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(4)

[1] Outline and working bibliography for oral presentation and term paper (20%)

[2] Oral presentation on development of term paper ( 20% )

[3] Term paper (40%)

[4] Submission of comprehension essays and contribution to discussion sessions ( 20% )

Students are encouraged to utilize the instructor's office hours throughout the semester to discuss any specific concerns they may have regarding their paper.

Before enrolling in this course, students should carefully note the following:

One of the main objectives of the term paper for this course is for students to acquire the ability to analyze objectively the work of classical Japanese literature selected. This assignment is not intended as an "essay" for students to express their subjective opinions or personal preferences with regard to the literary work in question. Students will be expected to come up with a viable hypothesis and write a logical and objective paper that is based on careful and close reading of the text and amply supported by evidence cited from the literature.

For students taking this course as a "reduced seminar," assessment will be based on the following [1] ~ [3].

[1] Outline and working bibliography for oral presentation (20%)

[2] Oral presentation (60%)

[3] Submission of comprehension essays and contribution to discussion sessions ( 20% )

### [教科書]

必要に応じ、授業時に資料を配布する。

Handouts and required reading material will be provided in class.

### [参考書等]

( 参考書 )

『1000 Poems from the Manyoshu: The Complete Nippon Gakujutsu Shinkokai Translation』 ( Dover Publications ) ISBN:978-1306338257

Cranston, Edwin A. (translator) 『A Waka Anthology: The Gem-Glistening Cup』 ( Stanford University Press ) ISBN:978-0804731577

Kawabata, Yasunari (translator, modern Japanese) and Keene, Donald (translator, English) 『The Tale of the Bamboo Cutter』 ( Kodansha International ) ISBN:978-4770023292

McCullough, Helen Craig (translator) 『Classical Japanese Prose: An Anthology』 ISBN:Stanford University Press ( 978-0804719605 )

McCullough, Helen Craig (translator) 『Kokin Wakashu: The First Imperial Anthology of Japanese Poetry』 ( Stanford University Press ) ISBN:978-0804712583

Keene, Donald (translator) 『Essays in Idleness: The Tsurezuregusa of Kenko』 ( Tuttle Publishing ) ISBN: 978-4805306314

### [授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

1) 講読する対象作品の英訳は前週に授業で配布するので、必ず全文を読んてくること。

2) 内容の理解度を確認するために、理解しやすかった点、理解しづらかった点、感想等を100-150語にまとめた「comprehension essay」をテーマ毎に課す。書式・提出期限等については授業時に指

## Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(5)

示がある。

3) 「Outline and working bibliography」、口頭発表、小論文の作成に当たっては、11月中に作成要領についての指示がある。したがって、受講者はその後直ちに発表や小論文で取り上げたい作品とテーマについて文献調査を開始し、同作品の英訳本その他必要な資料を読み始めることを強く勧める。文献調査の方法等について不明な点があれば、早めに担当教員に相談すること。

1) The translation for each reading piece will be distributed in class a week before the reading session. Students should read the entire handout before coming to class.

2) For each of the themes covered during the semester, students will be assigned a "comprehension essay" (100-150 words), in which they should summarize the main points covered, points that needed further explanation, and any other impressions they have about the subject material. Details of submission format and due date to be announced in class.

3) Guidelines for preparing the outline and working bibliography, oral presentation and term paper will be handed out in class in November. Students are encouraged to begin exploring questions to address in their presentation/paper, and begin reading a translation of the work(s) they wish to use and any other essential sources as soon as possible. Students should start this process as soon as they receive the guidelines and are encouraged to consult the instructor should they have any questions.

### (その他(オフィスアワー等))

\*Please visit KULASIS to find out about office hours. Will also be announced in class.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目64

科目ナンバリング		G-LET36 6JK15 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		国際日本文化研究センター 教授 Breen John			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Monarchy and modernity in Japan, Asia and Europe									
【授業の概要・目的】											
<p>In this course, we adopt a critical view of monarchy in Japan, Asia and Europe and its relationship to modern society. What were the dynamic origins of the emperor system when it was created in 19th century Japan? What are its legacies? How does the modern Japanese monarchy compare to monarchies in Asia and Europe? We explore key concepts for the study of monarchy (power, ritual, restoration, and sovereignty among others) , and examine the contested relations between modern monarchies and politics, diplomacy, religion and society.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will acquire the concepts and methods necessary to study modern monarchies in Japan, Asia and Europe. They will also develop the skills needed to give critical presentations.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to the study of monarchy: concepts and methods</li> <li>2 The Reiwa enthronement and postwar emperor theory</li> <li>3 Early modern emperors, empresses, kings and queens</li> <li>4 FIELDWORK The Palace</li> <li>5 What is a Restoration? Restoring kings and emperors</li> <li>6 Meiji and the monarchs of the modern world</li> <li>7 Monarchs and the sacred</li> <li>8 FIELDWORK Ise</li> <li>9 Monarchs and the military</li> <li>10 Modern monarchs and political power</li> <li>11 Monarchy and the nation</li> <li>12 A constitutional monarch / course summary</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Attendance: 10%            Course work : Presentations 40%            Final test: 0%            Final essay: 50%</p>											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)

---

[参考書等]

(参考書)

John Breen and Mark Teeuwen 『A New history of Shinto』 (Wiley Blackwell) ISBN:978-1-4051-5516-8  
(paperback version)

[授業外学修(予習・復習)等]

Students to review material ahead of class

(その他(オフィスアワー等))

I will answer student queries via email and communicate with students via email.  
Students are required to take out insurance ahead of the field trip to Ise.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



大学院共通科目65

科目ナンバリング		G-LET36 7JK16 SE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim) Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 VASUDEVA , Somdev			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		A History of Tantric Yoga									
【授業の概要・目的】											
<p>This class has a twofold aim. [1.] It introduces the main authors, scriptures, commentaries, and exegetical works describing the practices and theories of systems of Tantric yoga.</p> <p>[2.] We will study, in English translation, selected passages defining key practices and theoretical paradigms that went on to influence other systems of meditation and yoga.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will be introduced to different styles of scholarship and different methods of analysis current primarily in South Asian studies. The aim is to familiarise students with topics of ongoing debate and to provide them with tools to meaningfully engage with newly emerging literature.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1 What is Tantrism? The Sources of Liberation; Ritual, Knowledge, Yoga and Observance</p> <p>Week 2 The Major Initiation Lineages and their Attitude to Yoga</p> <p>Week 3 The Saivasiddhanta; Dualism and the Supremacy of Ritual</p> <p>Week 4 The Nondualists and the Supremacy of Knowledge</p> <p>Week 5 The Antiritualist Tradition</p> <p>Week 6 Tarka: The Yoga of Six Ancillaries</p> <p>Week 7 The Varieties of the Subtle Body</p> <p>Week 8 Kaula Yoga: Pinda, Pada, Rupa and Rupertita, The Early Development of Kundalini</p> <p>Week 9 The Western Transmission of Kujjika and the Later Evolution of Kundalini Yoga</p> <p>Week 10 The Dharanas of the Vijnanabhairava I</p> <p>Week 11 The Dharanas of the Vijnanabhairava II</p> <p>Week 12 The Rejection of Patanjali's Yoga</p> <p>Week 13 The Accomodation of Patanjali's Yoga</p> <p>Week 14 The Matsyendrasamhita, The Amrtasiddhi and Early Hatha Yoga</p> <p>Week 15 Concluding Summary</p>											
【履修要件】											
Regular preparation of assigned readings and participation in the group discussions.											
【成績評価の方法・観点】											
In class, discussion and contextualization of the assigned readings (40%). One response paper to the discussions of the readings (30%). Homework (30%).											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim) (2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim) (2)

---

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

The participants are expected to attend every class. The weekly readings of the short sections should take about one hour of preparation for each class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目66

科目ナンバリング		G-LET36 6JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Welfare Regime and Cross-Border Migration									
【授業の概要・目的】											
<p>This course will discuss how welfare regimes intertwine with migration regimes in the process of rapid economic development and demographic change in Asian countries. One of the features of the Asian economic miracle was not only utilizing the demographic dividend and high educational attainment of its labor force, but also accepting migrants, domestic workers in particular, to facilitate the participation of local women in the labor market. From the social policy side, liberal familism in Asian countries justified maintenance of “ family value ” and the commercialization and externalization of reproductive work by recruiting foreign domestic worker as an extra family member. Sometimes this familism triggered cross border marriage for the formation of family welfare and this became the foundation of multiculturalism in some societies. In the process of demographic ageing, some Asian countries also borrowed institutional frameworks of welfare states in Europe such as Korea, Japan, and Taiwan. Therefore, divergence of welfare regime of Asian countries is observed.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will receive basic instruction on welfare policy, migration policy and related policies in Asian countries.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>A detailed plan for each class may be changed depending on the participants. The contents of the course include the following classes.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Economic development in Asia</li> <li>2. Demographic change</li> <li>3. Diversity of political system</li> <li>4. Development and migration</li> <li>5. Feminization of labor and migration</li> <li>6. Ageing and migration</li> <li>7. Population policy and marriage migration</li> <li>8. Social integration/multicultural policy</li> <li>9. Logic of human rights and migration</li> <li>10. Policy of sending countries</li> <li>11. International labor market formation</li> <li>12. International collaboration and mutual benefit</li> <li>13. Welfare Regime / Familism</li> <li>14. Pandemic and migration</li> <li>15. Conclusion</li> </ol>											
----- Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											

**Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)**

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

reflection papers(50%) and term paper(50%).

**【教科書】**

Papers and related documents will be distributed inclass.

**【参考書等】**

( 参考書 )

Goodheart, David, 2017, The Road to Somewhere: The Populist Revolt and the Future of Politics, London: Hurst & Co.

Hundt, David and Uttam Jitendra, 2017, Varieties of Capitalism in Asia: Beyond the Developmental State, London: Mcmillan Publishers.

Kim, Mason M.S., 2015, Comparative Welfare Capitalism in East Asia: Productivist Models of Social Policy, London: Macmillan Publishers.

Lan, Pei-Cha, 2006, Global Cinderellas: Migrant Domesticity and New Rich Employers in Taiwan, Durhan and London: Duke University Press.

Parre#241as, Rhacel, S., 2001, Servants of Globalization: Women, Migration, and Domestic Work, Stanford: Stanford University Press.

Steger, Manfred B., 2014, " Approaches to the study of globalization, " Steger Mandred, Paul Battersby and Joseph Siracusa, eds., The SAGE Handbook of Globalization, London: Sage Publications Inc., 7-22.

**【授業外学修（予習・復習）等】**

Participants may be required to read papers related to the class.

**（ その他（オフィスアワー等） ）**

Please make an appointment through the email below.

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

(@) indicates @.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目67

科目ナンバリング		G-LET36 6JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 落合 恵美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Asian Families and Intimacies: Intra-regional Diversity and Transcultural Dynamics									
【授業の概要・目的】											
<p>To date, the research work of Asian scholars on their respective societies has typically been relayed to other areas of Asia through European and North American academic circuits. This mediated communication has not only produced a significant distortion in focus, but has also resulted in a failure to appreciate the shared intellectual heritage of the different societies of the Asian region as well as the differences of emphasis and orientation among them. The ‘ Asian Families and Intimacies ’ series, the textbook used in this course, has been planned by the Asian researchers from 9 societies who have been collaborating with Kyoto University Asian Studies Unit (KUASU) for years as the first realization of a larger project, entitled ‘ Asian Intellectual Heritage ’, designed to collect, translate and share important and influential writings that are key texts of the academic and intellectual heritage of societies across Asia. The editors have decided to launch this ambitious project with a series on families and intimacies because ‘ the family ’ has typically been attributed a special cultural value in Asian societies.</p> <p>This course will enable students with diverse backgrounds to engage directly and unmediatedly with the insights into the key issues of our times from the ‘ insiders ’ perspective ’ of Asian intellectuals and provide them chances to discuss with each other and contribute to imagining the foundation on which future collaborations across the Asian region can be built.</p>											
【到達目標】											
<p>(1) To learn about the shared intellectual heritage of the different societies of the Asian region as well as the huge historical and contemporary diversity both in theory and in practice.</p> <p>(2) To liberate ourselves from Orientalism and self-Orientalism so as to better understand ourselves and our neighbours and redefine our and their places in a changing world.</p> <p>(3) To understand the varying and intersecting processes of ‘ Sinicization ’, ‘ Sanskritization ’, ‘ Modernization ’, and ‘ Globalization ’ across the Asian region as well as more local transcultural dynamics.</p> <p>(4) To learn about changes in the family and intimate relations which are of deep and pressing concern in the Asian region today.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>0. Introduction [1 week]</p> <p>1. Families, Ideologies and the States [2 weeks]</p> <p>2. Varieties of Patriarchy and Patrilineality [2 weeks]</p> <p>3. Sexual Modernities and Transforming Intimacy [2 weeks]</p> <p>4. Marriage Formation [2 weeks]</p> <p>5. Care and Familialism Reconsidered [2 weeks]</p>											
										Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)へ続く	

## Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)

- 6. Gender Roles and Identities [2 weeks]
- 7. Conclusion [1 week]
- 8. Feedback [1 week]

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Oral presentation (30%), final report (40%), participation (30%).

### 【教科書】

OCHIAI Emiko and Patricia UBEROI eds. 『Asian Families and Intimacies』 ( Sage, 2021 )  
' Asian Families and Intimacies ' (4 volumes) edited by the researchers from nine Asian societies (Thailand, Korea, India, Vietnam, Japan, the Philippines, Taiwan, China and Indonesia) and published from Sage in 2021.

1. Family Ideology [edited by Thanee WONGYANNAVA (Thammasat University, Thailand)]
2. Patriarchy [edited by EUN Kisoo (Seoul National University, South Korea)]
3. Sexuality [edited by Patricia UBEROI (formerly, Institute of Economic Growth, Delhi, India)]
4. Marriage [edited by NGUYEN Huu Minh (Vietnamese Academy of Social Sciences)]
5. Care Regimes [edited by OCHIAI Emiko (Kyoto University, Japan)]
6. Gender [edited by Carolyn SOBRITCHEA (University of The Philippines)]

### 【参考書等】

( 参考書 )

### 【授業外学修 ( 予習・復習 ) 等】

The participants are expected to spend a certain amount of time outside of this class reading the textbooks and preparing for the oral presentations.

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目68

科目ナンバリング		G-LET36 6JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		経済学研究科 教授		久野 秀二	
		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)						経済学研究科 講師		久野 愛	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Critical Consumption Studies									
【授業の概要・目的】											
<p>This course examines the political, economic, social, and cultural aspects of consumption broadly conceived. Theoretical and empirical studies on consumption have attracted scholarly attention from various disciplines ranging from sociology, anthropology, history, geography, business, and marketing studies, to agri-food studies. This course provides the overview of the interdisciplinary discussion on consumption -- not simply as the purchasing of goods but also as a political and social practice. It asks, for example, how have scholars in different disciplines understood and theorized consumption?; how does the consumption of food, clothes, and other consumer products affect social, economic, cultural and environmental sustainability?; and who are main actors and how they interact each other in these processes?</p>											
【到達目標】											
<p>This course aims to foster students' better understanding of theories, approaches and practices concerning consumption. It particularly helps students to identify key theoretical studies and concepts on the issue and to critically analyze consumption from comparative perspectives.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1. Introduction            Weeks 2-5. Theoretical Frameworks and Concepts of Consumption Studies            (1) Sociology and Political Economy of Consumption            (2) Sociology and Culture of Consumption            (3) Geographies and Politics of Consumption            (4) Business History and Consumption            Weeks 6-9. Consumption of Food            (1) Food Consumption and Place: Globalisation, Localisation, and Social Justice            (2) Food Consumption and Identity: Geography, Sociology and Politics            (3) Food Consumption and Nutrition: The Role of Nutrition Science and Corporate Actors            (4) Food Consumption and Sustainability Politics: Food Politics and Food Citizenship            Weeks 10-13. Consumption, Body, and Gender            (1) Consumption and Body Images            (2) Gendering Consumption            (3) Consuming the Body, or Empowerment?            (4) Consumption and the Senses            Week 14. Discussion            Week 15. Feedback</p>											
----- Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											

## Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)

### 【履修要件】

No prerequisite knowledge or skill required other than English language ability sufficient to interact actively in class.

### 【成績評価の方法・観点】

Grading will be done on the basis of class participation/presentations (60%) and final assignment evaluation (40%).

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

### 【教科書】

Reading materials will be made available in PDF through a Cloud system (Google Drive or Dropbox). All readings will be labeled depending on their importance: (a) Required, (b) Suggested, and (c) Optional. The list of readings will be distributed in advance of the start of the class.

### 【参考書等】

(参考書)

Reference literature will be made available on the Cloud system (Dropbox). They will be labeled "Reference", and are useful for students wishing to dig deeper into a specific topic.

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Students are expected to complete all assigned readings to come prepared to discuss them in class.

### (その他(オフィスアワー等))

Office hour: Please email the instructors for an appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



大学院共通科目69

科目ナンバリング		G-LET36 6JK17 LE36										
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		経済学研究科 教授 矢野 剛 非常勤講師 大西 広 非常勤講師 中野 有 非常勤講師 田添 篤史				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語	
題目		Introduction to East Asian Economies										
[授業の概要・目的]												
East Asia has various types of economies, for example transitional economy, planning economy, development economy and market economy. By introducing these economies, we learn that we need various type of approach including Marxist economics, transitional economics, and development economics. Therefore, professors will not only introduce East Asian economies but also teach the basic points of such approaches.												
[到達目標]												
It can be expected that participant students obtain basic knowledge and analytical framework to understand East Asian economies in the context of social sciences.												
[授業計画と内容]												
Professor Yano provides lectures on the following topics below. 1)Macro view on Chinese Economy: Investment 2)Modern Economic History in China 3)Economic Reform in China 4)Industrialization in China 5)Transitional Economics as a framework to analyze China  Professor Nakano provides lectures on the following topics below. 6)East Asia from the US Viewpoint 7)East Asia in International Organizations 8)Cooperative security in East Asia: How to resolve the issue of North Korea 9)A Grand Design for Northeast Asia: Multilateral: Cooperation and Physical Integration  Professor Li provides lectures on the following topics below. 10) Marxist Economics as a framework to analyze Asia 11)Trend of Regional Disparity in China 12)Ethnic conflicts in China from a viewpoint of economics  Professor Tazoe provides lectures on the following topics below. 13)Economic History of Japan 14)Similarity of the East Asian Three Countries 15)Comparative analyses of the East Asian Economies												
----- Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く -----												

**Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)**

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

Check the understanding level by discussion in each lecture(50%) and by the final reports(50%).  
To JDTS/MATS students: This is course can be taken as full seminar (8 ECTS) only.

**【教科書】**

授業中に指示する

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

1. Participant students are supposed to check the contents of material for lecture before each round of lecture.
2. Participant students are strongly recommended to prepare for report writing even during the period when lectures are conducted.

**(その他(オフィスアワー等))**

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目70

科目ナンバリング		G-LET36 6JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 佐野 真由子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Japan's early diplomacy during the last decade of the Tokugawa Shogunate									
【授業の概要・目的】											
<p>This course aims to explore Japanese diplomacy during the last decade of the Tokugawa Shogunate, through in-depth readings of documents (such as memoirs, diaries, and diplomatic correspondences) written by people who worked on the ground during that time.</p> <p>In the course of 2021, we will encounter with the British diplomat Ernest Mason Satow (1843-1929), one of the most famous figures in the early diplomatic history of Japan, who served in the country for the periods between 1862 and 1883, and from 1895 till 1900; he started as a young student-interpreter during the last years of Tokugawa regime and is known to have played an important role in the backstage of the Meiji Restoration. In a longer career, he also worked in Siam, Uruguay, Morocco, and finally in China.</p> <p>Large part of the course will be dedicated to looking into his own writings, in combination with some other sources when necessary. Students are not only expected to learn the Japanese history of Satow's time, but to critically discuss his conducts in and understanding of a culture different from his own.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will have apprehended the transcultural nature of Japan's path in the late 19th century. It is also aimed to familiarize the students with historical studies through carefully following an individual's experiences.</p> <p>Furthermore, it is an important objective of the course to critically discuss people's conducts and development of their work in the forefront of facing a different culture.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1: Introduction</p> <p>Week 2-13: Discussions on Satow's experiences mainly through his representative book "A Diplomat in Japan" (1921) and his diaries, in combination with some other sources when necessary, including his diplomatic correspondence.</p> <p>Classes will consist of: - Students' presentations on assigned readings (mainly from the above-mentioned book); - Discussions and further analyses in class; and - Introduction to additional sources and reading materials.</p> <p>Week 14-15: Final presentations and discussions (feedback) on the students' plans for their final papers.</p> <p>Note: The schedule and contents of the course may be reconsidered depending on the number of students, their knowledge of the Japanese language, and other related conditions.</p>											
----- Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)へ続く -----											

## Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)

### 【履修要件】

Each student will be assigned in-depth readings and related research about a particular part of Satow's writings and will give at least two oral presentations (mid-term and final) during the course. All students are expected to have read the part to be covered in each class, if not personally assigned, and to actively participate in discussions.

### 【成績評価の方法・観点】

Evaluation criteria:

- 1) Oral presentations (each with an outline of several pages to be shared with all participants): 40%
- 2) Term paper (4,000-5,000 words): 60%

To JDTS/MATS students: This course can be taken as full seminar (8 ECTS) only.

### 【教科書】

Sir Ernest Satow 『A diplomat in Japan』 ( Seeley, Service; 1921 )

The pages from the text book to be used in the course will be provided in class. (Otherwise, students may use the e-book version.)

### 【参考書等】

( 参考書 )  
授業中に紹介する

### 【授業外学修 ( 予習・復習 ) 等】

See [Class requirement].

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Consultation (office hours) by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目71

科目ナンバリング		G-LET36 6JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 河合 淳子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		SocSci Research Methods in Education									
【授業の概要・目的】											
<p>This course will examine various approaches and topics in the study of Japanese education, culture and society through reading sociological works on Japan. Education is a complex subject partly because everyone, having been educated, has a personal view about what education should be and should not be. However, generalizing from one's own experience can be dangerous. This is one of the reasons why sociological perspectives become important in the field of education.</p> <p>Students will also learn the nature, purposes and methods of social science research in the field of education and each students will experience a small-scale research project to explore practical aspects of what students have learnt in class. Students will have opportunities to take a close look at what is happening and what has happened in Japanese education.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>• To understand sociological perspectives in education and the importance of social science research in education</li> <li>• To gain knowledge of various research methods and to experience one of them</li> <li>• To develop interests to participate in cooperative projects with members from various cultural background.</li> <li>• To enable students to sharpen their skills in critical analysis through structured reading, discussion, written assignments and small scale research project.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>Real time sessions using ZOOM will be provided. The lecture materials will be uploaded on PandA as necessary. If you have concerns, come to the first class and consult with the instructor. Please check KULASIS for the ZOOM information of the first class (Wednesday, October 7th).</p> <p>Course Overview</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Sociological perspectives on education (Week 1) What do we know about education of our own? Do we really know about it?</li> <li>2. The nature and purposes of social research in the field of education (Week 2-3)</li> <li>3. Investigation on Japanese education (Week 4-7)             <ol style="list-style-type: none"> <li>3-1: Condition of language education in Japan                 <ul style="list-style-type: none"> <li>- Why do reforms return again and again?</li> </ul> </li> <li>3-2: Transition from schools to work                 <ul style="list-style-type: none"> <li>- Introduction of various approaches- Functionalist approach,</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol>											
----- Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											

## Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)

---

Conflict theorist approach, and Micro-interactionism

3-3: Futoko (Truancy, Non-attendance)

- Discourse analysis of educational problems

3-4: Life of adolescences - Roles of Japanese school clubs, functions and culture of cram schools, teacher-student relationship, relationship between schools and families.

4. Research Planning: What are your research questions? (Week 8)

5. Lecture: Introduction to Research Methods (Week 9-12)

5-1: Modes of Inquiry- Quantitative Modes of Inquiry and Qualitative Modes of Inquiry

5-2: Sampling Techniques

5-3: Data Collection Techniques

(1) Questionnaire (2) Observation (3) Interview

5-4: Interpretations of Data

6. Ethical issue in social research (Week 13)

7. Presentation on your project (Week 14)

Feedback

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Participation to the group project and class activities (30%), short reports(30%), and Final report(40%). 授業への参加 ( 30% )、課題レポート ( 30% )、期末レポート ( 40% ) で評価する。

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

Grading for JDTS/MATS full seminar students.

The grading policy for JDTS/MATS full seminar students are same as above. Details are as follows.

- Short reports 1 and 2 (30%)
- Report 3 (40%)
- Class Participation (30%)

Grading for JDTS/MATS reduced seminar students

- Short reports 1 and 2 (40%)
- Final presentation handout (20%)
- Class Participation (40%)

Class participation includes i) Presentations (one short introductory presentation (5min.) of your topic and a final presentation), ii)Introducing assigned readings,and iii)Participation in discussions and activities in regular classes.

## Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(3)

### [教科書]

授業中に指示する

Handouts will be distributed.

プリント配布

### [参考書等]

( 参考書 )

Fukuzawa, Rebecca E. and LeTendre, Gerald 『Intense Years: How Japanese Adolescents Balance School, Family, and Friends』 ( Taylor and Francis,2001 )

Rohlen, Thomas and LeTendre, Gerald (ed.) 『Teaching and Learning in Japan』 ( Teaching and Learning in Japan )

McMillan, James H. and Schumacher, Sally 『McMillan, James H. and Schumacher, Sally』 ( Addison Wesley Longman, Inc., 2001 )

Light, Richard J. et al 『By Design: Planning Research on Higher Education』 ( Harvard University Press, 1990 )

Weiss, Robert S 『Leaning from Strangers: The Art and Method of Qualitative Interview Studies』 ( The Free Press, 1994 )

### [授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

- Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions in each week.
- Students are expected to actively participate in preparations for the small-scale group project.

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

- Office hour by appointment
- We will conduct a small-scale group/individual research project in the latter half of the course.

Transportation fee, if necessary, should be covered by students. Enroll in Personal Accident Insurance for Students while Pursuing Education and Research.

講義後半には小グループまたは個人で簡単な実地調査に取り組む。旅費 ( 交通費 ) が必要な場合、原則として受講生の負担となります。学生教育研究災害傷害保険に各自加入しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目72

科目ナンバリング		G-LET36 6JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		経済学研究科 教授 久野 秀二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期集中	曜時限	火金集中(11月1月)	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Comparative Development Studies: Situating Sustainability within Development									
【授業の概要・目的】											
<p>This course consists of two different, but mutually intersecting sessions.</p> <p>The first session “ Modernity and Crisis: Four Key Theorists ” aims at providing students with an overview of the theories of ‘ modernity ’ that have been foundational to sociological thinking since the earliest emergence of the discipline. Max Weber, in particular, characterised modern society as efficient, productive and rational, and yet also increasingly prone to crisis and the gradual de-humanisation of its citizens. This course explores the work of four key theorists of modernity (George Ritzer, Robert Putnam, Hannah Arendt, and James C Scott) --- each one of which illuminates a particular crisis of modernity.</p> <p>The second session “ Rural Development and Local Food in the Transition Toward a Sustainable Food System ” aims at offering students a room to discuss different frameworks for the analysis of the current "turn" and "transition" in rural development and the global agro-food economy. What is wrong with the present agro-food system? What is the future food system we would like to aim at? What strategies and forms of governance may be better suited to lead us to the desirable future? The articles proposed to consideration offer different theoretical perspectives on how to direct agro-food economy toward sustainability and social justice. The course wants to stimulate students' participation in order to develop a comparative perspective at global level on these topics.</p>											
【到達目標】											
<p>Students participating in this course are expected to acquire the knowledge and skills necessary to analyse the complex and dynamic processes of development and modernity. It is our educational goal that participating students enhance their understanding and critical sense of reality of the ecological, economic, social and political systems from a multidimensional and multidisciplinary perspective.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The first session (Hugh Campbell, University of Otago, New Zealand) explores the work of four key theorists of modernity --- each one of which illuminates a particular crisis of modernity.</p> <p>1) The McDonalidization of Society: George Ritzer, a neo-Weberian who examines the way in which bureaucratic logics and rationalities have combined with capitalist profit-seeking to create ‘ controlled ’ worlds of consumption that dehumanise us as individuals and increasingly constrain our lives. His theory describes what he calls the ‘ McDonalidization ’ of society. -- Reading: selected from George Ritzer - The McDonalidization of Society</p> <p>2) Individualization and Loss of Community: Robert Putnam, also a neo-Weberian, is most known for his work on social capital and loss of community in modern societies. His celebrated book Bowling Alone examines changes in the way that American citizens have engaged in wider social worlds. His argument is</p>											
											Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)へ続く



## Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)

---

that we are losing our connectedness to diverse communities and our lives are becoming more ' individualized ' and more alienated and intolerant of difference.

-- Reading: selected from Robert Putnam - Bowling Alone: the collapse and revival of American community.

3) The Authoritarian State and the De-Humanization of Citizens: Hannah Arendt is a political philosopher who has become increasingly adopted by sociologists seeking to understand some of the political pathologies of modernist society. Arendt argued that the rational apparatus of the state has evolved in ways that have not been constrained by values or ethics and that ' servants of the state ' can easily transition into becoming ' servants of evil intentions ' . Her compelling example of the holocaust in Nazi German (which she herself narrowly escaped) is now considered a classic study of the rise of authoritarianism in modernist societies and has had a revival of interest in the age of Donald Trump.

-- Reading: Selected readings by Hannah Arendt.

4) Modernity, Nature and State Control: James C Scott is a neo-Marxist scholar (who also draws on Weber) who has examined the way in which the modernist state took a particular form during the 20th Century and how the state (and modernity) have increasingly come into tension and conflict with ecological forces. In his book Seeing Like A State, he describes some of the mechanisms of control that the state uses to constrain citizens and how -- using examples like the promotion of modernist agriculture -- those mechanisms have increasingly failed to control and dominate nature.

-- Reading: Selected from James C Scott - Seeing Like a State: How Certain Schemes to Improve the Human Condition Have Failed.

In combination, these four theorists bring to light four key crises of modernity: 1) bureaucratic and rationalized systems of social control, 2) Individualization and the loss of social bonds, 3) the rise of authoritarianism and the de-humanization of vulnerable groups, and 4) the conflict between modernity and nature, .

The second session (Maria Fonte, American University of Rome, Italy) reviews various practices, discourses and policies on sustainable development and transitions in the agro-food economy, with special attention to Europe, from rural sociology and/or economic geography approaches.

1) From uniformity to diversity: agriculture modernisation, rural development and the sustainable food system

-- Jan Douwe van der Ploeg, Ye Jingzhong, Sergio Schneider, 2010. Rural development reconsidered: building on comparative perspectives from China, Brazil and the European Union. *Rivista di Economia Agraria*, 2: 163-190.

-- Fonte, M. and Quieti, Maria Grazia 2018. Food Production and Consumption Practices Toward Sustainability: The Role and Vision of Civic Food Networks. Reference Module in Food Science, Elsevier 2018.

2) Global challenges: toward sustainable food systems and sustainable diets

-- The Lancet Commissions, 2019. Food in the Anthropocene: the EAT-Lancet Commission on healthy diets from sustainable food systems, pp.1-7.

3) Food citizenship: the consumer in the food system

-- Ray, C. 1998. Culture, intellectual property and territorial rural development, *Sociologia Ruralis*, 38(1): 3-20.

### Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (3)

-- Henk Renting, Markus Schermer and Adanella Rossi, 2012. Building Food Democracy: Exploring Civic Food Networks and Newly Emerging Forms of Food Citizenship. *International Journal of Sociology of Agriculture and Food*, 19(3): 289-307.

#### 4) How to conceptualise transitions to sustainability 1: Multi-level Perspective

-- Geels, F.W., Schot, J., 2007. Typology of socio-technical transition pathways. *Research Policy*, 36: 399-417.

-- Smith, A., 2006. Green Niches in Sustainable Development: The Case of Organic Food in the United Kingdom, *Environment and Planning C, Government and Policy*, 24: 439-458.

#### 5) How to conceptualise transitions to sustainability 2: social practice theory

-- Warde, A., 2014. After taste: Culture, consumption and theories of practice, *Journal of Consumer Culture*, 14(3): 279-303.

-- Fonte, M. 2013. Food consumption as social practice: Solidarity Purchasing Groups in Rome, Italy. *Journal of Rural Studies*, 32: 230-239.

-- Crivetis, M and Paredis E., 2013. Designing an explanatory practice framework: Local food systems as a case. *Journal of Consumer Culture*, 13(3): 306-336.

#### 6) Democratising food: Real Utopias projects, food councils and new forms of governance

-- Fonte, M. and Ivan Cucco 2018. The centrality of food for social emancipation: Civic food networks as real utopias projects. Jose Luis Vivero-Pol, Tomaso Ferrando, Olivier De Schutter and Ugo Mattei, eds., *Routledge Handbook of Food as a Commons*, Routledge.

-- Blay-Palmer, A., 2009. The Canadian pioneer: the genesis of urban food policy in Toronto. *International Planning Studies*, 14(4): 401-416.

Both sessions will be offered in an intensive way, such as every morning (1-2 periods) in a week, or two classes (1-2 periods for each) for two weeks. The detail will be announced when it is confirmed.

#### 【履修要件】

There are no special requirements for this course. This course is designed for any and all students with an interest in international development, rural development and interdisciplinary approaches.

#### 【成績評価の方法・観点】

Grading will be done on the basis of attendance and class participation (60%) as well as a final presentation and/or assignment essay by each student (40%).

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

#### 【教科書】

Readings will be made available through a Cloud system (e.g. GoogleDrive). See course schedule (t.b.a.) for a detailed reading list.

## Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (4)

---

### [参考書等]

(参考書)

Readings will be made available through a Cloud system (e.g. Dropbox). See course schedule (t.b.a.) for a detailed reading list.

### [授業外学修 (予習・復習) 等]

Participating students will be assigned to read chapters of textbooks and relevant articles beforehand. Since classes are very interactive, well-preparation for each class is very important for students to participate in discussions. Also, at the end of the course students will be assigned to present their report on whatever relevant to the topics discussed in the classes.

Regarding the preparation, which is also a part of student assignments, the registered participants are required (and all other participants are encouraged) to well prepare each class by reading required materials and bring (if possible, submitting beforehand) an analytical summary of the assigned readings.

Analytical summary of two assigned readings for each class must be 400-500 words (one-page A4) consisting of three parts:

1) Summary --- identify and summarise the key arguments or main points of the assigned reading(s). Not descriptive, but analytical. Not exhaustive, but picking out three or four of the important key arguments or main points, and briefly explain them.

2) Integration --- pick one or two ways in which the authors' arguments or the topics of the assigned readings relate to one another or relate to something that has been ever studied by the students or also to the reality of their own country or region. Look for similarity or difference, and generate connections, contrasts or comparisons between them.

3) Question/Reactions --- identify questions the readings raise for students that we could discuss in the class. Also, students can raise specific questions about which parts of the reading did not make sense. Possible to raise objections (to content, style, politics, methods, etc), argument, praise, or any other reactions the students have while reading.

### (その他 (オフィスアワー等) )

t.b.a.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目73

科目ナンバリング		G-LET36 6JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		学際融合教育研究推進センター- 特定講師 RALANDISON, Tsilavo			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期不定	曜時限	その他	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		International Development Assistance Policy									
【授業の概要・目的】											
<p>This semi-intensive course provides students with a diverse overview of Japan's international development assistance policy and practice of the Japanese government, business actors, and civil society organizations based on actual cases.</p> <p>The course allows students to learn about development practice in collaboration with the Japan International Cooperation Agency (JICA) under the Development Studies Programme. Each module will be led by guest lecturers, who are subject-matter experts working on a particular issue related to the module's theme. Coursework will include in-class exercises, class discussions, take-home assignments, and/or group work to build students' ability to understand, analyze, and apply new knowledge.</p>											
【到達目標】											
<p>Students can expect to gain:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- A critically informed overview of Japan's international development assistance, policy making, and practices and locating policy agendas historically and within a global context.</li> <li>- A critical understanding of and engagement with key policy-making and intervention issues in the international assistance arena.</li> <li>- An ability to apply the skills and knowledge acquired during the course to actual development issues.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>Course introduction and feedback will be done via Kulasis and Panda. The actual lectures are expected to start on Dec 1, 2021, and end on Jan 19, 2022. Lectures are scheduled on Wednesdays from 14:45 to 18:00. The duration of each session is 3 hours.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Week 0: Introduction - Course overview (via the platform)</li> <li>- Week 1: History of Japan's ODA, policies and programs; introduction of JICA (Guest lecturer from JICA)</li> <li>- Week 2: JICA's priority and operation framework; introduction of selected projects operated by JICA; JICA's approach to development compared to other donors; JICA's outlook and future agenda (Guest lecturer from JICA)</li> <li>- Week 3: Roles of the private sector in sustainable development (Guest lecturer from a private company)</li> <li>- Week 4: Roles of the private sector in sustainable development (Guest lecturer from a private company)</li> <li>- Week 5: Strengths and limitations of ODA: Case studies in Southeast Asia (Guest lecturer from a nongovernmental organization)</li> <li>- Week 6: Strengths and limitations of ODA: Case studies in Africa (Guest lecturer from a non-governmental organization)</li> <li>- Week 7: Course Feedback (via the platform)</li> </ul>											
----- Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											

## Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Grades will be based on the following:

- attendance and participation (credit will not be given for more than two absences),
- three short essays (500 words) to be completed in a group of two to three students and submitted after each block of lecture - 40% of the final grade. (\* Block 1: JICA lectures, block 2: lectures from business entities, block 3: lectures from NGOs)
- one final essay (1,500 words) to be completed individually or in a small group (2-3 people) after the course is completed - 60% of the final grade.

There are two options to complete the final project:

Option 1: Write a pitch (proposal) for a development project that you would hypothetically present to one of the course lecturers. For example, you could choose a problem that was raised during one of the classes and propose a solution. You could also present a project or idea that you think would solve an issue or problem that you are interested in. Your pitch should include a succinct description of the project, which lecturer(s) you would hypothetically present it to and why; and, how you think the lecturer would react to your ideas.

Option 2: Write an argumentative essay about which lecture was the most interesting or the most convincing. The article must include a set of reasons supported by evidence (facts) from the classes. Evidence can be what a lecturer said, the materials that s/he used during the lecture, and/or how they were presented.

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

(参考書)

Bruce Currie-Alder, Ravi Kanbur, David M. Malone, and Rohinton Medhora (eds.) 『International development : ideas, experience, and prospects』 ( Oxford: Oxford University Press, 2014 )

Veltmeyer, Henry and Paul Bowles 『The essential guide to critical development studies』 ( New York, NY : Routledge, 2017 )

### 【授業外学修（予習・復習）等】

-

### （その他（オフィスアワー等））

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目74

科目ナンバリング		G-LET36 6JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		経済学研究科 准教授 IVINGS , Steven			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Economic and Business History									
【授業の概要・目的】											
<p>This course aims to provide students with the overview of economic and business history from global perspectives. It covers a broad range of topics, geographical areas, and time periods from the beginning of human history, the emergence of early and modern capitalism, the Industrial Revolution, and post-WWII economic growth to the transformation of the global economy from the 1980s. Students who specialize in economic history or business history are highly recommended to take this course, including those who have taken an economic and/or business history course at other institutions or those who have taken similar courses at Kyoto University only in Japanese, since this course will be conducted solely in English (including lecture, discussion, and assignments). The course is also highly recommended to students who do not specialize in business or economic history but want to deepen their understanding of business and the global economy.</p>											
【到達目標】											
<p>This course aims to foster an understanding of historical changes in business and economy. Upon completion of this course, students are expected to gain ability to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-explain the transformation of the global economy, the impacts of economic changes on various parts of the world, and the role of business in history.</li> <li>-identify and analyze key scholarly discussion in the fields of economic and business history.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction: What is economic history?</li> <li>2. Early Capitalism, Great Divergence,</li> <li>3. Industrial Revolution</li> <li>4. Globalization and Imperialism</li> <li>5. 19th Century Europe</li> <li>6. The US &amp; Latin America</li> <li>7. 19th Century Asia</li> <li>8. Japan: Asia ' s first industrial Revolution</li> <li>9. The Great Wars and Disintegration Part I: World</li> <li>10.The Great Wars and Disintegration Part I: East Asia</li> <li>11. “ Golden Age ” of Economic Growth: Part I World</li> <li>12. “ Golden Age ” of Economic Growth: Part II Japan and “ Asian Tigers ”</li> <li>13. “ Great Convergence ” : World economy after 1980s</li> <li>14. East Asia in the globalized world</li> <li>15. Feedback Session</li> </ol>											
----- Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)へ続く -----											

**Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)**

**【履修要件】**

No prerequisite knowledge or skill required.

**【成績評価の方法・観点】**

Attendance, active participation, and other in-class activities 50%; Final paper 50%

**【教科書】**

To be announced in class

**【参考書等】**

( 参考書 )

To be announced in class

**【授業外学修（予習・復習）等】**

Students are expected to read all the reading assignments and prepare for class.

**（その他（オフィスアワー等））**

Office hours by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目75

科目ナンバリング		G-LET36 6JK19 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture) Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 Mitsuyo Wada-Marciano			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4,5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Ecocinema: From Plastic Garbage to Art									
【授業の概要・目的】											
<p>The search for a sustainable life is a pressing issue in Japan, especially after the Fukushima disaster. However, those of us living in Japan are uncertain about where to start and how to proceed. This course will examine “ ecocinema, ” focusing specifically on films from the U.S., P.R.C. and Japan that tackle issues of nuclear power, agriculture, and sustainable life. By examining those issues in different regions, we will imagine how global sustainability might look and what roles our transcultural communities might play in the future.</p> <p>Study Focus: Visual, Media, and Material Culture. Modules: Mobility &amp; Research 1; Mobility &amp; Research 2; Research 3.</p>											
【到達目標】											
<p>First, students will learn about a wide range of issues in present global ecology and a variety of documentary films categorized as “ ecocinema. ” Second, students will learn how to analyze those films. They will study, step-by-step, how to approach and analyze the medium of film. Third, in developing and writing their final essays, students will hone their ability to produce a persuasive paper. During our final two to three weeks, all students will present their final essay topics to the class.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The course will be offered in accordance with the following general structure. A detailed plan for each class will be determined depending on enrolment and feedback from the participants, and it will be announced in class. The reading materials for each week will be announced at the beginning of the course.</p> <p>(week 1-2) Introduction</p> <p>(week 3-4) Issues on Global Warming -An Inconvenient Truth (2006, dir. Davis Guggenheim, 1 h 36 min) -35 Inconvenient Truths (adapted from a report by Christopher Monckton, 9:53 and 8:57) <a href="https://www.youtube.com/watch?v=P2w33s0Ke9Y">https://www.youtube.com/watch?v=P2w33s0Ke9Y</a> <a href="https://www.youtube.com/watch?v=wgHkNjkKDXg">https://www.youtube.com/watch?v=wgHkNjkKDXg</a></p> <p>(week 5-6) Planet or Plastic? Plastic China (2016, dir. Jiuliang Wang, 1 h 22 min)</p> <p>(week 7-8) Issues on Alternative Energy Ashes to Honey (2010, dir. Hitomi Kamanaka, 2h 15 min)</p> <p>(week 9-10) Issues on Fukushima</p>											
											Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture) (2)へ続く



## Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture) (2)

Nuclear Nation (2012, dir. Atsushi Funahashi, 1h 36 min)

(week 11-12) Food Ecology

Food, inc. (2008, dir. Robert Kenner, 1h 34 min)

(week 13-14) student presentations

(week 15) Ecology and Art

Waste Land (2010, dir. Lucy Walker, 1h 39 min)

### 【履修要件】

Number of participants not more than 7.

### 【成績評価の方法・観点】

Active Participation + Attendance (20%), Leading Discussion on Reading Materials (10%), Short Reaction Paper (20%), Presentation (10%), Final Paper (40%).

### 【教科書】

Not used. Reading materials will be retrieved digitally from my file.

### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

I'll introduce reading references in class.

### 【授業外学修（予習・復習）等】

The participants are expected to complete all reading materials before they come to our class.

### （その他（オフィスアワー等））

\*Consultation (office hours) by appointment.

\*Please contact Mitsuyo Wada-Marciano <mwadamar@gmail.com> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目76

科目ナンバリング		G-LET36 6JK19 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture) Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 Mitsuyo Wada-Marciano			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4,5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Transcultural Asian Cinemas & Transcultural Cinema Forum 2021									
【授業の概要・目的】											
<p>This course examines contemporary East Asian cinemas' transnational current at various levels of industry, genre, filmic style, and global commodification. Despite Hollywood cinema's historical dominance of the global cinema market, the ways in which cinema is disseminated have never been monolithic. Such cultural traffic has occurred through negotiations among locales, regions, and nations, across Asian countries, including Japan, Hong Kong, Taiwan, and Korea, and with Hollywood as well.</p> <p>This 2-month intensive course, cosponsored with Transcultural Cinema Forum, scrutinizes the dynamic between the global and the local by focusing on those East Asian cinemas' strategies towards globalization and regionalization. The course has been constructed in multiple sections, investigating transcultural aspects in cinema with specific topics, such as "cross media images in/beyond Taiwan," "documentary as hybrid genre," "nuclear problems beyond national boundaries," "imperial Japan's tourism films," "talkies in Japan and colonial Korea," and "comparison of queer cinema in Taiwan and Korea." We will analyze films and other moving images from Okinawa, the rest of Japan, South Korea, and PRC this year.</p> <p>This course is designed for all students who are interested in screen culture in Asia. Attending lectures, which will be held on Tuesdays in class, is mandatory in order to discuss both films and reading assignments during our class. Due to the Covid-19, guest speakers reside outside Japan will participate via zoom.</p>											
【到達目標】											
<p>This class will give students the tools to map the current state of East Asian cinema and "transculturality" conformed among them, and to develop their original, compelling ideas on those films. All students will strengthen their ability to communicate clearly and make persuasive arguments orally and in writing. We will discuss various films from the PRC, Taiwan, South Korea, and Japan, and students will be assigned to see films outside a classroom due to the limitation of class hours.</p> <p>By the end of this course, students are expected to be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• draw on concepts from Film Studies to analyze a film's narrative and form, not just its content</li> <li>• expand knowledge of issues in Asian and transnational cinemas, and apply critical frameworks, film theories, and historiographical approaches</li> <li>• make original arguments and support them with evidence and a logical chain of reasoning</li> <li>• communicate their ideas clearly in writing, discussions, and oral presentations</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
Week 1-2 Introduction											
----- Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)へ続く -----											

## Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)

---

### Week 3-4

Guest Lecturer: Dr. Yoshinobu Tsuno'o (Assistant Professor of Film Studies, Wako University)

Topic: TBA

Screening: TBA

Readings: TBA

### Week 5-6:

Guest Lecturer: Dr. Tamako Akiyama (Assistant Professor of Chinese Studies, Kanagawa University)

Topic: TBA

Screening: TBA

Readings: TBA

### Week 7-8

Guest Lecturer: Dr. Yutaka Kubo (Associate Professor of American Studies, Kanazawa University)

Topic: TBA

Screening: TBA

Readings: TBA

### Week 9-10

Guest Lecturer: Dr. Kosuke Fujiki (Assistant Professor of Film Studies, Education Department, Okayama University of Science)

Topic: TBA

Screening: TBA

Readings: TBA

### Week 11-12

Guest Lecturer: Dr. Lauri Kitsnik (Associate Professor of Japanese Studies, Hiroshima University)

Topic: TBA

Screening: TBA

Readings: TBA

### Week 13-14

Guest Lecturer: Dr. Fumiko Tsuneishi (Associate Professor of German Studies, Dokkyo University)

Topic: TBA

Screening: TBA

Readings: TBA

### Week 15

Students' presentations on their final papers.

## 【履修要件】

特になし

## 【成績評価の方法・観点】

1. Attendance + Participation 20%

---

Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(3)へ続く

## Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(3)

### 2. Essay Assignment 20%

Write a short paper analyzing one of the reading assignments. Your paper should be comprised of two sections: (1) summarize your chosen material and indicate what idea(s) that you like in the reading material and (2) point out problem(s) of the material, i.e. criticism.

You will submit your assignment in class. 3 page in length is maximum (double space; font 11). No late assignments will be accepted.

### 3. Presentation on your final essay topic 20%

The total length of your presentation is about 20 minutes.

Please come up with a one-page outline of your presentation, make copies of it and provide them to all classmates + me in class.

Evaluations of presentations are based on the following aspects:

- (1) level of thesis (focused, connected with any specific discourse related with our discussions in class, etc.)
- (2) adequate supports (quality of research on the topic, awareness of the existing literature, etc.)
- (3) organization of presentation

### 4. Final Essay 40%

#### [教科書]

授業中に指示する

#### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

#### [授業外学修(予習・復習)等]

The participants are expected to complete all reading materials before they come to our class. The logistic will be explained in the introduction.

#### (その他(オフィスアワー等))

My office hours are TBA.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目77

科目ナンバリング		G-LET36 6JK21 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航 人文科学研究所 准教授 村上 衛 文学研究科 特定助教 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Modern East Asian History									
【授業の概要・目的】											
<p>This course explores Modern East Asian History from transcultural perspectives.            From Session 1 to Session 5: The first section will introduce the history of science and technology in 20th century East Asia.            From Session 6 to Session 9: We will discuss various aspects of the South China Sea in the 19th century.            From Session 10 to Session 14: Modern sports in East Asia have a long history. The sessions provide interesting topics of that history.</p> <p>Study Focus: Knowledge, Belief and Religion; Society, Economy and Governance.            Modules: Mobility &amp; Research 1; Mobility &amp; Research 2; Research 3.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-get a sense of major issues and new approaches to the study of science, technology, and society in East Asia.</li> <li>-further understand society and economy of Modern China from the perspective of maritime history.</li> <li>-develop a good understanding of sports in Modern East Asia.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>Weeks 1-5 ( Ericson)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Introduction</li> <li>• Places of Learning and Experiment</li> <li>• Infrastructure and Everyday Technology</li> <li>• Cultivation "Revolutions": Red, Green, and Blue</li> <li>• Risk and Disaster</li> </ul> <p>Weeks 6-9 ( Murakami)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Opium Trade in the Coastal Area of China before the Opium War</li> <li>• "Traitors" and the Qing Government's Policies toward Coastal Residents of Fujian and Guangdong during the First Opium War</li> <li>• The End of the Coolie Trade in Southern China</li> <li>• Pirates of Fujian and Guangdong and the British Royal Navy</li> </ul> <p>Weeks 10-14 ( Takashima)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Introduction: Girl ' s Baseball in East Asia</li> <li>• The Japanese Empire and Sports</li> <li>• Sports and Masculinities in Japan</li> </ul>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) (2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) (2)

Week 15 Feedback

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

Active participation (30%), short essays (30%), and final essay (40%).  
To JDTS/MATS students: This course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS).  
Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

**【教科書】**

使用しない

**【参考書等】**

(参考書)

Yen Ching-hwang 『Coolies and Mandarins: China's Protection of Overseas Chinese during the Late Ch'ing Period (1851-1911)』 (Singapore University Press)  
Hiromi Mizuno, Aaron S. Moore, John Dimoia, eds. 『Engineering Asia: Technology, Colonial Development, and the Cold War Order』 (Bloomsbury)  
Shellen Wu 『China: How Science Made a Superpower』  
Eiko Maruko Siniawer 『Waste: Consuming Postwar Japan』 (Cornell University Press)  
Sigrid Schmalzer 『Red Revolution, Green Revolution: Scientific Farming in Socialist China』 (University of Chicago Press)  
Yeonsil Kang 『Bodies as Evidence: Activists and Patients Responses to Asbestos Risk in South Korea』 (Science, Technology, and Society (2016))  
Sara Pritchard 『An Envirotechnical Disaster: Nature, Technology, and Politics at Fukushima』 (Environmental History (2012))  
Fairbank, John K 『Trade and Diplomacy on the China Coast: The Opening of the Treaty Ports, 1842-1854』 (Harvard University Press)  
Wakeman, Frederick, Jr. 『Strangers at the Gate: Social Disorder in South China, 1839-1861』 (University of California Press)  
Stefan Huebner 『Pan-Asian Sports and the Emergence of Modern Asia』 (NUS Press)  
Andrew D. Morris 『Marrow of the Nation: A History of Sport and Physical Culture in Republican China』 (University of California Press)

**【授業外学修(予習・復習)等】**

The students are expected to read the assigned materials.

(その他(オフィスアワー等))

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.

オフィスの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目78

科目ナンバリング		G-LET36 6JK21 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 Bjorn-Ole Kamm			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Decisions, Orderings, and the Nation: Japan at Play									
【授業の概要・目的】											
<p>This course deals with leisure and play as matters of concern for politicians and many other actors in and outside Japan. Taking cues from relational materialism and a transcultural approach to studying culture as ordering difference, this course seeks to engage actors who have an ideal narrative about Japan and Japanese culture (e.g., expressed in leisure policies), how they ought to be, and analyzes the decision-making as well as the mechanisms, embodiments, and performances employed to reach that ideal. Such ideals and strategies are always in conflict with other ideals, thus always limited. Of interest are such orderings that actors are able to sustain, and, of course, where they fail.</p> <p>The picture of agents making a move and others a counter move, so that the outcome is not random chaos but that still no one has complete control, the metaphor of society or culture as some kind of game, framing social interactions as a game, asks to be taken seriously. Thus, this class includes a group project of designing a gaming simulation about leisure policies and nation-branding, such as a card game about tourism and taxes or temples and commodification.</p> <p>Study Focus: Knowledge, Belief and Religion; Society, Economy and Governance. Modules: Mobility &amp; Research 1; Mobility &amp; Research 2; Research 3.</p>											
【到達目標】											
<p>First and foremost, students will learn step-by-step protocols for critically reading existing literature and studies, followed by a framework for analyzing cultural phenomena by focusing on describable attempts of ordering (discourses, institutions, embodiments) that produce these phenomena using the example of Japan in a transcultural context.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Course sessions will be held in accordance with the following general structure. A detailed plan for each class will be determined depending on the number of and the feedback from the participants, and will be announced in class. Parts 2 and 3 may be organized as block sessions or held asynchronously with student presentations as videos on demand.</p> <p>(1) Introduction [3 weeks] Lecture on Cultural Studies as the study of ordering modes (theoretical concepts, basic terminology, methodological protocols) and "play" as an object of inquiry, followed by an introduction to debates about the "Japaneseness" of leisure activities in Japanese-language discourse (since the 1960s). Students will further be provided with guidelines for class preparation and exercises.</p> <p>(2) Readings and Discussion [5 weeks] Students will read studies on play, leisure and work taken from different moments in Japanese history (e.g., Meiji Restoration, prewar tourism, postwar income policies, lifestyle superpower, moratorium people or Akihabara redevelopment) to present and discuss these readings in class. The focus lies on the question if -- and how -- these readings exemplify studies of ordering modes and how different approaches may lead to</p>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											



## Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)

different conclusions.

(3) Exercises [6 weeks]

Building on the previous sessions and depending on the number of participants, students will formulate and conduct exercises on current issues in Japan in which play is ordered and managed. In a group project they will develop gaming simulations to understand cases of ordering.

(4) Conclusion and Feedback [1 week]

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

All students: Homework (20%), exercise and presentation script (50%), feedback (10%), active participation (20%). For a full seminar (8 ECTS): An additional research paper (counting 30% of the overall grade).

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)

The course materials as well as lecture slides will be made available via the course webpage.

The course takes guiding cues from

Kendall, Gavin, and Gary Wickham. 2001. *Understanding Culture: Cultural Studies, Order, Ordering*. London, Thousand Oaks: Sage.

Law, John. 1994. *Organizing Modernity*. Oxford: Blackwell.

Leheny, David. 2003. *The Rules of Play: National Identity and the Shaping of Japanese Leisure*. Ithaca: Cornell University Press.

Reading these books is not mandatory but the course will reference certain points of their discussion.

### 【授業外学修（予習・復習）等】

Regular homework as well as exercises will play an important role in this course. Participants need to prepare one reading before each class session and are asked to write short comprehension essays afterwards, both of which will require at least one hour. Participants present at least one topic in class, which also necessitates preparation out of class.

### （その他（オフィスアワー等））

Consultation (office hours) by appointment. The course webpage will be available to download the course material.

Please contact the instructor Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目79

科目ナンバリング		G-LET36 6JK21 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定助教 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Historical Seminar: Animals and Borders									
【授業の概要・目的】											
<p>This seminar introduces students to issues related to the historical study of animals. Animal history and the wider category of animal studies are areas of increased academic and popular interest, yet both encompass a wide range of approaches. In this course, we will examine persistent historical problems: defining (human and non-human) animals, living alongside them, working with them, fighting against them, memorializing them, and eating them. The course will make use of the explosive growth in English-language studies of animals in and around the Japanese archipelago. In so doing, it will allow students to consider how human-animal relationships have changed alongside political, cultural, and economic developments in Japan, East Asia, and the Pacific Ocean world.</p> <p>Classes will include discussion of books, articles, and films. The final project asks students to research the regional and transnational histories of institutions, spaces, and practices related to animals in the Kyoto area.</p>											
【到達目標】											
<p>After this course, students should:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* better understand the methods, problems, and assumptions of animal history</li> <li>* undertake individual field and archival research</li> <li>* communicate ideas during in-class discussion and through written reports</li> </ul> <p>Study Focus: Society, Economy and Governance. Modules: Mobility &amp; Research 1; Mobility &amp; Research 2; Research 3.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Course Outline</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Why (and How) Do We Look at Animals?</li> <li>3. Naming Nature</li> <li>4. Domestication</li> <li>5. Animal Actors</li> <li>6. Creatures of Empire</li> <li>7. Invasive Species</li> <li>8. Species, Breed, Race</li> <li>9. Disease</li> <li>10. What is a Zoo?</li> <li>11. Knowing Animals</li> <li>12. The Sea</li> <li>13. Conservation and Rewilding</li> <li>14. Extinction</li> </ol>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)

15. Presentations/Feedback

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

Attendance, participation, reading responses, and presentations in class (30%), short book analyses (30%), and final research project and project presentation (40%).

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

**【教科書】**

授業中に指示する

At least one copy of the books will be available in the library and through the university's online subscriptions, although in some cases (particularly during the weeks where you are responsible for presenting) it may be advisable to purchase a new or used copy for yourself.

In other cases, articles will be available for download through the university library or distributed before class.

**【参考書等】**

(参考書)

授業中に紹介する

**【授業外学修（予習・復習）等】**

- Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions and presentations each week.
- Students are expected to actively participate in preparations for the final project.

**（その他（オフィスアワー等））**

- Office hours will be held once a week at a fixed time (to be determined) and by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目80

科目ナンバリング		G-LET36 6JK21 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究所 特定准教授 TAJAN , Nicolas Pierre			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Transcultural Psychiatry									
【授業の概要・目的】											
<p>Psychology and psychiatry have often been criticized for not considering cultural dimensions of mental distress. This course introduces transcultural psychiatry, a discipline that carefully questions taken-for-granted ways of organizing knowledge related to mental distress with respect to cultural differences.</p> <p>The course is divided into 3 sections of 4 classes. First, transcultural psychiatry 's history, principles, and methods are detailed. Second, we focus on cultural assessments such as the Cultural Formulation Interview (CFI), and the McGill Illness Narratives Interview (MINI). Third, we explain applications to mental health including insights on migrants and disasters, and offer a Psychological First Aid training. The approach is integrative: it combines most recent psychiatric definitions, psychopathological and anthropological understanding of human distress. Students are encouraged to discuss articles, videos and case studies studied in class.</p> <p>The course is also unique opportunity to receive a practical training in Psychological First Aid including role playing (classes 12 and 13), inspired by the World Health Organization most recent guidelines.</p> <p>By the end of this course, students will know how mental distress is assessed in various cultural contexts, and how psychological first aid in situations such as natural disasters, and other catastrophes, is provided in contexts where people also have to navigate cultural differences.</p>											
【到達目標】											
<p>To help you develop your analytical and critical thinking regarding mental distress in a variety of social and cultural contexts.</p> <p>To provide you with a general introduction to and understanding of key questions and challenges in transcultural psychiatry.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Transcultural Psychiatry 1/4: History and Scope</li> <li>3. Transcultural Psychiatry 2/4: Pioneers</li> <li>4. Transcultural Psychiatry 3/4: The Cultural Concept of the Person</li> <li>5. Transcultural Psychiatry 4/4: Culture and Illness</li> <li>6. Cultural Assessment 1/4: Illness Narratives</li> <li>7. Cultural Assessment 2/4: McGill Illness Narrative Interview</li> <li>8. Cultural Assessment 3/4: Cultural Concepts of Distress</li> <li>9. Cultural Assessment 4/4: Cultural Formulation Interview</li> <li>10. Culture and Mental Health 1/4: Working with Refugees and Migrants</li> </ol>											
											Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)へ続く

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)

11. Culture and Mental Health 2/4: Working in Disaster Areas
12. Culture and Mental Health 3/4: Psychological First Aid I
13. Culture and Mental Health 4/4: Psychological First Aid II
14. Conclusions
15. Feedback

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Short tests (30%): Multiple choice questionnaire (15 questions, 1 response to choose among 3 possibilities) lasting 10 minutes at the beginning of classes 6 and 10.  
Participation and attitude (30%).  
Final test (40%): Multiple choice questionnaire.  
Graduate students are allowed to write a term paper (ca. 4-5,000 words) to take this course for 8 ECTS.  
Graduate students submit the term paper in addition to taking the test.

【教科書】

Relevant material is distributed in class

【参考書等】

(参考書)

- Bhugra et al. (2011) WPA Guidance on Mental Health and Mental Health Care in Migrants World Psychiatry, 10:2-10
- Delille E and Crozier I (2018) History of Psychiatry, Special issue Historicizing Transcultural Psychiatry, Vol. 29, Issue 3, Number 115. Sage publications.
- Grolleau D, Kirmayer L, Young A (2007) McGill Illness Narrative Interview. <https://www.mcgill.ca/tcpsych/research/cmhr/mini>
- Halpern J and Vermeulen K (2017) Disaster Mental Health Interventions. Core principles and practices. Routledge.
- Halpern J, Nitza A, and Vermeulen K (2019) Disaster Mental Health Case Studies. Lessons learned from counseling in Chaos. Routledge.
- Human Rights Watch (2016) Living in Hell. Abuses against People with Psychosocial Disabilities in Indonesia. <https://www.hrw.org/report/2016/03/20/living-hell/abuses-against-people-psychosocial-disabilities-indonesia>
- Kirmayer (2007) Psychotherapy and The Cultural Concept of the Person, Transcultural Psychiatry, vol 44 (2) 232-257.
- Kirmayer L and Pedersen D (2014) Toward a new Architecture for Global Mental Health, Transcultural Psychiatry, vol 51 (6) 759-776.
- Kleiman A (1988) The Illness Narratives. Suffering, Healing and the Human Condition. Basic books.
- Lewiz-Fernandez R et al. (2016) DSM-5 Handbook on the Cultural Formulation. American psychiatric Publishing.
- Patel V (2014) Why Mental Health matters to global health, Transcultural Psychiatry, vol 51 (6) 777-789.
- Summerfield D (2014) Against Global Mental Health, Transcultural Psychiatry, vol 49 (3-4) 519-530.
- Wen Shing Tseng (2001) Handbook of Cultural Psychiatry. Academic Press.

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(3)

( 関連 U R L )

<https://www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp>

**[授業外学修 ( 予習 ・ 復習 ) 等]**

Students have weekly reading assignments (not exceeding one page per week). Students are advised to take notes during class and to review the course material before short test 1 and 2, and final test.

**( その他 ( オフィスアワー 等 ) )**

Friday (12:30-13:00)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目81

科目ナンバリング		G-LET36 6JK21 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定助教 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期不定	曜時限	その他	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Transnational Japanese History Seminar: Migration, Labor, and Environment									
【授業の概要・目的】											
<p>This seminar-style course introduces students to recent approaches to the transnational study of Japanese history. In fall 2021, our focus will be on issues of migration, labor, and the environment. We will read about the history of diaspora and settler colonialism while delving into more intensive study of places beyond what might form the typical geographic focus of a course on Japanese history. In addition, the seminar is set up to be an interactive, hands-on introduction to ways of doing historical research in multi-lingual archives. A major feature of this course is its collaborative format, which will bring students at Kyoto University into direct conversation with students working in parallel on topics in transnational Japanese history at Zurich University.</p>											
【到達目標】											
<p>By the end of the course, students will:</p> <p>Better understand recent trends in the study of transnational Japanese history, particularly with regard to the history of migration, labor, and the environment.</p> <p>Have greater familiarity with the process of multi-lingual historical research. This includes ways of finding sources, reading them, forming arguments, and addressing ongoing academic debates.</p> <p>Improve their ability to express themselves in speech and in writing.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1: Introduction            Week 2: Approaches to Diaspora and Settler Colonialism            Week 3: Settler Colonialism in the Japanese Empire            Week 4: Diaspora and Settler Colonialism beyond the Empire            Week 5: Hawaii**            Week 6: Singapore**            Week 7: The World of the Arafura Sea**            Week 8: Central and South America**            Week 9: The North American Pacific Northwest**            Week 10: Returning to Categories of Diaspora and Settler Colonialism            Weeks 11-13: Working on Individual Research Projects: Consultations and Peer Review            Weeks 14-15: Final Presentations</p>											
<p>** These meetings will involve hands-on discussion and collaborative assignments with Zurich University students. Due to time differences, the goal is to hold these classes in the evening starting at 18:00. Please keep this in mind.</p>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											

## Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)

(Please note that the precise order of topics is subject to change.)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Evaluations will be based on attendance (20%), discussion participation (20%), reading responses (20%), and a final research paper (40%).

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

### 【教科書】

Most readings will be supplied as PDF files. Additional books will be available in the library.

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

This course is open both to undergraduate and graduate students, but please note that the course will feature a substantial amount of discussion in English. If you have any questions about the course please contact the instructor.

### (その他(オフィスアワー等))

Weekly office hours will be held along with individual consultations by request.

Please be aware that the current plan is to hold 5 of the course meetings in the evening starting at 18:00 to coordinate with students at Zurich University. Please refer above to the course plan and let the instructor know if you have any additional questions or concerns.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



大学院共通科目82

科目ナンバリング		G-LET36 6JK23 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 准教授 文学研究科 助教 文学研究科 助教		吉井 秀夫 下垣 仁志 富井 眞 内記 理	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		East Asian Origins: Ancient History and Material Culture									
[授業の概要・目的]											
<p>In this special lecture, we offer an overview of various archaeological studies about the prehistoric and ancient East Asia, with the results of our researches and studies. We also examine the characteristics of the archaeological studies of the East Asia in Japan, by comparison of the studies in Europe and the US. The department of archaeology in Kyoto University has excavated archaeological sites in Japan, Korea, and China, and has gathered various artifacts from all areas of the world. These archaeological data will be introduced in this special lecture.</p> <p>Study Focus: Visual, Media and Material Culture; Knowledge, Belief and Religion. Modules: Mobility &amp; Research 1; Mobility &amp; Research 2; Research 3.</p>											
[到達目標]											
By the end of this special lecture, student will get familiar with the artifacts of East Asia, and have general understanding of the issues about the prehistoric and ancient archaeology in East Asia.											
[授業計画と内容]											
<p>This special lecture will be offered in accordance with the following general structure. The detailed plan for each class will be announced in the introduction.</p> <p>1 Introduction (1 week)Hideo Yoshii Introduction of the special lecture.</p> <p>2 History of the East Asian archaeology in Japan (3weeks)Hideo Yoshii This section will outline the history of archaeological investigations, studies and gathering artifacts in Japan, Korea and China by Japanese archaeologists,</p> <p>3 Prehistory in Japan (3weeks)Makoto Tomii This section will outline the history of the study of Japanese prehistory, and focuses on the material culture of Mesolithic (called “ Jomon ” period) as well as Paleolithic and Early Neolithic, with showing some researches to exploit the potential for contributing to the world prehistory.</p> <p>4 Archaeology of daily life cultures in prehistoric and ancient Japan(3weeks)Hitoshi Shimogaki This section will outline prehistoric and ancient daily life cultures (clothes, foods and toilet) from structural remains and artifacts excavated in Japan.</p> <p>5 The Eastward Transmission of Buddhist Culture from Archaeological Perspective (3weeks)Satoshi Naiki In order to assemble knowledge about “ origins ” of Buddhist culture, Kyoto University has conducted</p>											
										Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Lecture) (2)へ続く	

**Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Lecture) (2)**

researches in Buddhist sites in China and Central Asia. In the lectures, how Buddhist cultures were transferred into East Asia will be discussed on the basis of archaeological information obtained by Kyoto University.

6 Discussion (1 week)Hideo Yoshii

7 Feedback(1week)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

Attendance and participation: 40%, Course Essay:60%

**【教科書】**

使用しない

Not used

**【参考書等】**

(参考書)

授業中に紹介する

To be announced in class

**【授業外学修（予習・復習）等】**

The participants are expected to spend a certain amount of time outside of this class reading the reference papers and books announced in class.

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目83

科目ナンバリング		G-LET36 7JK24 SE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Colloquim) Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Colloquim)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Book Reading and Discussion on Japanese Thoughts and Culture: Japanese Traditional Drama, Two Plays by Chikamatsu Monzaemon									
【授業の概要・目的】											
<p>This Book Reading and Discussion course explores various aspects of Japanese thoughts and culture by reading Japanese Classics in English translation and discussing them in English. In this academic term participants will discuss Chikamatsu Monzaemon (1653-1725)'s two /sewamono/ ("the lives of ordinary people") plays written in his late years: /Shinju Ten no Amijima/(/The Love Suicides at Amijima/, 1721) and /Shinju Yoi Goshin/ (/Love Suicides on the Eve of the Koshin Festival/, 1722). Chikamatsu is arguably the most celebrated dramatist in Japan, who wrote many memorable and highly artistic plays for Ningyo-Joruri, or puppet drama, and Kabuki, or dance-drama, performance. Specifically, he is supposed to be the first dramatist in the world who staged common people as the protagonists of tragedies. As is often the case with his /sewamono/ plays, both /Shinju Ten no Amijima/ and /Shinju Yoi Goshin/ are based on the real incidents that happened in Chikamatsu's lifetime.</p> <p>The main purpose of this course is to provide occasions for communication between Japanese and international students, in a friendly atmosphere. By actively participating in discussions Japanese students will improve their English communication skills, and international students will deepen their understanding of Japanese culture.</p>											
【到達目標】											
By the end of the term students should gain some basic understanding of Ningyo-Joruri and Kabuki, and become confident in talking about Japanese culture in English.											
【授業計画と内容】											
<p>The plan of the course is as follows:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Reading /Shinju Ten no Amijima/ (1) Act 1</li> <li>3. Reading /Shinju Ten no Amijima/ (2) Act 1</li> <li>4. Reading /Shinju Ten no Amijima/ (3) Act 2</li> <li>5. Reading /Shinju Ten no Amijima/ (4) Act 2-3</li> <li>6. Reading /Shinju Ten no Amijima/ (4) Act 3</li> <li>7. Reading /Shinju Ten no Amijima/ (5) Review</li> <li>8. Reading /Shinju Yoi Goshin/ (1) Act 1</li> <li>9. Reading /Shinju Yoi Goshin/ (2) Act 1-2</li> <li>10. Reading /Shinju Yoi Goshin/ (3) Act 2</li> <li>11. Reading /Shinju Yoi Goshin/ (4) Act 3</li> <li>12. Reading /Shinju Yoi Goshin/ (5) Act 3</li> <li>13. Reading /Shinju Yoi Goshin/ (6) Review</li> <li>14. General discussion on Chikamatsu's works</li> </ol>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Colloquim)(2)へ続く -----											

Research 1-3-Seminar (KBR/VMC)(Colloquim)(2)

15. Feedback

Our discussion in each session will concentrate on a particular section indicated above.

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

At the end of the term students will be asked to write an essay about /Shinju Ten no Amijima/ and /Shinju Yoi Goshin/ (3,000-5,000 words). Students' grades will be weighed according to the following scheme:

Active participation in discussion 50%

Course Essay 50%

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as full seminar (8 ECTS) only.

**【教科書】**

授業中に指示する

Copies of the reading materials will be provided at the introductory session.

**【参考書等】**

(参考書)

Keene, Donald (tr.) 『Major Plays of Chikamatsu/.』 (New York, Columbia University Press, 1990)

Gerstle, Andrew (tr.) 『Chikamatsu: 5 Late Plays/.』 (New York: Columbia University Press, 2001.)

『Chikamatsu Zenshu/ 17 vols.』 (Tokyo: Iwanami Shoten, 1985-1994.)

Tsuchida, Mamoru (ed.) 『Joruri Shu/ (Shincho Nihon Koten Shusei).』 (Tokyo: Shincho Sha, 1985.)

Hitoshi, Matsuzaki et al. (ed.) 『Chikamatsu Joruri Shu/ (Shin Nihon Koten Bungaku Taikei).』 (Tokyo : Iwanami Shoten, 1995.)

**【授業外学修(予習・復習)等】**

Students will be asked carefully to read the materials for the class in advance and come prepared to discuss them. Every student is expected to raise at least one point that is worth discussing in the class.

**(その他(オフィスアワー等))**

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Consultation (office hours) by appointment. The course webpage will be available to download the course material.

Please contact Atsushi Hayase <hayase.atsushi.7n@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目84

科目ナンバリング		G-LET36 7JK26 SE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquim) Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquim)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 Bjorn-Ole Kamm			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Actors, Processes, and Networks: Studying (Sub-) Cultural Practices									
【授業の概要・目的】											
<p>Research into (sub-) cultures, for example fan studies, often focuses either on content or on the communities of fandom, at times essentialising involved persons or drawing borders around things that are highly interconnected and dynamic. Cultural practices, however, are performative, meaning that they exist through “doing,” through recreating, tracing the network of involved human and also non-human elements. With a focus on doing, transforming, and ordering, this course borrows from Wittgenstein, Foucault, Butler, Schatzki and Reckwitz but favours the heuristic device of the network: Practices are drawn as networks that have gained a certain durability that makes them recognisable for others with the consequence that they can be spoken about and be treated as a resource when doing the practice. A practice-as-network consists of interdependent material and non-material elements that encompass bodies, body parts, bodily movements, materials or things, practical knowledge or know-how/competences, and concepts/theoretical knowledge of the practice. Practices-as-networks are recursive: With each performance, the network is slightly reconfigured. With the example practice-as-network often abridged as role-playing games, this course introduces students to a (trans-) cultural studies approach of practices, actors and processes.</p>											
【到達目標】											
<p>Building on a Wittgensteinian approach to cultural practices, students will acquire knowledge and skills in how developing a matching research design for studies sensitive to the role of actors and materials alike. They will be introduced to theories of agency, networks, and practices on a general level, and learn about their concrete application with the example of non-digital role-playing games, focusing on games in and from Japan but in a global context.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Course sessions will be held in accordance with the following general structure. A detailed plan for each class will be determined depending on the number of and the feedback from the participants, and will be announced in class. Student presentations may be organized as block sessions or as videos on demand followed by discussion.</p> <p>The first sessions introduce students to actor, network, and practice theories as well as the case subject, role-playing games. Students will further be provided with guidelines for class preparation and exercises. Subsequent sessions look at the transcultural history of role-playing game practices, at game design theories, such as the Big Model, discussions about inclusion and exclusion among player groups, and detail tools for practice-oriented studies at home in the qualitative social sciences and engaging online as well as offline spheres of interaction.</p>											
----- Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquim)(2)へ続く -----											

Research 1-3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquim)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.  
Students will have much flexibility in gaining points through various tasks they need to fulfill during the semester, such as actively guiding the discussion, translating course material into their own understanding, or presenting a topic in class. Evaluation depends on the number of fulfilled quests. For 8 ECTS, however, the term paper dungeon needs to be cleared.

**【教科書】**

Fine, Gary Alan. 1983. 『Shared Fantasy: Role-Playing Games as Social Worlds』 ( Chicago: University of Chicago Press )  
Foucault, Michel. 1991 『The Foucault Effect』 ( Chicago: University of Chicago Press )  
Kamm, Bjorn-Ole. 2020. 『Role-Playing Games of Japan: Transcultural Dynamics and Orderings』 ( New York: Palgrave Macmillan )  
Latour, Bruno. 2005. 『Reassembling the Social. An Introduction to Actor-Network-Theory』 ( Oxford: Oxford University Press )  
Law, John, and Annemarie Mol, eds. 2002. 『Complexities: Social Studies of Knowledge Practices』 ( Durham: Duke University Press )  
Schatzki, Theodore R. 1996. 『Social Practices: A Wittgensteinian Approach to Human Activity and the Social』 ( Cambridge: Cambridge University Press )  
Zagal, Jose Pablo, and Sebastian Deterding, eds. 2018 『Role-Playing Game Studies: Transmedia Foundations』 ( New York: Routledge )  
Excerpts will be provided in class.

**【参考書等】**

( 参考書 )  
授業中に紹介する  
The course materials as well as lecture slides will be made available via the course Panda webpage.

**【授業外学修（予習・復習）等】**

Regular homework as well as exercises will play an important role in this course. Participants need to prepare one reading before each class session and are asked to write short comprehension essays afterwards, both of which will require at least one hour. Participants present at least one topic in class, which also necessitates preparation out of class.

**（その他（オフィスアワー等））**

Consultation (office hours) by appointment. The course webpage will be available to download the course material.  
Please contact Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目85

科目ナンバリング		G-LET36 7JK27 SJ36									
授業科目名 <英訳>		Research 2-Advanced Japanese Research 2-Advanced Japanese				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 田中 草大			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Reading Japanese academic texts									
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<p>This course is aimed to develop your skills to read academic articles written in Japanese, including classical Japanese.</p> <p>Each participant chooses a paper as they like, and tries to "read" it (including how to pronounce each kanji). Participants are supposed to help each other to understand texts.</p>											
<b>[到達目標]</b>											
<p>The goals of this course are to:</p> <p>(1) be get a skill to collect information to read academic Japanese.</p> <p>(2) with THAT skill be able to read Japanese academic papers.</p>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
<p>(1) Introduction</p> <p>(2) Instruction: Selection of papers / How to prepare for presentation</p> <p>(3-14) Presentations</p> <p>(15) Exams and Feedback</p>											
<b>[履修要件]</b>											
<p>1. Non-Japanese native students.</p> <p>2. With a comprehension of Japanese.</p>											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
<p>Usual performance score (e.g. preparation for classes, discussion during classes): 70%</p> <p>Exams: 30%</p> <p>[JDTS/MATS students] This course can be taken as reduced seminar (4 ECTS) only.</p>											
<b>[教科書]</b>											
None. Reading materials will be provided.											
<b>[参考書等]</b>											
<p>(参考書)</p> <p>Will be introduced in classes.</p>											
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>											
To read papers introduced in classes.											
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

大学院共通科目86

科目ナンバリング		G-LET36 7JK29 SE36									
授業科目名 <英訳>		Research 3&MA Thesis-Research Colloquium Research 3&MA Thesis-Research Colloquium				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 Mitsuyo Wada-Marciano 文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev 文学研究科 准教授 安里 和晃 文学研究科 講師 Bjorn-Ole Kamm 文学研究科 講師 田中 草大			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期不定	曜時限	その他	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Research Colloquium									
[授業の概要・目的]											
<p>During the Research Colloquium students develop, present, and discuss their research plans in front of their supervisors and fellow students. Furthermore, writing samples from the master's thesis are presented and discussed. This regular feedback will facilitate a structured completion of the thesis.</p> <p>In the master's thesis students apply relevant methodologies and theories of Transcultural Studies, as well as linguistic competences, regional knowledge, and project management skills to a research project of their own design and in line with the chosen study focus. In consultation with their supervisor, students develop a specific research question and select relevant methods and research material. They contextualize their project within the state of the art of scientific debates and present their findings in written academic English.</p> <p>Study Focus: all. Modules: Research 3; Master's Thesis.</p>											
[到達目標]											
Students will learn to independently design and realise a research project (research question, line of argumentation etc.). They will gain the ability to relate and critically discuss complex research issues within the field of Transcultural Studies. Additionally, they will acquire advanced time and project management skills.											
[授業計画と内容]											
<p>The respective supervisor of the master's thesis will guide the students in choosing their research question and in the concrete planning of their projects. Depending on the number of students and the needs of the group, each course week is either devoted to the discussion of a particular theory or methodology (which will be based on readings out of class), or offers the students a space to present the current status of their master's theses (one session can allow for one to two presentations).</p> <p>The concrete schedule will be determined in the first session of the course.</p>											
[履修要件]											
Completion of modules "Introduction to Transcultural Studies," "Skills for Transcultural Studies," "Focus 1" and "Focus 2" (Master Program in Transcultural Studies).											
[成績評価の方法・観点]											
Presentation (40%), discussion (40%), active participation (20%).											
----- Research 3&MA Thesis-Research Colloquium (2)へ続く -----											



Research 3&MA Thesis-Research Colloquium (2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

The participants are expected to spend a certain amount of time outside of this class for this course. The planning of the master's thesis, in-class presentations and discussions will play an important role in this course, so the preparation of presentations and literature as well as the review of feedback received during the class requires at least about an hour.

**(その他(オフィスアワー等))**

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Consultation (office hours) by appointment.

Please contact the respective thesis supervisor for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目87

科目ナンバリング		G-LET36 7JK29 SE36									
授業科目名 <英訳>		Research 3&MA Thesis-Research Colloquium Research 3&MA Thesis-Research Colloquium				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 Mitsuyo Wada-Marciano 文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev 文学研究科 准教授 安里 和晃 文学研究科 講師 Bjorn-Ole Kamm 文学研究科 講師 田中 草大			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期不定	曜時限	その他	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Research Colloquium									
[授業の概要・目的]											
<p>During the Research Colloquium students develop, present, and discuss their research plans in front of their supervisors and fellow students. Furthermore, writing samples from the master's thesis are presented and discussed. This regular feedback will facilitate a structured completion of the thesis.</p> <p>In the master's thesis students apply relevant methodologies and theories of Transcultural Studies, as well as linguistic competences, regional knowledge, and project management skills to a research project of their own design and in line with the chosen study focus. In consultation with their supervisor, students develop a specific research question and select relevant methods and research material. They contextualize their project within the state of the art of scientific debates and present their findings in written academic English.</p> <p>Study Focus: all. Modules: Research 3; Master's Thesis.</p>											
[到達目標]											
Students will learn to independently design and realise a research project (research question, line of argumentation etc.). They will gain the ability to relate and critically discuss complex research issues within the field of Transcultural Studies. Additionally, they will acquire advanced time and project management skills.											
[授業計画と内容]											
<p>The respective supervisor of the master's thesis will guide the students in choosing their research question and in the concrete planning of their projects. Depending on the number of students and the needs of the group, each course week is either devoted to the discussion of a particular theory or methodology (which will be based on readings out of class), or offers the students a space to present the current status of their master's theses (one session can allow for one to two presentations).</p> <p>The concrete schedule will be determined in the first session of the course.</p>											
[履修要件]											
Completion of modules "Introduction to Transcultural Studies," "Skills for Transcultural Studies," "Focus 1" and "Focus 2" (Master Program in Transcultural Studies).											
[成績評価の方法・観点]											
Presentation (40%), discussion (40%), active participation (20%).											
----- Research 3&MA Thesis-Research Colloquium(2)へ続く -----											

Research 3&MA Thesis-Research Colloquium(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

The participants are expected to spend a certain amount of time outside of this class for this course. The planning of the master's thesis, in-class presentations and discussions will play an important role in this course, so the preparation of presentations and literature as well as the review of feedback received during the class requires at least about an hour.

**(その他(オフィスアワー等))**

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.  
Consultation (office hours) by appointment.  
Please contact the respective thesis supervisor for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目88

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		Research 2-Advanced English Research 2-Advanced English				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定助教 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		Weekly Writing Practicum: English for Historians									
【授業の概要・目的】											
<p>This course will introduce graduate students to different approaches to the craft of historical writing in English. Topics to be covered include grant/fellowship proposal writing, journal article submissions, and academic presentations. The central concern is to hone the historian's most important skill for international communication: the writing of clear, persuasive, and gripping English-language prose. As noted below, there are multiple reasons for taking this kind of course.</p> <p>(Students from different research backgrounds are likely to participate. Thus, depending on student preferences, in-class discussion can be in English, Japanese, or a combination thereof.)</p>											
【到達目標】											
<p>Objectives for the course include:</p> <p>Preparing and delivering a spoken conference-style presentation.</p> <p>Writing a short research proposal for an overseas fellowships.</p> <p>Identifying concrete steps for submitting your research to English-language journals (as well as, of course, working to improve your writing in general).</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The precise outline of the course will be determined in concert with student preferences. Here is one possible format:</p> <p>Week 1: Introduction            Week 2: The Craft of History Writing            Week 3: Identifying Your Research Goals            Weeks 4-6: Preparing a Research Proposal with Peer Review Feedback            Week 7: Mini-presentation of Research Proposals            Weeks 8-11: Working on a Longer Paper Topic            Weeks 12-14: Developing Presentations and Peer Review Feedback on Papers            Week 15: Final Presentations</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Evaluation will consist of the following components:</p> <p>Attendance, assignments, peer-review assessments, and discussion 40%</p> <p>Shorter in-class presentations and final presentation 20%</p> <p>Final paper 40%</p>											
----- Research 2-Advanced English (2)へ続く -----											

## Research 2-Advanced English (2)

---

This course is intended for graduate students with interests in historical research. Registration is capped at 8 students in order to ensure plenty of time for individualized discussion and feedback.

### **[教科書]**

使用しない

### **[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

### **[授業外学修(予習・復習)等]**

Please be sure to make time to prepare the written and oral assignments outside of class.

### **(その他(オフィスアワー等))**

Office hours will be determined at the beginning of the course.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目89

科目ナンバリング		G-LET49 79829 SB36									
授業科目名 <英訳>		Heidelberg-Strasbourg Student Workshop				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 Bjorn-Ole Kamm 文学研究科 特任教授 Sandra Schaal			
配当 学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 後期不定	曜時限	その他	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		Heidelberg-Strasbourg Student Workshop on Transcultural Topics									
【授業の概要・目的】											
<p>Each year, the Kyoto University Graduate School of Letters sends a student delegation to its partners in Europe, Heidelberg University and Strasbourg University. At each partner university, the students will come together with researchers and fellow students of the Japanese Studies department (Strasbourg) and the Master in Transcultural Studies (Heidelberg) to hold joint workshops about a given topic of historical and contemporary concern. Kyoto University GSL students currently studying in Heidelberg are invited to join this program.</p> <p>In the previous years, topics included “ Nationalism in the Era of Globalization, ” “ Peace and Conflict in Asia and Europe ” and will continue to explore questions of transculturality in and between Asia and Europe. The purpose of the two joined workshops is to engage with academic background talks by senior researchers, followed by an exchange of ideas with fellow students concerning cultural negotiation and transculturation. Students will deepen their understanding about the dynamics of transculturality and cultural exchange by studying policies, social movements but also representations in art and literature, and by expressing their own thoughts in talks.</p> <p>Additionally, students will visit institutions, museums of Heidelberg and Strasbourg to learn about the history and current affairs of the cities where the partner universities are located.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will acquire competence in writing, presenting, and discussing an English-language paper that relates to the topic of the workshops. They will gain practice in commenting and critiquing other papers to assist each other in giving and receiving constructive feedback. Furthermore, students will gain knowledge about EU institutions, French and German history, and the history of partner universities.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The course will be offered in accordance with the following general structure. A detailed plan will be determined during the preparation weeks for the student delegation (December to January).</p> <p>In Heidelberg:          * Guidance [1 hour].          * Field research at the Documentation and Culture Center of German Sinti and Roma [2 hours].          * One-day student workshop [6 hours].</p> <p>In Strasbourg:          * Guidance [1 hour].          * Field research at an institution of the European Union, e.g. parliament [2 hours].          * Student workshop [3 hours].</p>											
											Heidelberg-Strasbourg Student Workshop(2)へ続く

## Heidelberg-Strasbourg Student Workshop(2)

The students are asked to prepare readings for the workshops from December when they are announced by the instructor. By the end of January, they need to submit a presentation file (PowerPoint or Keynote) and a draft of their script.

The actual workshops will take place in the first week(s) of February.

Note: Depending on the schedule, parts of the visits may fall within Heidelberg University 's lecture period. The program will be scheduled so that it does not interfere with regular classes.

### 【履修要件】

Completion of module "Introduction to Transcultural Studies." Mainly for first-year student of Joint Degree M. A. Program in Transcultural Studies.

### 【成績評価の方法・観点】

Presentation during the workshops (80%), active participation in discussions (20%).

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Participants need to prepare the readings designated for the workshop topic and prepare a 20-minute paper.

### (その他(オフィスアワー等))

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Consultation (office hours) by appointment. The course webpage will be available to download the course material.

Please contact Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。